

# 大詔奉戴日の設定

皇國の隆替と東亞の興廢とを決すべき大東亞戦争の輝やかしい展開に伴ひ國民運動も亦飛躍的發展をなすべきが當然であります。そこで政府は大東亞戦争第二年一月二日の初閣議で從來の興奉奉公日を廢して新に毎月八日を大詔奉戴日とする事となりました。これは宣戰の大詔を頒發あらせられた日を學國戦争完遂の源泉たらしめる日とし、大詔の大御心を奉戴して全國官民各々その職務に奉行し、その本分を盡し以て盡忠報國の赤誠を捧げ聖旨に應へ奉らんとするものであります。左の實施要項により一月から直ちに實施されましたが今後、大詔奉戴日運用の中樞機關には大政翼賛會が當り毎月の實施項目は同會が政府と密接な聯絡によつて設定することになつて居ります。

## 大詔奉戴日實施要項

一、方針 大東亞戦争完遂ノタメ必勝ノ國民士氣昂揚ニ重點ヲ置キ健全明朗ナル積極面ヲ發揮スルコト

二、實施項目

(一) 詔書奉讀 官公衙、學校、會社、工場等ニ於テハ詔書奉讀式ヲ行フコト

(二) 必勝祈願 神社、寺院、教會等ニ於テハ必勝祈願ノ行事ヲ行フコト但シ一般ノ氏子信徒ニ對シテハ其ノ職場ニ於テ祈願セシムルモノトシ殊更ニ祭式ニ參列ヲ強制セザルコト

(三) 國旗掲揚 各戸ニ於テハ國旗ヲ掲揚スルコト

(四) 職域奉公 各自職域ノ奉公ニ勵精シ殊更ニ當日ヲ休業トスル如キハ採ラザルコト

(五) 其ノ他ノ國民運動 其ノ他ノ國民運動ノ項目ハ大政翼賛會ニ於テ本方針ニ基キ隨時決定スルコト

三、備考 工場等ニ於テハ殊更出勤校セル場合當日業ヲ休ム官公衙、學校、會社、民トシテ當日ヲ意義アラシムルヤウ措置スルコト

## 二月の徹底事項

- 一、大詔奉戴日の主旨徹底
- 二、防空の強化、促進
- 三、長期戦争經濟への協力
- 四、軍人援護の強化徹底

# 廣島市報

號九十五百第

刷印日九十月一年七十和昭  
行發日十二月一年七十和昭  
錢五金部一價定  
所役市島廣 所行發  
所市島廣 所入行發  
所版活第兄田地式株會 所刷印  
地番一日丁七町手大市島廣  
地番一日丁七町手大市島廣  
地番一日丁七町手大市島廣

## お願ひ

「市報は」市民と市役所を繋ぐ大切な機關であります。このため市では各町内會長を通じて全市の隣組長に行きわたるやう配布を願つて居ります。何卒各隣組では漏れなく御回覽下さい。

(係)

## いさ下印捺にこ・覽回くなれ洩戸一

すまひ願様つ立に役御の組隣や會内町は白餘

いさ下せか聞おどな望希御のへ報市や驗體御の營運會常



### 衛生組長異動

昭和十六年十二月

組合名役名前任者 後任者  
西蟹屋本通長末好 保之 荒井 靜人

### 主要目次

- 大詔奉戴日の設定 九七
- 町内會正副會長異動 九八
- 衛生組長異動 九八
- 配給だより 九八
- 水道栓凍結防止 九八
- 名譽の戦死者 九八
- 一月は市民税の納期 九八
- （體験を語る）隣組防火 九八
- チフス警戒 九八
- 傳染病發生月報 九八
- 準備管制とは 九八
- 鋪裝路撤水は危険 九八
- 壽命の短い日本婦人 九八
- 灰も時局に御奉公 九八
- 春の野菜作り 九八
- 企業許可令に就て 九八
- 告示 九八
- 段末廣町 副 益本 哲穂 益本 哲穂
- 同 同 野戸伊太郎 田中 治吉
- 水主町中組 長 山名 克治 佐々木三郎
- 上天満本町 副 榎本喜代一 藤田 文吉
- 同 同 高田 一人 榎井 末松
- 水主町中組 同 佐々木三郎 坪井 寅雄

### 町内會正副會長異動

昭和十七年一月中旬迄

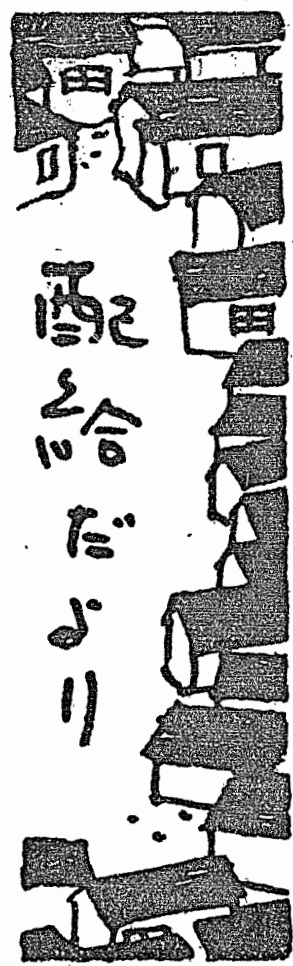
●廣島市告示第百二十五號

町内會區域變更設置ノ件

廣島市尾長町山根區町内會區域ノ一部ヲ分割シテノ通リ町内會ヲ設置シタリ

町内會名	職氏名	年月日	職氏名	年月日
尾長町山根區	尾長町山根區町内會ノ内	昭和十六年十二月十八日		
町内會名	職氏名	年月日	職氏名	年月日
觀音	長 山本勇三郎	昭和十六年十二月十八日	長津島市太郎	昭和十六年十二月十八日
聯合町内會	副 門田幾太郎	昭和十六年十二月十八日	副 藤田 政治	昭和十六年十二月十八日
翠	西蟹屋町本通長荒井	昭和十六年十二月十八日	西蟹屋町本通長末好	昭和十六年十二月十八日
富士見町下組	同 渡邊 高一同	昭和十六年十二月十八日	同 砂入 常吉同	昭和十六年十二月十八日
下流川町	同 野田 巧三	昭和十六年十二月十八日	同 高橋保兵衛	昭和十六年十二月十八日
堀川町	同 山下 憲吾同	昭和十六年十二月十八日	同 長大下 惣吉	昭和十六年十二月十八日
西平塚町	同 川合 耕作同	昭和十六年十二月十八日	同 西井愛三郎	昭和十六年十二月十八日
吉島羽衣町	同 長内藤 明同	昭和十六年十二月十八日	同 西井愛三郎	昭和十六年十二月十八日
西蟹屋町本通	同 金子 靜吉	昭和十六年十二月十八日	同 西井愛三郎	昭和十六年十二月十八日
聯合町内會	同 西井愛三郎	昭和十六年十二月十八日	同 西井愛三郎	昭和十六年十二月十八日
宇品	同 西井愛三郎	昭和十六年十二月十八日	同 西井愛三郎	昭和十六年十二月十八日
聯合町内會	同 西井愛三郎	昭和十六年十二月十八日	同 西井愛三郎	昭和十六年十二月十八日

尾長町	山根西組	長 天野篤太郎	三月六日
同	副 中山 佐吉	三月六日	
金屋町下組	長 橋本 實文	三月九日	長 山中 吾一 三月九日
富士見町下組	副 森 密二	三月九日	副 大野本之助 三月十一日
西引御堂町	副 山村 助一	三月十一日	副 米田榮次郎 三月十一日
臺屋町	町長 角振 朝一	三月十一日	長 井口 福一 三月十一日
千田町三丁目	副 池田 善雄	三月十一日	
金屋町下組	副 島本 靜吾	三月十一日	副 橋本 實文 三月九日
西蟹屋町	同 見門良兵衛	三月十一日	同 義男 三月十一日
吉島羽衣町	同 川本 良一	三月十一日	同 富海 元治 三月十一日
同	同 今永 乙二	三月十一日	同 阿部繁三郎 三月十一日
尾長町山根區	同 村田 稻美	三月十一日	同 升川新次郎 三月十一日
古田町田方	同 坪田 進一	三月十一日	同 小川 三郎 三月十一日
同	同 島本富士翁	三月十一日	
觀音	聯合町内會	副 松原 澤一	三月十一日
宇品町本通	同 長高田 清	昭和十七年三月十一日	長 福原 一三 昭和十七年三月十一日
富士見町上組	同 榎山 寛一	三月十一日	同 重信 珠雄 三月十一日
木 挽	町同 日下 幹一	三月十一日	同 光本 天造 三月十一日
宇品町本通	同 副 松本 安正	三月十一日	副 井口若登 三月十一日
同	同 満足 清一	三月十一日	
東觀音町	同 竹村 清一	三月十一日	同 丸町 潤一 三月十一日
宇品	聯合町内會	副 池永 清真	三月十一日
同	同 江口徳太郎	三月十一日	
木 挽	町同 村後太郎	三月十一日	副 日下 幹一 三月十一日
（以上長は會長、副は副會長を示す）			



（課工商）

### 昭和十六年十二月

- 一日（十一月二十九日附發送）第二回小麦粉配給 一人當平均八グラム
- 一日 療養用鶏卵一日五十匁配給せし處本日より三十匁に改む
- 十一日 正月用糯米配給 一人當一匙（社寺、學校、官廳、會社等に對する鏡餅用一件二匙以内）
- 十一日 薪、煉炭の循環配給實施（十日を以て一循環間とし配給量は一世帯當新平均約一束、煉炭平均約三分の一括）
- 十五日 正月用砂糖の特別配給を町内會に割當 一人當平均〇、一匁
- 十八日 第二回食料油配給 一人當平均六匁
- 廿三日 第一回雜穀配給 一人當平均五匁強 正月用黑豆配給 一人當平均四匁強
- 廿三日 集成通帖發送（集成通帖の内家庭用木炭の割當配給は一月一日より實施△十二月廿七日より木炭の缺乏せる世帯に對し繰上配給を實施△家庭用以外は縣に於て直接配給△木炭以外の通帖及購入券使用に就ては其の都度市役所より通知の筈）

### 昭和十七年一月

- 一日 家庭用鹽割當配給實施 一人當二〇〇グラム（漬物用其他に對する特別配給は隨時之を實施する筈△家庭用以外は專賣局直接之を配給す）
- 六日 第三回小麦粉配給 一人當平均九〇グラム強

### 水道栓の凍結防止

御協力下さい

極寒に向ひ各御家庭の水道設備が凍結して水が出なくなつたり又は其れが原因して破裂を生ずる危険があり

### 名譽の戦死者

官等級	戦死者	住所
陸軍大尉	土井 浩一	平塚町二九
同	野平 正彦	東觀音町二二
同	旭川 兵輔	古田町古江
同	宮本 龜藏	河原町
同	數 佐十郎	牛田町二五
同	片原 常雄	西白鳥町五五
同	新岡 章殿	富士見町八一

ますので左記の事に御注意御協力下さいまして之を未然に防止致します事は戦時下物資不足の折柄一層資材の節約にもなりますし又凍結や破裂に因ります御不便の除去ともなりましてお互に利便と存じますので各御家庭の御協力を願ひます。

記

- 一、給水管の引込又は立上りや栓の露出部分には縄又は菰を巻き直接外氣に當らない様に保温裝置をして下さい。
- 二、露出管路に於て管内の排水をなす裝置がしてある處に對しては夜間お忘れなく排水して管路を空虚となして置いて下さい。
- 三、給水栓又は管路が凍結した場合布切等にて局部を包み之に温湯を注ぎ解水せしめ決して直接火氣に當てぬ様にして下さい。
- 四、前記の通に致しまして尚水が出ない時は自然に解水待つ外の外はありませんが一應市水道部に電話を御掛け下さる。

陸軍曹長	山田 曠雄	横川町二丁目
同	伍長 新江 峯松	似島町家ノ下
同	兵長 三原福五郎	南觀音町
同	上等兵 沖野 徳雄	楠木町一丁目
同	同 秋田 正夫	已斐町一八五
同	同 山田 久吉	三條本町二二
同	同 寸古幾定	國泰寺町二七
同	同 小田 豐	水主町三三八
同	同 片田 敏夫	千田町一丁目
同	同 長澤 一雄	皆實町一丁目
同	同 西谷 巖	皆實町一丁目
同	同 梅本 徳英	三條本町二二

### 市民税

と今月納期の諸税

今一月は市民税の納期であります市としては去る十日附で一般に告知書を配付し来る三十一日が納付期限となつて居ります。大東亞戦争進展のこの際ですから一層期限におくれぬやう一日も早くお納め下さい。なほ一月と二月が納期の各種税金は次の通りです。

- 一月（國稅）地租（田第一期）同（其の他第二期）營業稅（個人第二期）臨時利得稅（同第三期）△（縣稅）營業稅附加稅（個人半額）藝妓稅（一月分）△（市稅）營業稅附加稅、營業稅制（半額）藝妓稅附加稅、藝妓稅制（一月分）
- 二月（國稅）所得稅（第四期）△（縣稅）藝妓稅（二月分）△（市稅）藝妓稅附加稅、藝妓稅制（二月分）



體験を語る

隣組防火

皆賀町三丁目  
西部第八組長

山本 進

私共の組内で去月上旬ある家に火災が起りました。その家は全員不在で、失火が知れて近隣が馳付けても容易に屋内に入らず、そのうちに、火は愈々勢ひを強くしましたが、この時早くも隣組員と警防團の諸氏が沈着な態度で迅速に行動されて機宜の處置をとられましたので、この猛火も忽ち下火となり、幸ひ、東、西署のポンプの出動によつて全く鎮火して比較的輕微な損害に終りました。私はこの異變において痛切に日頃準備されてゐた防火用具と貯水槽のありがたさを感じますと共に防火訓練の如何に必要であるかを現實に知らされて今更のやうに「備へある者は憂へなし」の語の人を欺かないことを知りました。私共の組員も亦防火について一段と自信を強くされました。此の後とも倍層緊張してこの大非常時に備へるため取敢えず左の生活十則を定め一同實踐を誓ひました。

「我が隣組十則」

- 一、先づ第一が火の用心
- 二、不自由不足は忍びませう
- 三、無駄な費へは省きませう
- 四、闇取引はやめませう

- 五、銃後はみんなで固めませう
- 六、みんなで力を協せませう
- 七、いつでも空襲防ぎませう
- 八、機密内證は守りませう
- 九、子供を元氣に育てませう
- 一〇、兎に角國策に従ひませう

チフス警戒

最近チフスが大幅猖獗して居ります。これは軍都廣島としてまことに慨しいことであり、この際一般に豫防注射或ひは豫防内服ワクチンの服用

市内傳染病發生月報

(昭和十六年十二月)

町名發生數	南廣原町	翠町	三條本町一
大須賀町	一	一	二
若草町	一	一	一
西廣原町	一	一	一
東廣原町	一	一	一
大洲町	一	一	一
松川町	一	一	一
比治山町	一	一	一
牛田町	一	一	一
段原末廣町	一	一	一
段原中町	一	一	一
段原山崎町	一	一	一
皆賀三丁目	一	一	一
南廣原町	一	一	一
翠町	一	一	一
三條本町一	一	一	一
三條本町二	一	一	一
三條本町三	一	一	一
三條本町四	一	一	一
三條本町五	一	一	一
三條本町六	一	一	一
三條本町七	一	一	一
三條本町八	一	一	一
三條本町九	一	一	一
三條本町十	一	一	一
三條本町十一	一	一	一
三條本町十二	一	一	一
三條本町十三	一	一	一
三條本町十四	一	一	一
三條本町十五	一	一	一
三條本町十六	一	一	一
三條本町十七	一	一	一
三條本町十八	一	一	一
三條本町十九	一	一	一
三條本町二十	一	一	一

をされてこれが豫防をなさると共にこの病氣が疲勞や、睡眠不足や、悪い食物(殊に家庭外での食事)等が誘因となる事實から見て平生の攝生に氣をつける必要があります。初め此の病氣は、身がだるく、食物がまづ、頭痛がしたりして、風邪やその他の病氣と區別出來ません。そのうち次第に高い熱が出て來ます。この間は二週間位もかゝることあります。熱は一日々々と高くなつて、四五日たつと最高になりなかつた下りません。舌は荒れ、白い苔が付き大便秘結し、顔つきは非常に重病人らしくなつて來ます。先づ素人としては、わけの分らない高い熱が続く様でしたらこの病氣を疑つてみてお醫者様を迎へねばなりません。

準備管制

實施の方法

去る一月六日全國一齊に決戦防空訓練が行はれ本市でも之れが實施要綱を各町内會に配布して萬全を期し多大の成績を納めました。一部でどうも燈火管制に於て準備管制、警戒管制、空襲管制の區分を認められず準備管制が暗すぎたり、空襲管制の場合に案外な所に裸火が光つたりしてゐました。大東亞戦争は長期戦たることを覺悟せねばなりません。緊張の餘り無闇に燈火を管制すると日常の作業に差支へたり、一般の元氣に影響を來します。そこで準備管制の場合約はどうかと申しますと、先づ指定燈火(廣告燈、看板燈、裝飾燈、門燈、軒燈、標札照燈、玄関「テレス」燈、特別屋外燈類「公園燈庭園燈、社寺屋外燈、廣場照明燈、各種運動競技場屋外照明燈、露臺燈、墓地燈、屋上燈、祭禮用燈火等」を消さねばなりません。が、その他の屋内外の燈火は何時でも警戒管制又は空襲管制を行ひ得る様準備を整へて置けば普通の狀態

灰も時局に御奉公

婦人の力て食糧の大増産

で差支はないのであります。又、警戒管制下に於ける交通治安維持のため左に掲ぐる燈類はある制限内で残置燈とすることも出來ます。門燈、軒燈、街路燈、橋梁燈等で

街路面三十坪に付一、五燭光以内の割合で一燈十六燭光以下に減光し且つ直射光が下方に向ひ水平面と二十度以上の角をなすやう遮光するものとす。

- 1、町内會隣組の指圖に従ふ事
- 2、良い灰は薪、木炭、落葉、藁、木切、鋸屑等の灰であります。
- 3、悪い灰は石炭、煉炭、豆炭の灰で肥料にはならず害がありますから絶対に混合してはなりません。
- 4、ガラス、セメント、ブリキ、針等は危険ですからまぜないで下さい。
- 5、水や雨にぬらさない様にして下さい。ぬれると肥料成分は無くなります。△火の元に十分注意して下さい。

叙任及辭令

秘書課人事係長  
主事補 藤 永 武 夫  
任主事  
土木部都市計畫課庶務係長  
主事補 濱 田 稔  
任主事  
土木部土木課庶務係長兼土木部都市計畫課庶務係長

鐵道測量土地立入

●廣島市告示第一號  
土地立入ノ件ニ付、鐵道省山口工事事務所長ヨリ左ノ通り通知アリタリ  
昭和十七年一月十日  
廣島市長 藤 田 若 水  
一、立入ノ目的 土地測量ノ爲  
一、立入區域 廣島市一圓  
一、立入期間 昭和十七年 自一月十七日 至三月三十一日

名 柄 正 之

任視學  
教育部學務課勤務ヲ命ス  
教育部兵事課勤務係長  
書 記 澤 田 正 路  
教育部防衛課勤務係長  
書 記 香 川 政 治  
教育部防衛課勤務係長  
書 記 山 名 健 吾  
會計課勤務  
書 記 水 谷 信 三

【告 示】

●廣島市告示第二五八號  
廣島市保健院入院規程中改正ノ件  
昭和十四年五月告示第七十八號廣島市保健院入院規程中左ノ通り改ム  
昭和十六年十二月二十四日  
廣島市長 藤 田 若 水  
第一條中「救護法該當者」トアルヲ「醫療保護法該當者」ト改ム  
附 則  
本規定ハ公布ノ日ヨリ施行ス

●廣島市告示第二五九號

母子保護法ニ基ク醫療ノ爲醫  
師並ニ藥劑師指定廢止ノ件  
昭和十三年三月告示第二十六號母  
子保護法ニ基ク醫療ノ爲醫師並ニ藥  
劑師指定ハ之ヲ廢止ス  
附 則  
本件ハ公布ノ日ヨリ施行ス  
昭和十六年十二月二十四日  
廣島市長 藤 田 若 水



## 休養と鍛錬が大事です

れぬにしても今日日本が立つてゐる重大な局面と將來の大使命を考へますと全日本の婦人が工夫を凝らして休養時間を作りそれを有効に利用され、次の時代の强健な日本民族を生まねばなりません。これがとりもなほさず大東亞戰を勝ち招く爲めの重大要件となるのであります。

撒水は危険

御注意下さい

此の頃の寒さに舗装道路に撒水されますと直ぐ凍つて自動車、馬車馬が倒れたり、人が転倒する等の危険のあることはよく知られて居りますが、平素の習慣でついうっかり撒水される向きが少くありません。この際十分御注意下さい。なほアスファルトの舗装に多量の撒水をされますと道路の破損がひどくなりまますから左記各項を御熟讀下さるとともに近來往々見受けられる舗装道路での藁灰焼きや焚火は道路愛護のため今後絶対になさらぬやう市民各位お互に警めて戴きたいと

思ひます。

左 記

一、アスファルト舗装に澤山の水を撒くとアスファルト中の油性分を洗ひ流しまして早く老衰させ粘氣を失つて道路を壊す因になります。

二、アスファルト舗装面に龜裂や凹所があつたりして水溜が出来た所に撒水されるとそこから水が浸み

「時局防空必携」を  
お求め濟みてすか

時節柄市民の一人残らずが防空についてよく心得てゐることは市を守り國を守るために是非必要であります。このため市役所防衛課では大日本防空協會發行の「時局防空必携」を一部三錢で各戸へ頒布のお世話をして居ります。既にお求め濟みの向きも多いと存じますが、未だ御存知ない方は一戸必ず一部御備へになるやう御勧め申します。なほ御入用の方は市役所防衛課に御申出下さい。

込みましてその附近一帯の舗装を弱め破壊を早くします。

三、アスファルト舗装の修繕をしましたら十日位は絶対に水を撒かないこと

四、魚の洗水等の汚水を撒かれますと不潔であるのみならず汚水は一層アスファルトを弱める性分があります。

各町釀出額

△六四・五〇新庄町△一八〇・〇〇空  
鞆町東部△二〇〇・〇〇庚午町△六  
六二・三五西觀音町一丁目△三五・一  
八〇舟入本町西組△一一〇・一〇袋  
町△一〇二・五〇鐵砲屋町△三五・〇  
〇鳥屋町△五九・〇〇南三篠町二區  
△三四・〇〇斜屋町△一五〇・〇〇若  
草町△二九・一五五的場町△一三四・  
三〇西九軒町△一一三・〇〇新天地  
△三六五・〇〇大手町九丁目△一二  
五・〇〇大手町七丁目東組△五九九・  
七〇大須賀町△一八〇・〇〇青崎東  
町△九〇・〇〇小綱町東組△一一四・  
〇〇尾道町△一二三・四〇字品町神  
田通八、九丁目△二八五・〇〇下柳  
町△二二・三〇草津南町△一七五・  
〇〇舟入仲町東區△二〇〇・〇〇三  
篠本町二丁目西組△一五〇・五〇三  
篠本町三丁目南組△二〇五・〇〇向  
洋大原組△三〇〇・〇〇千田町一丁  
目△二九七・〇〇三篠本町一丁目△  
六〇・八〇古田町田方組△四〇〇・〇  
〇比治山本町△二五二・八〇西觀音  
町二丁目北部△一六七・〇〇平田屋  
町△五四・〇〇八丁堀中組△一〇〇・  
〇〇西大工町△四五〇・〇〇打越町  
△一八〇・〇〇三篠本町四丁目△二  
〇〇・〇〇河原町神崎組△四二〇・〇  
〇東平塚町



今年は更に食糧増殖

櫻の蕾も漸くふくらむ三、四月の頃は青物の一番少い時で何れのお臺

### 三、四月頃の作方

四月には普通の畑で作る事が出来  
ますから二月下旬から三月上旬に種

御願ひ

△「隣組問答」は各級常會の圓滑な發展に關聯する市民各位の御質問に答へ

二、三月頃の作方

冬の寒い時に種播をして早く芽を出させるには普通の畑よりか箱播きにして軒下や椽先の硝子戸の内側に列べて日中は日當りの好い所を選んで置きますと七日か十日位で發芽します。種播きをしたら水を十分に注いで箱の上に硝子を覆ふて補温しますと早く大きくなります。野菜の肥料は人間が食事をするのと同じ意味で度々施してやらねばなりません。勝手場の残り魚や米の磨ぎ汁を時々注いでやりますと大きくなると同時

# 魚介類

小賣最高値

い土を薄く掛けてやります。發芽には水が最も必要でありますから始めは水を注ぎ發芽後は磨汁の白水を灌水してやれば一週間位で萌芽します。其の後三月末から四月始め頃に一本宛丁寧に抜き取つて本畑に植ゑ出します。三、四月頃は生育が遅いのですから、株間を三寸から五寸位に植ゑて本葉が十枚位に出て來たら採收して食します。丁度四月中下旬の頃ですから野菜の無い時に少しでも勝手場の足りになります。

[illegible]

きんめだい	丸身	三・五
ぶだい	切身	二・八
このしろ	丸	六・九
す （やいと）	切身	二・八
まとうだい	丸	六・九
かがみだい	丸	六・九
かんだいこ	丸	六・八
ぶたいいら	切身	二・七
たかは	丸	六・八
ぐち（いし）	丸	六・六
もちぎぐち	丸	六・六
しろぐちくろぐちを合む	丸	五・五
めぬけ（さ）	丸身	三・七
んどめぬけ	切身	二・七
ばらめぬけ	切身	二・六
こうじめぬけ	切身	三・六
かながしら	丸	五・六
あかえい	切身	二・六
あんこう	丸身	二・四
かたくちいわし	丸	四・四
はましかつを（エチオビヤ）	丸身	二・四
切身とは皮を剥ぎ頭部（鰓蓋を含む）内臓及尾部を除去し切斷したるものを謂ふ		



【告 示】

●廣島市告示第二五三號  
昭和五年八月十一日内務省令第二十  
六號廣島都市計畫事業道路新設擴築  
受益者負擔ニ關スル件第四條及第六  
條ニ依リ昭和八年十一月一日内務省  
告示第三百七十六號廣島都市計畫街  
路事業中一等大路第三類第十五號觀  
音町線一部ノ負擔區及事業着手ノ日  
ヲ左ノ通り定ム  
昭和十六年十二月廿二日  
廣島市長 藤 田 若 水

一、負擔金  
第一負擔區 南觀音町字南七〇四  
番地ノ一ヨリ同町字  
南一三四二番地ノ一  
地先ニ至ル間ノ新設  
道路ノ周圍

二、事業着手ノ日  
昭和十六年十二月廿六日

●廣島市告示第二五五號  
道路工事受益者負擔規程第十三條ニ  
依リ受益者負擔金ヲ賦課スベキ工事  
名及工事施行箇所等左ノ通り定ム  
昭和十六年十二月廿四日  
廣島市長 藤 田 若 水

一、受益者負擔金ヲ賦課スベキ工事  
名及工事施行箇所  
路面改良鋪裝工事  
段原大畑町一番地々先ヨリ同十一  
番地々先ニ至ル間及鋪裝道路ノ維  
持上必要ナル區間

二、工事着手年月日  
昭和十六年十二月廿七日

三、負擔區及地帶

本工事施行箇所ヲ一負擔區トス  
道路ニ接スル部分ヲ地帶トス  
四、負擔率  
總工費ノ四分ノ一トス

●廣島市告示第二五六號  
道路工事受益者負擔規程第十三條ニ  
依リ受益者負擔金ヲ賦課スベキ工事  
名及工事施行箇所等左ノ通り定ム  
昭和十六年十二月廿四日  
廣島市長 藤 田 若 水

一、受益者負擔金ヲ賦課スベキ工事  
名及工事施行箇所  
路面改良鋪裝工事  
仁保町字古城濱七五九番地西一ノ  
割一二六番地々先ヨリ同町字古城  
濱八一〇番地西一ノ割二〇番地々  
先ニ至ル間及鋪裝道路ノ維持上必  
要ナル區間

二、工事着手年月日  
昭和十六年十二月廿七日

●廣島市告示第二五七號  
道路工事受益者負擔規程第十三條ニ  
依リ受益者負擔金ヲ賦課スベキ工事  
名及工事施行箇所等左ノ通り定ム  
昭和十六年十二月廿四日  
廣島市長 藤 田 若 水

一、受益者負擔金ヲ賦課スベキ工事  
名及工事施行箇所  
宇品町海岸通中通鋪裝工事  
宇品町海岸通三丁目三番地ノ二  
〇、三一地先ヨリ同町十七番地ノ  
九、一六地先ニ至ル間及鋪裝道路  
ノ維持上必要ナル區間

二、工事着手年月日  
昭和十六年十二月廿七日

三、負擔區及地帶  
本工事施行箇所ヲ一負擔區トシ道  
路ニ接スル部分ヲ地帶トス

四、負擔率  
總工費ノ四分ノ一トス

三、負擔區及地帶  
本工事施行箇所ヲ一負擔區トス  
道路ニ接スル部分ヲ地帶トス  
四、負擔率  
總工費ノ四分ノ一トス

●廣島市告示第二五八號  
道路工事受益者負擔規程第十三條ニ  
依リ受益者負擔金ヲ賦課スベキ工事  
名及工事施行箇所等左ノ通り定ム  
昭和十六年十二月廿四日  
廣島市長 藤 田 若 水

一、受益者負擔金ヲ賦課スベキ工事  
名及工事施行箇所  
宇品町海岸通中通鋪裝工事  
宇品町海岸通三丁目三番地ノ二  
〇、三一地先ヨリ同町十七番地ノ  
九、一六地先ニ至ル間及鋪裝道路  
ノ維持上必要ナル區間

二、工事着手年月日  
昭和十六年十二月廿七日

三、負擔區及地帶  
本工事施行箇所ヲ一負擔區トシ道  
路ニ接スル部分ヲ地帶トス

四、負擔率  
總工費ノ四分ノ一トス

企業許可令

政府は國家總動員法に基き客臘十  
三日企業許可令を施行しました。こ  
れによりますと閣令である施行規則  
に指定された礦業一、工業二〇三、  
商業二三八、交通業一、合計四四三  
の指定事業を行ふ者は會社、組合、  
個人の別なく全部本令の適用受けね  
ばなりません。市としても近く一般  
にこれが内容周知の方策を講じます  
が生計上の重大事ですから皆様に於  
ても至急御理解下さい。

最近町内會へ發  
送した文書摘録

(昭和十七年一月十六日迄)  
昭和十六年十二月一日 農業者に交付の  
米穀通帳回収に就て(商工課)  
三 日 子福者等表彰式の件(社會課)  
四 日 貯蓄實踐強調運動に關する件  
(指導課)

五 日 茶穀馬糧化報國運動實施に關  
する件(指導課)  
八 日 人工哺乳用砂糖並に出産用局  
方ガーゼ及綿の取扱一部變更に關する  
件(商工課) 防空下令に關する件(防  
衛課)  
九 日 葬儀に關する件△臨時隣組常  
會開催の件(以上指導課)  
十二日 瓦斯、電力の消費節減に關す  
る件△國債消化促進に關する件(以上  
指導課)  
十六日 「時局防空必携」發行に關する  
件△隣保班用腕用ポンプ保存手入に關  
する件(以上指導課)  
十七日 防空夜警に關する件△空襲  
時に於ける退去及事前避難に關する件  
(以上指導課)  
十九日 家庭用並隣保班用防火水槽整  
備狀況調査の件(防衛課)  
二十日 「時局防空必携」購入に關する  
件(防衛課)  
二十二日 常會申合事項に關する件(指  
導課)  
二十三日 「年末年始對策要綱」並に「昭  
和十七年の新年奉祝實施要綱」實施に  
關する件(指導課)  
二十六日 大校式に關する件(指導課)  
二十八日 鹽の割當配給制實施に關する  
件(商工課)  
昭和十七年一月六日 大詔奉戴日設定に  
關する件(指導課)  
六 日 企業許可令に關する懇談會開  
催の件△第三回小麦粉配給に關する件  
(以上商工課) 國民貯蓄目標増額に關  
する件(指導課)  
十四日 米穀配給に關する件(商工課)





# 廣 島 市 報

號一十六百第

昭和三十三年三月十九日  
發行日十二月三年七十和昭  
金部一

所行發 市島廣 所行發 市島廣  
所販活第兄田増社 所刷印 市島廣  
地番一丁七町手大 地番一丁七町手大  
地番一丁七町手大 地番一丁七町手大

## 主 要 目 次

町内會生れて一周年 △「常會」の話題  
は今から捕りませう △火鉢の灰供出  
△醫療保護法 △國民兵簡閱點呼 △紙  
芝居貸します △「市政小講座」厚生施

設(二) △チフスまた猖獗 △子は國の  
寶 △空地空箱で野菜作り △名譽の戰  
死者 △町内會正副會長異動 △衛生正  
副組長異動 △配給だより △叙任辭令  
△市内傳染病發生月報 △廣島市外四都  
市生活用品小賣値指數

本市が三百五十年の古い傳統を有する町總代制を發展的解消して、萬民翼賛の本旨に則り、地方  
共同の任務遂行のため新に町内會制度を設定して正に一周年と相成りました。  
回顧しますと、昨年三月十一日本市町内會が結成されました前後から内外の情勢は、頗る重大  
性を加へまして、昨年十二月八日遂に米英に對し宣戰の大詔を渙發あらせられました。爾來、大御  
稜威の下忠勇武烈なる皇軍の神策鬼謀、力戰奮闘によつて先づ眞珠灣に米國太平洋艦隊を覆滅し、  
次で香港、マニラ、新嘉坡、蘭貢、蘭印等々敵の重要據點を悉く屠り、大東亞共榮圈の基礎は全  
確立されるに至つたのであります。  
時局の飛躍的進展は、勢ひ國內の總ゆる部門に再編成と變革とを要請し、従つて市民生活にも亦  
多量の改新を來すこととなりました。茲に於て町内會の任務は日と共に重きを加へ、役員諸氏は豫  
想もせなかつた繁忙の渦中に入らるゝこととなりまして、その間に於ける御心勞と御努力とは、實  
に、意表に出づるものであります。而も、本市町内會の機構は、この匆忙の裡に、着々と整備さ

## 町内會生れて一周年

廣島市長 藤 田 若 水

れ、内容は充實して、克く時艱に即應してその使命を貫行し、全國的優良町内會として表彰される  
ものもあるに至りました。  
斯くの如き業績は、一つに過去一年間に於て町内會役員たりし諸氏の滅私奉公の賜でありまして、  
市當局としまして誠に感謝に堪へずこの感銘をあらはすに言葉もない次第であります。  
然し、戦はこれからであります。大東亞に於ける今日の戦果の上に、搖ぎなき大共榮圈の礎  
を固く打ち立てる建設の營みをなす一方、更に、廣大な戦線が、米英潰滅の日まで押し進められ  
るのであります。この一面建設、一面膺懲の過程は、恐らくは長期に亘りませう。又、しかく覺悟  
せねばなりません。  
此の振古未嘗有の聖業を完遂しますには、國內の態勢を文字通りの新體制とし、銃後の固めを彌  
や堅くせねばなりません。而して、町内會こそはその中核であり、根柢となるものであり、その重  
要性はけだし至大なりとすべきであります。時恰も本市町内會では隣組長の交代期に際會して居り  
ます。各町内會はこの交代が齎らす新鮮な意氣と將來への大なる希望とを以て愈々その底力を發揚  
されまして、町内會本來の使命達成に精進され、よつて以て軍都大廣島の名聲を一層あげられんこ  
とを祈念して已まぬ次第であります。

いさ下てし捺を印・覽回くなれ渡戸全



國民兵點呼

- 一、昭和十七年度陸軍簡閲點呼は次の者全員に對し行はれます。
- 1、**第一國民兵**
- 2、**第二國民兵**（昭和六年以降徵兵検査で丙種合格の者）
- 二、**寄留地點呼參會** 前記に當る者が寄留地で點呼參會を希望する時は三月三十一日迄に願書（寄留地の聯隊區司令官宛）二通を寄留地の市區町村長へ差出すこと

醫  
療  
保  
護  
法



貧しさのため生活が困難で病氣に罹つても又、妊娠しても醫療や助産

隣人愛で活用を待つ

て上げて下さい、以下ごく簡単に醫療保護法の説明を致します。

一、保護の範圍 1、救護法（貧しいため生活が困難な人を護る法律）と母子保護法（母一人で子供を抱へて生活の困難な人を護る法律）によつて扶助を受けてゐる人（從來はこの二つの法律で醫療保護もしてゐたのです）△2、貧しさのため生活困難で醫療や助産を受けることの出来ない人（醫療保護法によつてこの分が範圍がひろげられました）但し扶養義務者がある人、結核性の病氣、花柳病、精神病等他の法律によつて保護するものは除かれます。

## 二、保護の方法

### 1、全市三百名の方

此の期日後の願（遅延理由書を付ける）は許可されぬ事があります  
三、兵役法改正注意書 廣島市に本籍のある第一、第二國民兵に對し注意書を發送しましたが所在不明で渡すことの出来ない者が相當にあります、此の注意書が行かない者は至急兵役課へ申出のこと  
四、本年は豫備役及補充兵役の者に對しては簡閱點呼を實施されぬから點呼に關する願屆書は提出に及びません。

◇七ツの海◇

今は昔、イギリスが七ツの海で威張つてゐたことからよく「七ツの海」といふ言葉が使はれますが七ツの海とはさてどこどこでせうか？

一、南太平洋	二、北太平洋
三、南大西洋	四、北大西洋
五、南冰洋	六、北冰洋
七、印度洋	

す。△4、この醫療券を持つ人は全部無料で治療、入院、手當を受けられます。(この費用は市や濟世會から醫師等へ直接支拂ふのです)以上が昨年十月一日より行はれることになつた醫療保護法のあらましでありますが、この費用のために本市では初めて昨年下半年より半々年分約一萬二千圓の豫算を計上して保護に手ぬかりのないやうにしてゐます。尙字品町(字品十丁目停留所東へ約七町、人絹の北側)にある廣島市保養院は、昭和十三年十一月に本

紙芝居

御利用下さい

市が設けた病院であつて、本法による診療、入院の機關であります。入院定員は四十名、内科、小兒科、産科を取扱ひ、簡易な診療は各科に互つて行ひます。(この保養院は醫療保うち收入の少い人の治療と入院をも取扱ひます。詳しいことは市役所社會課へ御相談下さい)

本市指導課備へ付けの紙芝居が左の二十八種類となり各町内會、隣組常會の御利用を待つて居ります、これらの紙芝居はほんの素人の方にも樂に扱へ時間もせいふく十五分か二十分位で興味と實益とが得られます。お貸しするには別に面倒な手續をされなくても直接市役所指導課敎化係へ御出で下されば何時でも御用立てます。

稻むらの火、義農作兵衛、傳書鳩、青少年團、裏店銀行、芝濱の革財布、僕は赤ん坊、育兒報國、もの知りお婆さん、僕等の開墾地、仲よし五人組、隣組、大政翼賛、太郎の日記、幸福債劵、仲よし貯金、明るい銃後、お父さんの御褒美、兄さんの手紙、ある常會、白クシの慰問袋、フクチャンとチョキンの山は日本晴、頑張り村、二人の警防員、燒夷彈、火の玉父さん、満蒙開拓青少年義勇軍、貯金爺さん



蠅  
五  
月  
蠅  
い  
蠅

此の欄は必ず常會で朗讀して下さる。

蠅は今から捕りませう

蠅がバクテリア軍の落下傘部隊であり、第五列であることは今日で誰れしもよく知つて居り、夏になると「蠅取日」が行はれたり、蠅取紐の配給などがありますが、蠅の驅除は夏よりも今日が一層大切でありまして春先きに飛ぶ一匹、二匹の蠅は誰れも氣にしません。ところがこの一匹二匹が、實は蠅の大群の尖兵であり、前哨兵なのであります。

假りにお宅の臺所に一匹の蠅が出たとします。これを放つて置きますとあくる日には百五十匹の蠅を跳梁させる譯けとなるのであります。大體雌蠅が一回に産む卵は一二〇乃至一五〇で、一代に三、四回五〇〇乃

きますとある外國の學者のいふ様に  
一匹の蠅が三、四日のうちに一二〇〇  
乃至一五〇の卵を六回産むとしてこ  
れが四月に始まり八月に終るとする  
最後の成蟲は一九一、〇一〇、〇〇〇  
〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇  
となる。そこで蠅一匹の體積を1.8  
インチ立方と假定すると此の蠅は全  
世界を四十七呎の厚さに埋めるわけ  
となります。これは無論學者の計算  
であつて實際にはいろいろの事情で  
かうまでにはなりません、何れに  
しましてもその繁殖力の強さはこれ  
でもわかることです。

蠅のバイキン傳播には御丁寧にも一時に二つの方法を用ひられるのであります。即ちその一つは肢その他にバイキンを附着して運び、他の一

火鉢の

灰  
供  
出

火鉢	の
灰	出

食糧増産  
は銃後國民  
の絶對責任  
であります  
が、肥料の  
不足で十分  
に作れませ  
ん。ところが皆様の御家庭で出来る  
木灰は立派な肥料であります。季節

つは吸収した食物とともに消化器にバイキンをたくはへて置き食物を食ふ際にそれを溶かすために消化器から唾液を出す。この時バイキンを唾液とともに出してまき散らす方法であります。何れにしても蠅の觸つたところにはバイキンがうんと居るに相違ありません。

學者の研究によりますと一匹の蠅が運ぶバイキンは五七〇乃至四、四〇〇、〇〇〇で、その消化器内に吸収されてゐるバイキンは一六、〇〇〇乃至二八、〇〇〇、〇〇〇といふ

恐しい數であります。勿論これらのパイキンが全部人間に害があるとはいへませんが、蠅がまき散らすパイキンのうち多いのはチフス、コレラ、赤痢、結核であつてこのうちチフスのパイキンが一番多くて、アメリカでは家蠅のことを「チフス蠅」といつて居る位であります。蠅の播き散らすチフス菌がどんなに恐しいかといふことは米西戦争の時、アメリカ軍が蠅によるチフス菌傳播に悩まされ

も恰度桃の節句に近くなり火鉢やコ  
 タツを仕舞はれると思ひますがこれ  
 らの中の灰をこれから一年間押入や  
 物置に寝かさずお互隣組で集めて肥  
 料として御供出下さい。来る四月八  
 日から三日以内に市農會から各町内  
 會へ供出灰を蒐めに参りますから大  
 詔奉戴記念日の常會で是非ともこの  
 木灰供出の御申合せを願ひます。

れチフスで死んだ兵隊の数が彈丸で死んだ者より多かつたことでもわかります。

さてこの恐しい蠅は主として馬糞、人糞、便所、塵溜、野菜、雜草の腐敗物に生じます。中にも便所と塵溜が最も危険ですから今から一匹たりとも飛ぶ蠅をのがさず叩き殺すとともに厠や塵溜に石油乳劑その他の驅除劑を時々撒布してこの夏には蠅が跳梁せぬやうに十分注意しようではありませんか。

町內會正副會長異動

町内會名	就任	退任
字品町御幸 通六丁目	職氏名	職氏名
同	副越田	覺定
廣瀨北町	吹田	副村橋
一丁目	喜代太郎	長炭村
		秀吉

衛生正副組長吳勳

組合名	前任者	後任者
中廣町	職氏名	職氏名
段原新町	(増員)	
副興枳	副永井	一夫
數義	副藤井	正男
(以上長は會長、副は副會長又は副組長を示す)		





講 二 第

# 厚生施設

(承前)

## 亡國病結核療養に 市立畑賀病院

結核が亡國病であることは今更中  
すまでもないことです。大東亞否、  
世界新秩序のもとに於ける一大盟主  
たる帝國は其の國礎を固める上に於  
ても、名譽にかけて此の結核を撲滅  
せねばなりません。結核の豫防撲滅  
上何よりも大切なことは、此の病氣  
にかゝつてゐることを早く発見し、  
正しい療養を行ふことです。此の目  
的を達するために市では昭和八年十  
月安藝郡畑賀村を選んで療養所を設  
けました。

現在の設備は輕症患者用三室、中  
症用五室、重症用八室、計十六室で  
六十人の収容力があり、レントゲン  
室、日光浴室、消毒室その他あらゆる  
理想的設備を整へてをります。が、  
本年末迄には、病室設備を現在の二  
倍に擴張する計畫です。

入院患者は其の資力に應じて無料  
と一日一圓若は一圓二圓の料金を拂  
ふものとわかつてをります。藥價  
榮養食費等は全部市で負擔すること  
になつてをり、此の病院の爲に年に  
支出する經費は約七萬五千圓に達し  
てをります。

## 貧しい人の療養は 廣島市保養院

國民の健康増進のために行はれて  
ゐる政策の中でも國家は特に貧しい  
人の療養を完全にするため療養保護  
法と云ふ法律を設けて、公費を以て  
其の治療を行つてゐることは、本號  
市報に於て別に記述した通りであり  
ます。宇品町に設けた本市の保養院  
は此の制度によつて生れたもので、  
醫療保護法によつて貧しい人の醫療  
や助産を行ふ外、醫療保護法に該當  
しない少額所得者の診療も行つてを  
ります。詳しいことは別項の醫療保  
護法の説明記事を御参照下さい。市  
で毎年支出してゐる經費は約二萬七  
八千圓に上つてをります。

### 年三十萬圓要する

#### 塵芥尿尿始末

市民の保健衛生上大きな關係のあ  
る事柄は市内の清潔を保つ事……即  
ち塵芥尿尿の始末をすることです。  
市内の各家庭から毎日出て来る塵  
芥は一ヶ年四萬二千八百餘トンと言  
ふ莫大な數量に上り、市では毎日こ  
れを一定の集積場に集め、これを請  
負に付して、島に運び、島では肥料

に利用されてゐるのですが、この爲  
に支出する經費は一ヶ年約十二萬圓  
位を要してをります。此の處理方法  
は最も原始的なやり方ですが、色々  
な事情から現在のまゝでは完全迅速  
に處理することが困難な實情にあり  
ます。その一つとして塵芥焼却場を設  
ける計畫も出来上つてをるのです  
が、資材の關係等で實現が遅れてゐ  
る次第です。

次は尿尿の處理です。此の問題は  
何處の都市でも一番頭を悩ますとこ  
ろで、本市では現在市内全戸の約二  
割を市の直營で汲み取りを行ひ、其  
の他は、各家庭から直接農家に手渡  
されてゐる譯ですが、此の全市の二  
割の汲み取りを行つてこれを農村へ  
運搬するだけの仕事に對して、市で  
は毎年十二萬圓に上る經費を支出し  
てをる状態でありま。これ又、完  
全な處理方法とは言へませんので對  
策を種々研究してをる有様です。

これ等に關聯して下水道の掃除が  
あり、これ又一ヶ年四萬七千圓餘の  
經費を要し、これ等を合しますと、  
市内の清潔保持の爲に市が費す經費  
は一ヶ年實に三十萬圓に達する譯で  
あります。

市民の御協力によつて家庭から出  
る塵芥の中、燃料に使用出来るもの  
堆肥に利用出来るもの、窪地の埋め  
合せに利用出来るもの、豚や鶏の飼  
料に利用出来るもの等を撰りわけ  
て、夫々に利用して戴けば、塵芥や  
下水泥の處理に要する經費だけでも

市としては大助かりとなり一舉兩得  
となる譯です。

以上二回で厚生施設の市内市民の衛生  
方面に關係のある施設の概要を説明  
しました。性質上少しいん氣臭い話  
になりましたが、次回からは方面を  
變へて朗らかな厚生施設について御  
紹介致します。

## 最近町内會へ發 送した文書摘録

(昭和十七年三月十日)

- 二月七日 大東亞戰爭國債並ニ戰時債券  
消化ニ關スル件(指導課) 十三日 第一  
回家庭用釘配給ニ關スル件(商工課) 十  
四日 遺族慰問實施ノ件(社會課) 十六日  
類特別回收貨物ニ關スル件(倉庫課) 十八  
日 防衛課ニ關スル件(以上指導課) 十六日  
防衛課ニ關スル件(以上指導課) 十七日  
戰時第一次祝賀行事實施ニ關スル件(指  
導課) 十八日 南洋展覽會ニ關スル件(指  
導課) 十九日 幼兒用ビスケット配給ニ關スル件  
衣料切符受渡細則報告書ニ關スル件 十  
九日 二月分家庭用鹽特別配給ニ關スル  
件 第五回鶏卵配給割當ニ關スル件(以  
上商工課) 二十一日 戰時第一次祝賀記  
念大講演會開催ニ關スル件(以上商工課)  
二十三日 「白人」ノ字句使用ニ關スル件  
(指導課) 家庭用小豆臨時配給ニ關スル  
件(商工課) 二十四日 警備禁止中ニ屬  
スル警報器ノ試験吹鳴施行ノ件 防空訓  
練實施ニ關スル件(以上防衛課) 満洲建

# チフスまた猖獗

なんてもかんでも生物禁物

に努めて下さるやう切望致します。

### チフス豫防の注意

- 一、昨年豫防注射を受けなかつた方  
は是非ともワクチン豫防劑を服用  
すること。
- 二、この際食物は煮るか、焼くか  
して食へることとして決して生の魚  
介類や野菜等を食へぬこと。
- 三、店屋で買つたものはたとへ調理  
してあつても家庭で再び煮るか焼  
くかして食へること。
- 四、食物はなるべく自宅で調理した  
安心して食へられるものを攝ること。
- 五、使ひ水は飲用水と同じものを用  
ひ河水や海水で食物や飲食物器具を  
洗はぬこと。
- 六、食物を調理する前と食事をする  
前には必ず手を洗いぬいに洗ふこ  
と。
- 七、會葬のときの飲食はすべてなる  
べく遠慮すること。
- 八、家の内を綺麗にすること。特に  
お臺所の流し場は時々熱湯で洗ふ  
こと。
- 九、風邪は萬病の因です。殊にチフ  
スを引きおこすものになり易い  
すから風を引かぬやう注意するこ  
と。

## 家屋異動通知縦覽

廣島市告示第三四號

廣島稅務署管内廣島市異動家屋ニ對  
スル賃貸價格通知書ヲ左ノ通縦覽ニ  
供ス

昭和十七年三月十日

廣島市長 藤田 若水

一、縦覽場所 廣島市役所

二、縦覽期間

昭和十七年 自三月十一日  
至三月三十日

三、縦覽時刻

自午前九時  
至午後四時

## 尿尿汲取の 料金値上

一荷て五錢宛

◆四月一日から尿尿汲取料金一荷十  
五錢が五錢上つて一荷二十錢に改正  
されることになりました。◆ところが  
是迄に御買求めになつて手許にあり  
ます汲取券が四月一日までに御使  
ひにならないで残つた分は、新しい  
料金に換算して新汲取券と御引換へ  
しますからまことに御迷惑ですが來  
る三月三十一日まで市役所清掃課  
へ御持参を願ひます。◆無論、古い  
汲取券に現金五錢を添へて御使ひに  
なれば便利のやうですが、こんな  
して現金を扱はれますと兎角いろ  
ろな間違ひを起し易いので何卒  
この方法を御用ひにならぬやうお斷  
り致します。

## 醫者より用心第一

本市の腸チフス患者は昨年の末か  
ら次第に増へて本年に入ると俄かに  
激増して最近五年間の平均發生患者  
數一月五八、二月六三・六に對し本  
年の夫れは一月一〇五、二月一〇二  
と殆ど二倍に達する現狀でありま  
す。曾てチフスは本市の風土病であ  
るかやうな状態でありましたが市  
民各位の自肅自戒により近年著しく  
患者數が減退して居りましたのに大  
東亞戰爭が戦はれつゝあります今  
日、而も軍都としての大任務を負ふ  
本市に又復かゝる憂ふべき事が發生  
しましたのはまことに遺憾の極みで  
あります。この際全市舉つて左記を  
嚴守勵行されましてこれが減退終熄

## 市内傳染病發生月報

(二月中)

町名	發生數	西郷町	二	下中町	一	矢賀町	一	白島九軒町	二
小網町	二	比治山町	二	大手六丁目	二	舟入川口町	二	八丁堀	一
西白島町	一	南千田町	一	西盤屋町	一	鐵砲町	一	廣瀬元町	一
吉島町	一	若草町	一	河原町	一	寶町	三	平野町	一
己斐町	一	江波町	二	千田一丁目	一	鷹匠町	三	千田三丁目	一
南竹屋町	二	荒神町	二	仁保町	一	水主町	七	横堀町	一
出沙町	二	上流川町	一	鐵治屋町	一	田中町	三	舟入木町	一
南觀音町	四	仁保町	一	東盤屋町	二	田中町	三	寺町	一
國榮寺町	二	三盤本町	二	中島新町	一	寶三丁目	三	鶴見町	二
牛田町	二	三盤本町	一	段原末廣町	一	昭和三丁目	二	上柳町	一
宇品町	九	大手八丁目	一	觀音木町	一	鐵砲屋町	一	東觀音町	一
						鐵砲屋町	一	新川場町	一



夏採り大根の代表的のもので大根の少い時期に出來ますので人氣があります。この美濃早生大根に早生と晩生の二品種があり、早生は四月下旬から九月下旬迄栽培され晩生は九月月上旬から十月下旬迄が收穫期で兩品種とも一本の重さ二百匁―四百匁になります。辛味が少く汁氣が多いので卸大根として適當です。

適地 土質は膨軟で表土が深く數回根菜類を栽培した場所に良品が出來ます。

畑の整備 七八寸の深さによく耕し土の塊を丁寧に碎きます。よく土

すが氣候の進むにつれ花が早く咲いてスの出来る處がありますので常に注意して夏前の栽培では三十五日経てばどしどし引抜いてしまふ事です

肥料 大根の事です。から下肥を主として施します。一坪當の分量を示しますと

	總量	原肥	一回	追肥
堆肥	一貫	一貫	—	二回
木灰	一〇匁	一〇匁	—	—
人糞尿	二斗	五升	五升	一斗

施し方は堆肥木灰は播條の間に溝を掘りてそれに施し人糞尿は播條に施

（美濃早生大根）

三、四月は例年でも野菜の不自由な時季であります。殊に今日のやうな時節には一層それがひどいと見ねばなりません。この場合野菜飢饉をいくらか軽くするには空地や空箱を使つて野菜作りをするより外はありません。またこれが一番賢い方法であります。そこで市農會あたりでも野菜の種を配布して素人の野菜作りをお奨めしてゐる譯けてあります。この機會に手輕に出来る野菜作りの方法二、三種を次にざつと説明致しませう。

空地空箱での野菜作り

野菜飢饉克服

が碎けて居ないと曲りものや二丈の大根が出来易いのです。かくして平に均しましたなれば一尺五寸―二尺の距離に條を作り條播又は點播します。

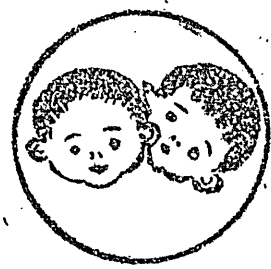
播種 種子を播く時期と收穫期との關係を示しますと

播種期	收穫迄の日數	收穫期
四月下旬	五日—六日	六月中旬
五月中旬	翌日—翌日	六月下旬
五月下旬	四日—五日	七月上旬
八月月上旬	三日—四日	九月中旬

となります。然し大根が目的でなく淺漬に使用する場合は播種後二十日も経過すれば十分です。播種は四月

下管から八月下旬まで続け一鉢に  
すが氣候の進むにつれ花が早く咲い  
てスの出来る處がありますので常に  
注意して夏前の栽培では三十五日經  
てばどし／＼引抜いてしまふ事です  
肥料 大根の事です。から下肥を主  
として施します。一坪當の分量を示  
しますと

廣 島 市 報



子は國の寶

強く正しく育てませう

ことがわかります。

子供が生れた時の目方は男の子は三キロ、女の子は二・八キロでありますから前述のやうに順調の發育をしますと四ヶ月経てば六キロ、丁度倍になるといふことになります。三倍になるのは丁度お誕生の頃でありまして九キロになります。満五歳になれば大體五倍になります。之等の目安だけは是非とも知つて置く必要があらうと思ひます。

次に離乳期の話をいたしませう。一體我々が離乳期と申しますのはいつ頃かといひますと大體生後六ヶ月

名譽の戦死者

官等級	氏名	往所
陸軍少尉	伊藤 好明殿	西觀音三丁目
同 軍曹	伊豫田澤次殿	已斐町
同	光宗 定夫殿	南三篠町
同	前川 春人殿	三川町
海軍三曹	高畑 海三殿	宇品町
陸軍伍長	土鼻 芳男殿	已斐町
同 兵長	海軍一水 三原 恂殿	矢賀町

を過ぎた時期、即ち七ヶ月目から約一ヶ年位を申しますが、世間の實際では生後一年半までは離乳を完成してゐないのが普通であります。離乳と云ふことを醫者が何故特別重要に取扱ふかと申しますと、か弱い離乳期の乳兒に大人の食べるものをすぐによつたら下痢を起すこと、又日本の夏は乳幼児には甚だ不健康で消化不良や痙攣、赤痢と云ふやうな病氣になり易いから特に食餌に注意して健康に育てようと云ふ老婆心からであります。更に離乳を七ヶ月頃から始めようと云ふことは、お乳も六ヶ月位迄は眞に結構ですけれども六ヶ月過ぎになるといふ／＼と運動をするやうになります、運動の基になるのは含水炭素であります、ところが母親の乳には割合含水炭素が多くないので少し大きな赤ちゃんだと含水炭素の不足が一番目立つて参ります。更に困るのは鐵分であります。其の證據には離乳期の遅れた子供は

皆蒼い顔色をしてゐます。これは身體の中の血が少いからであります。その血を作る材料が鐵分であります。その鐵分は牛乳にも母乳にも非常に量が少いのでどうしても乳だけではやつて行けない、まだこの外にも理由はありますが兎に角かうした理由により六ヶ月を過ぎましたらほのかの物を與へる準備をせねばなりません。殊に人工榮養で育つてゐる子供でしたら人工榮養を始めたその時から果物とか野菜スープを補ふことが必要であります。(乳幼児の健康相談は體力課で扱つて居ります一係)

## 市道の認定變はる

廣島市告示甲第三二號

廣島市長 藤田若水  
市内吉島本町地内市道五二號線ヲ左  
記ノ通り認定變更シ變更ニ依リ新タ  
ニ道路區域ニ編入シタル部分ノ供用  
ヲ開始ス(圖面ハ土木部土木課ニア  
リ)

線 路 更 變		線 路 舊	
同	路線名	三號	路線名
同 吉島本町 五三番地 上五番地 五	起點及終點	同 吉島本町 五七番地 上五番地	起點及終點
四尺	幅員	三尺	幅員
二七・〇〇	延長	一六・五〇	延長

の生長を圖ることが大切です。

時無大根作方

春三月から五月頃迄に收穫されるもので百二十匁―二百五十匁位になります。淺漬大根及び大根卸しに多く用ひられます。

適地 美濃早生大根同様土質車  
かで表土の深き砂がかつた處に適  
ます。大根を作つた土地には木目  
細かい優品が出来ます。

播種期 五月 中旬  
 脊上中旬 一月中旬—脊下旬  
 播種の仕方は先づ原肥を施し一尺五寸—二尺の距離に條を作りそれに條播又は點播して三、四分の厚さに覆土をします。

肥糞 美濃早生大柿同樹です。  
發芽後の手入 發芽後四、五日して  
第一回の間引を行ひ一回後七日目位  
後に二回目の間引を行ひその後十五  
日目に五寸位の距離になる様最後の  
間引を行います。

廣島市公債償還公告

二月十八日 本市公債償還抽籤執行セシ處左記番號當籤ニ付來ル三月三十日該當證券引換ニ支拂可致候也

廣島市舊債償還借替公債 (ち號)  
壹萬圓券 參參、參五、九壹、壹壹貳、壹貳七  
廣島市第三期水道擴張費舊債償還借替公債 (り號)  
壹萬圓券 八、壹壹、壹參、五五、九壹、九四  
壹千圓券 貳四、參〇、參六  
右支拂場所、廣島市役所 株式會社日本勸業銀行廣島支店  
昭和十七年二月十九日 廣島市長 藤田若水



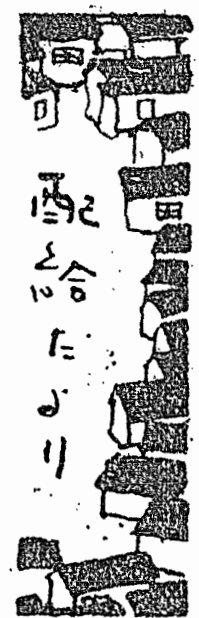
廣島市外四都市生活用品  
小賣價格指數比較表

廣島市役所産業部統計課編

註 昭和十七年一月調（第二回）  
昭和十二年七月を100とす

品 目	廣島市	東京市	大阪市	横濱市	京都市
飲 食 料 品	172.0	179.7	166.8	174.2	169.5
米 麥 類	147.5	127.0	125.3	134.8	133.6
鮮 魚 介 類	216.4	207.6	185.3	202.2	208.9
蔬 菜 類	164.6	178.0	152.6	182.6	162.8
乾 物 類	221.8	214.8	242.0	218.6	202.4
調 味 類	129.2	118.0	114.3	122.2	115.3
酒 類	149.5	136.0	143.0	141.4	150.5
菓 子 類	171.4	204.7	170.0	200.9	183.5
果 實 類	206.2	160.0	161.5		193.5
飲 料	175.2	159.0	147.0	191.1	166.0
(其他略)					
居 住 關 係 品	207.1	232.8	206.8	182.2	196.2
住 宅 造 作 料	153.2	185.7	173.0	164.5	153.7
家 具 及 什 器	245.4	272.0	236.6	216.1	228.1
光 熱 材 料 品	161.0	148.8	157.5	158.2	149.7
燃 料	176.3	158.6	169.0	169.8	159.6
(其他略)					
被 服 身 裝 品	224.0	264.5	280.4	258.4	227.0
衣 料	211.7	257.8	310.8	281.1	228.4
身 の 廻 り 品	245.3	275.9	228.6	221.9	224.5
醫 藥 衛 生 材 料	171.8	159.8	146.3	138.3	133.9
雜 品	146.7	146.5	136.5	174.7	146.0
總 平 均	186.6	197.3	190.4	186.2	178.5

備考（廣島市欄）○印は先月より騰貴した物品  
△印は先月より低落した物品  
本表を第一回發表指數(昨年十二月分)に比較すると十五品  
目中騰貴したものは九品目で總平均に於ても勿論0.1方の  
騰貴である、政府は低物價政策維持に必死の努力せるに拘  
らず微騰の傾向にあるので吾々時局下の緊縮生活は更に一  
段と強化徹底しなければ國策に即應することは出来ず又政  
府の施策をして無意義に終らしむる虞渺しとしないのである。



ン割當配給制通知 十日 療養用  
鶏卵回数購入券交付者を市役所よ  
り町内會へ移管

叙任及辭令

厚生部保健課防疫係長  
主事 楠 桑 原  
停年ニ付退職ヲ命ス(二月八日附)  
水道部長 三 上 昭 雪  
臨時水道擴張部長兼務ヲ命ス  
水道部經理課長  
主 事 瀧 澤 拾 雄  
臨時水道擴張部庶務課長兼務ヲ命ス  
水道部工務課長  
技 師 篠 原 一 衛  
臨時水道擴張部技術課長兼水道部工

務課勤務ヲ命ス  
水道部工務課工事係長  
技 師 寺 西 正 雄  
水道部工務課長兼臨時水道擴張部  
技術課勤務ヲ命ス  
水道部經理課庶務係長  
主 事 楠 手 島 正 道  
臨時水道擴張部庶務課庶務係長兼務  
ヲ命ス  
書 記 龍 神 部  
臨時水道擴張部技術課庶務係長兼  
臨時水道擴張部庶務課勤務ヲ命ス  
(以上二月十二日附)  
土木部用地課庶務係長  
主 事 楠 村 中 耕 作  
任主事(三月九日死亡)

斷郊競走

去る三月一日舉行の本市主催第一回市  
民體育團體山野斷郊競走大會入賞者左の  
通り

賞狀の部

壯年組 第一位 四二・四分四三秒 觀音俱  
樂部(正木庄次郎、中泉弘、下津卯多  
夫) △第二位 西盤屋町本通町内會 △  
第三位 西觀音町二丁目北部町内會 △  
第四位 松柏會 △第五位 西新町々内  
會 △第六位 稻荷町西組町内會 △第七  
位 西新町上組町内會  
青年組 第一位 四八・〇〇秒 觀音鑄造  
所(增西春三、伊原桂遠、福木八十二)  
△第二位 西大工町々内會 △第三位  
西盤屋町本通町内會 △第四位 日本通  
運會社 △第五位 被服支廠 △第六位  
西新町南組町内會  
少年組 第一位 四六・一六 日本發  
送會社 A 組(石村新平、山田譽富、  
寺田義明) △第二位 日本製鋼所 A 組 △  
第三位 尾長青年團 A 組 △第四位 神  
崎青年團 A 組 △第五位 段原中町々内  
會 B 組 △第六位 廣瀬青年團 A 組

記録賞の部

壯年組 第六位まで受賞  
青年組 第四位まで受賞  
少年組 入賞第六位以外に日本製鋼 B  
中國新聞社、西盤屋本通、廣島電氣、  
廣島驛、神崎青年團 B、同 C、西盤屋  
本通 B、段原新町、日本製鋼、段原中  
町 A、發送電 B、廣瀬青年團 B



# 廣島市報

## 十七年度廣島市 總豫算ノ要領

●廣島市告示第四九號

廣島市會ノ議決ヲ經タル昭和十七年度廣島市  
歳入出豫算ノ要領左ノ如シ、詳細ハ市役所ニ  
就キ閱覽アルベシ、但シ本豫算ハ四月一日ヨ  
リ執行ス

昭和十七年三月二十五日

廣島市長 藤田 若水

### 昭和十七年度廣島市歳入出豫算

歳入

- 第一款 國稅附加稅 金貳百五拾四萬五千元
- 第一款 地租附加稅 金參拾參萬貳千六百四拾四圓
- 第二款 營業稅附加稅 金壹百六拾貳萬壹千八百八拾八圓
- 第三款 家屋稅附加稅 金五拾九萬壹千八百八拾八圓
- 第二款 縣稅附加稅 金參拾貳萬貳千六百貳拾四圓
- 第一款 船舶稅附加稅 金貳千六百拾八圓
- 第二款 船舶稅附加稅 金參百參拾五圓
- 第三款 自動車稅附加稅 金貳萬七千九百五圓
- 第四款 電柱稅附加稅 金壹萬參千六百五拾八圓

號	時	臨
昭十七年三月三十一日	三時	昭十七年三月三十一日
昭十七年三月三十一日	三時	昭十七年三月三十一日
昭十七年三月三十一日	三時	昭十七年三月三十一日

主要目次
昭和十七年度廣島市總 豫算要領△昭和十七年 度廣島市總豫算に關する藤田市長説明要 旨△家庭燃料配給方法大改正△町内會正 副會長與動△道路工事受益者負擔告示

- 第五項 不動產取得稅附加稅 金貳拾四萬八千七百七拾七圓
- 第六項 漁業權稅附加稅 金壹千貳百九圓
- 第七項 狩獵者稅附加稅 金四百五拾圓
- 第八項 藝妓稅附加稅 金貳萬六千九百四拾七圓
- 第九項 家屋稅附加稅 金五百貳拾四圓
- 第三款 獨立稅 金六拾壹萬九千貳拾八圓
- 第一款 市稅 金四拾五萬七千八百六拾七圓
- 第二款 舟稅 金八百七拾四圓
- 第三款 自轉車稅 金九萬五千五百五拾五圓
- 第四項 荷車稅 金五千六百六拾五圓
- 第五項 金庫稅 金壹萬四圓
- 第六項 扇風機稅 金壹萬四千七百參拾九圓
- 第七項 屠畜稅 金貳萬八千參百參拾貳圓
- 第八項 犬稅 金四千四百九拾八圓
- 第九項 傭人稅 金六千四百九拾四圓
- 第四款 舊法ニ依ル稅收入 金壹萬貳千七百四拾四圓
- 第一款 舊法ニ依ル稅收入 金壹萬貳千七百四拾四圓
- 第二款 地方分與稅 金貳萬五圓
- 第一款 都市配付稅 金貳萬五圓
- 第六款 財產ヨリ生スル收入 金九萬八千八百六拾八圓
- 第一款 基本財產收入 金壹千六百七拾六圓
- 第二款 罹災救助基金收入 金貳千參百貳拾八圓
- 第三款 蓄積金收入 金貳千貳百參拾九圓
- 第四項 貸地料 金壹萬四千四百四拾壹圓
- 第五項 貸家料 金七萬八千四百八拾八圓
- 第七款 使用料及手数料 金壹百四拾貳萬六千五百拾壹圓
- 第一款 使用料 金壹百參拾壹萬七千四拾六圓
- 第二款 手数料 金拾參萬九千八百五圓
- 第八款 給水工事費收入 金拾參萬貳千五百壹圓

## 木炭煉炭薪等の 配給方法大改正

家族數疊數などを考慮  
一年を通しての配給となる

一、從來は一ヶ月を基準として配給されてゐたのが今度は一ヶ年を標準として配給する。

一、從來各家庭への燃料配給は原則として各隣組長に於て各世帯の炊事設備の状況に應じ重點的に配分することになつてゐたが改正された配給方法は各世帯の「家族數」「ガス使用の有無」「疊數」を考慮してその家庭が一ヶ年に配給される各種燃料の數量を決定、これを



第三款 第二工業學校費	金六萬六千八百拾壹圓
第一項 給料及雜給	金五萬八千四百貳拾參圓
第二項 需用費	金八千參百貳拾八圓
第三項 修繕費	金六拾圓
第四款 高等女學校費	金六萬六千八百六拾五圓
第一項 給料及雜給	金六萬參千七拾四圓
第二項 需用費	金參千四百拾七圓
第三項 修繕費	金參百七拾四圓
第五款 青年學校費	金九萬七千貳百拾五圓
第一項 青年學校費	金九萬壹千五百拾貳圓
第二項 女子青年學校費	金五千七百參圓
第六款 圖書館費	金壹萬七千八百參拾四圓
第一項 給料及雜給	金壹萬壹千四百六拾五圓
第二項 需用費	金六千壹百六拾九圓
第三項 修繕費	金貳百圓
第七款 指導費	金四千四拾六圓
第一項 社會教化費	金參千參百貳圓
第二項 山陽文德殿諸費	金貳百四拾參圓
第三項 千田神社諸費	金五百壹圓
第八款 町內會諸費	金拾六萬參千五百拾壹圓
第一項 町內會諸費	金拾六萬參千五百拾壹圓
第九款 體力費	金貳萬五千七百四拾四圓
第一項 體育指導費	金八千七百貳拾八圓
第二項 體力管理諸費	金五千參百七拾八圓
第三項 乳幼兒母性體育諸費	金貳千八百貳拾六圓
第四項 健康指導費	金六千參拾四圓
第五項 結核豫防費	金貳千七百七拾八圓
第十款 市民健康管理所費	金五千九百四拾九圓
第一項 雜給	金參千參百五拾五圓
第二項 需用費	金貳千五百四拾四圓
第三項 修繕費	金五拾圓
第十一項 水道費	金四拾壹萬壹千六拾九圓
第一項 雜給	金八萬九千六百八拾貳圓
第二項 需用費	金壹萬壹千貳百六拾壹圓
第三項 作業費	金參拾萬五拾九圓
第四項 維持管理費	金壹萬六拾七圓

第三款	傳染病豫防費	金壹萬四千九百四拾七圓
第一項	雜給	金九千七百拾八圓
第二項	需用費	金五千貳百貳拾九圓
第三款	トラホーム豫防費	金壹千貳百八拾參圓
第一項	船入病院費	金四萬九千九百九拾五圓
第一項	雜給	金壹萬六千六百貳拾壹圓
第二項	需用費	金參萬壹千五百參拾六圓
第三項	修繕費	金壹千八百參拾八圓
第四款	畑賀病院費	金七萬五千四百參拾七圓
第一項	給料及雜給	金貳萬壹百六拾圓
第二項	需用費	金五萬參千參百九拾參圓
第三項	修繕費	金壹千八百八拾四圓
第五款	花柳病診療所費	金壹萬貳百參拾四圓
第一項	雜給	金貳千五百五拾九圓
第二項	需用費	金七千五百七拾五圓
第三項	修繕費	金壹百圓
第六款	衛生試驗所費	金參千七百六拾五圓
第一項	雜給	金壹千參百五拾七圓
第二項	需用費	金貳千參百七拾貳圓
第三項	修繕費	金參拾六圓
第七款	姪婦指導費	金壹萬七百七拾參圓
第一項	給料及雜給	金八千貳百八拾參圓
第二項	需用費	金貳千四百九拾圓
第八款	衛生諸費	金貳千七百參拾七圓
第一項	衛生諸費	金貳千七百參拾七圓
第九款	塵芥處理費	金拾參萬參千八拾壹圓
第一項	蒐集費	金拾參萬壹千四百參拾壹圓
第二項	燒却場費	金壹千六百五拾圓
第十款	下水掃除費	金四萬七千七百六拾七圓
第一項	雜給	金四萬五千貳百拾八圓
第二項	需用費	金貳千五百四拾九圓
第十一款	屎尿處理費	金拾壹萬七千六百四拾五圓
第一項	汲取諸費	金九萬參千貳拾四圓
第二項	處理場費	金壹千五百五圓
第三項	船舶輸送諸費	金貳萬參千壹百拾六圓

[illegible]

當豫定貨	二〇一〇年																	
	四袋	五袋	六袋	七袋	八袋	九袋	一〇袋	一袋	二袋	三袋	四袋	五袋	六袋	七袋	八袋	九袋	一〇袋	二袋
五月	1	1	—	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2
六月	—	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2
七月	—	1	—	—	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	1	1	2	2
八月	—	—	1	1	—	—	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2
九月	—	—	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2
十月	1	1	—	—	—	—	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1
十一月	—	—	1	1	1	1	—	1	2	1	2	2	2	1	1	1	1	2
十二月	1	1	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2
一月	—	—	1	—	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
二月	1	1	—	1	1	—	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2
三月	—	—	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	2	2	2	2	2

<p>第一項 給水工事費收入 金拾參萬貳千五百壹圓</p> <p>第九款 交 付 金 金拾七萬貳千貳百拾八圓</p> <p>第十款 報 償 金 金拾七萬貳千貳百拾八圓</p> <p>第十款 報 償 金 金參萬六千八百參拾圓</p> <p>第一款 國庫補助金 金四拾壹萬參千五百貳拾五</p> <p>第二款 國庫補助金 金四拾壹萬參千五百貳拾五</p> <p>第三款 縣補助金 金八萬壹千七百八拾圓</p> <p>第四款 縣補助金 金八萬壹千七百八拾圓</p> <p>第五款 寄 附 金 金壹圓</p> <p>第六款 寄 附 金 金壹圓</p> <p>第七款 財產賣拂代 金貳圓</p> <p>第八款 財產賣拂代 金貳圓</p> <p>第九款 雜 收 入 金拾六萬七千九拾四圓</p> <p>第十款 雜 收 入 金參萬八百貳拾圓</p> <p>第一款 繰替金戻入 金拾參萬六千貳百七拾四圓</p> <p>第二款 繰 越 金 金五拾壹萬參千九百壹圓</p> <p>第三款 繰 越 金 金五拾壹萬參千九百壹圓</p> <p>第四款 前年度繰越金 金貳百參拾四萬六百元</p> <p>第五款 市 債 金貳百參拾四萬六百元</p> <p>第六款 市 債 金貳百參拾四萬六百元</p> <p>第七款 負 擔 金 金八千參百六拾圓</p> <p>第八款 負 擔 金 金八千參百六拾圓</p> <p>第九款 受益者負擔金 金八千參百六拾圓</p> <p>第十款 繰 入 金 金五拾七萬七千五百圓</p> <p>第一款 繰 入 金 金五拾七萬七千五百圓</p> <p>歲入合計金九百五拾貳萬六千八百拾八圓</p>	<p>歲出經常部</p> <p>第一款 神 社 費 金參千百五拾五圓</p> <p>第二款 神饌幣帛料 金四百九拾四圓</p> <p>第三款 供 進 金 金千八百四拾圓</p> <p>第四款 獻穀諸費 金參百貳拾壹圓</p> <p>第五款 需 用 費 金五百圓</p> <p>第六款 舊御便殿保存費 金九百四拾圓</p> <p>第七款 雜 給 金百貳拾八圓</p> <p>第八款 需用費及修繕費 金八百拾貳圓</p> <p>第九款 記念建造物保存費 金貳百貳拾八圓</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第一項 雜給	金九拾八圓
第二項 需用費及修繕費	金百參拾圓
第四款 市會費	金貳萬八千參百參拾圓
第一項 費用辦償	金壹萬五千百壹圓
第二項 給料及雜給	金壹萬千參百參拾八圓
第三項 需用費	金千八百九拾壹圓
第五款 市參事會費	金參千八百七拾九圓
第一項 費用辦償	金參千七百九拾貳圓
第二項 諸手當	金七拾貳圓
第三項 需用費	金拾五圓
第六款 役所費	金九拾五萬壹千七百七拾八圓
第一項 給料及雜給	金八拾五萬四千四拾七圓
第二項 需用費	金九萬參千五百貳拾壹圓
第三項 修繕費	金參千六百拾圓
第七款 土木費	金九萬九千九百參圓
第一項 道路橋梁費	金九萬八千貳百貳圓
第二項 河港諸費	金壹千七百壹圓
第八款 國民學校費	金參拾萬五千六百五拾九圓
第一項 給料及雜給	金貳拾壹萬七千四百八拾貳圓
第二項 需用費	金五萬六千七百八拾貳圓
第三項 學事諸費	金壹萬壹千貳拾圓
第四項 修繕費	金貳萬參百七拾五圓
第九款 夜學校費	金參千壹百壹圓
第一項 給料及雜給	金貳千八百八拾九圓
第二項 需用費	金貳百拾貳圓
第十款 商業學校費	金七萬四千參百拾七圓
第一項 給料及雜給	金六萬八千八百五圓
第二項 需用費	金四千七百八圓
第三項 修繕費	金八百四圓
第十二款 第二商業學校費	金參萬參千八百圓
第一項 給料及雜給	金貳萬九千九百五拾九圓
第二項 需用費	金參千八百四拾壹圓
第十三款 第一工業學校費	金六萬八千五百五拾五圓
第一項 給料及雜給	金五萬七千參百六拾壹圓
第二項 需用費	金壹萬壹千九拾四圓
第三項 修繕費	金壹百圓

品 種		家 族 數 ガ ス	1人		2人		3~5人		6~8人		9~11人		12~15人		16~20人		21人以上 毎二		
			有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	
木	10疊以下	3俵	4	4	5	4	6	5	7	6	8	6	9	7	10	1	1	1	1
	20疊以下	3疊	4	4	6	5	7	6	8	6	9	7	10	8	11	1	1	1	1
	30疊以下	3俵	4	5	7	6	8	6	9	7	10	8	11	8	12	1	1	1	1
	40疊以下	4俵	5	6	8	6	9	7	10	8	11	8	12	9	13	1	1	1	1
	50疊以下	4俵	5	6	9	7	10	8	11	8	12	9	13	10	14	1	1	1	1
	60疊以下	4俵	5	6	9	8	11	8	12	9	13	10	14	11	15	1	1	1	1
炭	70疊以下	4俵	5	6	9	8	12	9	13	10	14	11	15	11	16	1	1	1	1
	71疊以上10疊 増毎	0俵	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
煉	炭	4袋	6	4	6	7	11	8	13	9	15	10	17	11	19	1	2		
	薪		36束	36	48	60	72	84	96	12									

毎月の配給量によつて配給することであります。これを表に現すとざつと次の通りになります。無論、生産需給の様子によつては繰上げ、繰延の配給もあることも豫想されますから各家庭の主婦は今から次の表によつて自分の家に配給を受けられる各種燃料の數量と睨み合はせて季節その他を考へ自分の家の燃料使用量月別の計畫を樹てる一方出来る限りこれを節約して繰下げ配給の場合などに狼狽せぬ用意が必要であります。

なほこの改正に伴ひ配給切符も改正されますがこの方は印刷が間に合はぬため四月中は従來の切符を使用し五月から新切符となる豫定であります。



<p>第一項 選舉人名簿調製費 金八千參百四拾貳圓</p> <p>第二項 選舉人名簿調製費 金八千參百四拾貳圓</p> <p>第三項 諸稅及負擔 金壹千九百七拾六圓</p> <p>第四項 負擔 稅 金壹千九百拾六圓</p> <p>第五項 負擔 金六拾圓</p>	<p>第一款 財產費 金壹千九百參拾五圓</p> <p>第一項 管理費 金壹千九百參拾五圓</p> <p>第二款 基本財產造成費 金壹千參百貳拾參圓</p> <p>第一項 基本財產造成費 金壹千參百貳拾參圓</p> <p>第三款 公金取扱費 金壹萬五千貳百九拾四圓</p> <p>第一項 公金取扱費 金壹萬五千貳百九拾四圓</p> <p>第四款 雜支 金八萬五千四百九拾壹圓</p> <p>第一項 滯納處分費 金千參百圓</p> <p>第二項 過年度支出 金九千五百參拾四圓</p> <p>第三項 繰替金 金參萬八百貳拾圓</p> <p>第四項 縣收入證紙取扱手續料 金六百參拾六圓</p> <p>第五項 納稅獎勵費 金壹萬千貳百八拾圓</p> <p>第六項 兵事諸費 金七千八百四拾參圓</p> <p>第七項 雜出 金貳萬四千七拾八圓</p>	<p>第五款 豫備費 金九萬貳千壹圓</p> <p>第一項 豫備費 金九萬貳千壹圓</p> <p>第六款 中學校費 金貳萬四千八百拾八圓</p> <p>第一項 給料及雜給 金貳萬參千九拾圓</p> <p>第二項 需用費 金千七百貳拾八圓</p> <p>第七款 實科高等女學校費 金八千七百參圓</p> <p>第一項 給料及雜給 金七千九百四拾參圓</p> <p>第二項 需用費 金七百拾圓</p> <p>第三項 修繕費 金五拾圓</p> <p>經常部計金參百六拾七萬六千四百九拾八圓</p>	<p>臨時部</p> <p>第一款 役所費 金七萬五千四百貳拾七圓</p> <p>第一項 各種調查委員會諸費 金貳圓</p> <p>第二項 企畫調查費 金四萬貳千八百八拾六圓</p> <p>第三項 公用地占用調查費 金千八百八拾貳圓</p> <p>第四項 衆議院議員選舉執行費 金八千五百五拾圓</p> <p>第五項 市會議員選舉執行費 金八千六百拾五圓</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第六項	選舉公營費	金貳千拾圓
第七項	課稅調查費	金貳千五百七拾參圓
第八項	稅制改革ニ依ル課稅調查費	金八千四拾圓
第九項	所得調查委員選舉費	金八百六拾六圓
第二款	區劃整理調查及助成費	金六千七百拾七圓
第一項	區劃整理調查及助成費	金六千七百拾七圓
第三款	土木費	金拾九萬八千四百參拾參圓
第一項	土木費	金拾九萬參千四百參拾參圓
第二款	受託工事費	金五千圓
第四款	教育費	金拾八萬貳千四百六拾九圓
第一項	國民學校費	金拾六萬七千七百參拾圓
第二項	青年學校費	金六百七拾四圓
第三項	商業學校費	金參千四百參拾圓
第四項	實科高等女學校費	金壹萬六百參拾五圓
第五項	水道費	金貳萬參千壹百五圓
第六項	作業費	金貳萬參千壹百五圓
第六款	產業諸費	金九萬九千四百參拾貳圓
第一項	商工諸費	金貳萬九千貳圓
第二項	殖產諸費	金貳萬貳千壹圓
第三項	臨時統制經濟諸費	金貳萬九千壹百七拾圓
第四項	漁家轉業對策諸費	金四千貳百五拾參圓
第五項	南方調查費	金壹萬五千圓
第七款	下水道費	金貳拾壹萬六千圓
第一項	下水道費	金拾萬貳千圓
第二項	用惡水路費	金拾壹萬四千圓
第八款	傳染病豫防費	金壹萬四千六百拾八圓
第一項	傳染病豫防費	金壹萬四千六百拾八圓
第九款	屎尿處理費	金壹千圓
第一項	屎尿處理費	金壹千圓
第十款	警防費	金參拾五萬九千七百七拾九圓
第一項	警防費	金參拾五萬九千七百七拾九圓
第十一款	公園費	金參千圓
第一項	公園費	金參千圓
第十二款	積立金	金五百八拾九圓
第一項	積立金	金五百八拾九圓
第十三款	訴訟費	金壹圓

<p>第二款 一般會計繰入金 金八百九拾圓</p>	
<p>第一項 一般會計繰入金 金八百九拾圓</p>	<p>(減參千參百四拾八圓)</p>
<p>歲入合計金六拾六萬八八百九拾圓 (減四拾四萬參千參百四拾八圓)</p>	
<p>第一款 廣島工業港修築諸費 金六拾六萬圓</p>	
<p>第一項 廣島工業港修築諸費 金六拾六萬圓</p>	<p>(減四拾四萬參百八拾八圓)</p>
<p>第二款 公債費 金八百九拾圓 (減貳千九百六拾圓)</p>	
<p>第一項 公債費 金八百九拾圓 (減貳千九百六拾圓)</p>	<p>歲出合計金六拾六萬八八百九拾圓 (減四拾四萬參千參百四拾八圓)</p>
<p>歲入出差引殘金ナシ 廣島市告示甲第四五號</p>	
<p>廣島市會ノ議決ヲ經タル昭和十六年度廣島市歲入出豫算追加ノ要領左ノ如シ 但シ本豫算ハ即日執行ス</p>	
<p>昭和十七年三月二十日</p>	
<p>廣島市長 藤田 若水</p>	<p>昭和十六年度廣島市</p>
<p>歲入出豫算追加</p>	<p>歲入</p>
<p>第六款 使用料及手數料 金四千參拾參圓</p>	
<p>第一項 使用料 金四千參拾參圓</p>	<p>第八款 交付金 金五百七拾圓</p>
<p>第一項 交付金 金五百七拾圓</p>	<p>第一項 交付金 金五百七拾圓</p>

第三款	火葬場及墓地費	金九拾參圓
第一款	管理費	金九拾參圓
第二款	下水道費	金四萬壹千七百四拾九圓
第一項	雜給	金壹萬五千八百八拾貳圓
第二項	需用費	金壹萬壹千貳拾壹圓
第三項	修繕費	金四千參百九拾六圓
第四項	用惡水路費	金八千五百五拾壹圓
第五項	溜池費	金壹圓
第六項	公設枝管費	金八百七拾八圓
第七項	委託工事費	金壹千貳拾圓
第三款	灌溉所費	金四千五百貳拾貳圓
第一項	雜給	金貳千參百六拾參圓
第二項	需用費	金壹千七百五拾七圓
第三項	修繕費	金四百貳圓
第四款	警防費	金拾四萬八千貳百參拾圓
第一項	給料及雜給	金拾萬四千參百六拾參圓
第二項	需用費	金參萬貳百貳拾四圓
第三項	修繕費	金四百四拾參圓
第四項	防空諸費	金壹萬參千貳百圓
第五款	產業諸費	金參萬貳千六百參拾四圓
第一項	商工諸費	金壹萬貳千八百九拾參圓
第二項	度量衡諸費	金四千六百八拾六圓
第三項	殖產諸費	金壹萬貳千四百壹圓
第四項	委員會費	金壹千六百參拾四圓
第五項	軍用保護馬諸費	金壹千貳拾圓
第六款	字品棧橋費	金參千七百六拾貳圓
第一項	雜給	金貳千五百拾八圓
第二項	需用費	金九百四拾四圓
第三項	修繕費	金參百圓
第七款	屠場費	金貳萬貳百八拾九圓
第一項	雜給	金壹萬六千貳百四圓
第二項	需用費	金參千參百五拾壹圓
第三項	修繕費	金七百參拾四圓
第八款	家畜市場費	金貳千八百六拾圓
第一項	雜給	金壹千五百五拾八圓
第二項	需用費	金壹千貳百四拾八圓

第三項	修繕費	金五拾四圓
第卅一款	公設市場費	金壹千五百拾四圓
第一項	雜給	金壹圓
第二項	需用費	金壹千參百參拾參圓
第三項	修繕費	金壹百八拾圓
第卅二款	共同荷揚場費	金壹百六拾圓
第一項	需用費及修繕費	金壹百六拾圓
第卅三款	機械工訓育所費	金四萬八百七拾參圓
第一項	給料及雜給	金貳萬五千參百五拾七圓
第二項	需用費	金壹萬四千八百拾六圓
第三項	修繕費	金七百圓
第卅四款	工業指導所費	金參萬七千參百八拾七圓
第一項	給料及雜給	金貳萬六千四百九拾九圓
第二項	需用費	金九千九百拾八圓
第三項	修繕費	金九百七拾圓
第卅五款	統計費	金貳萬壹千五拾九圓
第一項	統計費	金貳萬壹千五拾九圓
第卅六款	社會事業費	金拾七萬貳千八百九拾六圓
第一項	救護費	金四萬五千貳百七拾四圓
第二項	母子保護費	金貳萬壹千七百壹圓
第三項	醫療保護費	金貳萬五千貳百壹圓
第四項	保養院費	金壹萬九千五百五拾七圓
第五項	診療所費	金九千貳百貳拾六圓
第六項	隣保館費	金七千貳百四拾六圓
第七項	託兒所費	金參萬四千六百參拾六圓
第八項	市營住宅管理費	金壹千九百參拾圓
第九項	公營住宅管理費	金五千參百九拾七圓
第十項	罹災救助費	金貳千參百貳拾八圓
第十項	社會事業諸費	金四百圓
第卅七款	公會堂費	金貳千九百六拾四圓
第一項	雜給	金貳拾四圓
第二項	需用費	金壹千八圓
第三項	修繕費	金壹千九百參拾貳圓
第卅八款	公園費	金五千八百七拾圓
第一項	雜給	金參千參百七拾圓
第二項	需用費及修繕費	金貳千五百圓

●廣島市告示第四四號  
廣島市會ノ議決ノ經タル昭和十六年  
度廣島市特別會計工業港修築費歲入  
出豫算更正ノ要領左ノ如シ  
但シ本豫算ハ即日執行ス  
昭和十七年三月二十日  
廣島市長 藤田若水  
昭和十六年度廣島市  
特別會計工業港修築  
費歲入出豫算更正  
歲入  
第一款 市債 金六拾六萬圓  
(減四拾四萬圓)  
第一項 市債 金六拾六萬圓  
(減四拾四萬圓)

告 示

薪月別割當豫定量

二 一 六 東	二 一 四 東	二 一 二 東	一 九 二 東	一 八 〇 東	一 六 八 東	一 五 六 東	一 四 四 東	一 三 二 東	一 二 〇 東	一 〇 八 東	九 六 東	八 四 東	七 二 東	六 〇 東	四 八 東	三 六 東
四 月	三 月	二 月	一 月	十 二 月	十 一 月	十 月	九 月	八 月	七 月	六 月	五 月	四 月	三 月	二 月	一 月	十 二 月
18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2
19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4
21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5
22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6
23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7
24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8
25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9
26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10
27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11
28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12
29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13
30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14
31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15



二六

<p>第二項 訴訟費 金壹圓</p> <p>第十款 財產費 金四萬貳千七百四拾八圓</p> <p>第一項 財產費 金四萬貳千七百四拾八圓</p> <p>第五款 負擔金 金六萬貳千九拾六圓</p> <p>第一項 負擔金 金六萬貳千九拾六圓</p> <p>第七款 公債費 金百貳拾參萬六千九百圓</p> <p>第一項 公債費 金百貳拾參萬六千九百圓</p> <p>第七款 繰入金 金貳萬七千七百拾九圓</p> <p>第一項 繰入金 金貳萬七千七百拾九圓</p> <p>第六款 時局對策諸費 金拾九萬四千四百五拾六圓</p> <p>第一項 時局對策諸費 金拾九萬四千四百五拾六圓</p> <p>第五款 臨時給與 金四拾九萬貳千參百七拾八圓</p> <p>第一項 臨時給與 金四拾九萬貳千參百七拾八圓</p> <p>第三款 雜支出 金五千四百九拾壹圓</p> <p>第一項 雜支出 金五千四百九拾壹圓</p> <p>第二款 補助費 金拾壹萬八千六百六拾八圓</p> <p>第一項 補助費 金拾壹萬八千六百六拾八圓</p> <p>第三款 寄附費 金貳萬參千貳百七拾圓</p> <p>第一項 寄附費 金貳萬參千貳百七拾圓</p> <p>第三款 第一工業學校建設費本年度支出額 金拾五萬參千貳百六圓</p> <p>第一項 第一工業學校建設費 金拾五萬參千貳百六圓</p> <p>第四款 教育費本年度支出額 金壹圓</p> <p>第一項 國民學校費 金壹圓</p> <p>第一款 新設國民學校建設費本年度支出額 金壹圓</p> <p>第一項 國民學校費 金壹圓</p> <p>第二款 木造建物防火改修事業助成費 金拾五萬八千八百拾七圓</p> <p>第一項 事務費 金六千八百拾七圓</p> <p>第二項 指導宣傳費 金五百圓</p> <p>第三項 防火改修事業助成費 金拾五萬五千五百圓</p> <p>第七款 都市計畫事業路線鐵管布設費本年度支出額 金拾貳圓</p> <p>第一項 都市計畫事業路線鐵管布設費 金拾貳圓</p> <p>第一款 火葬場建設費本年度支出額 金參拾八萬六千五百四拾貳圓</p>	<p>第一項 火葬場建設費 金參拾八萬六千五百四拾貳圓</p> <p>第九款 第四期水道擴張費本年度支出額 金百貳拾萬五千七百圓</p> <p>第一項 事務費 金八萬四千八百八拾參圓</p> <p>第二項 工事費 金百拾貳萬八百拾七圓</p> <p>第三款 中學校建設費本年度支出額 金五拾六萬七千六百四拾五圓</p> <p>第一項 事務費 金七千貳百八拾貳圓</p> <p>第二項 建設費 金五拾六萬參百六拾參圓</p> <p>臨時部計金五百八拾五萬參百貳拾圓</p> <p>歲出合計金九百五拾貳萬六千八百拾八圓</p> <p>歲入出差引殘金ナシ</p> <p>●廣島市告示甲第五〇號</p> <p>廣島市會ノ議決ヲ經タル昭和十七年度廣島市特別會計公益質屋費歲入出豫算ノ要領左ノ如シ但シ本豫算ハ四月一日ヨリ執行ス</p> <p>昭和十七年三月二十五日 廣島市長 藤田 若水</p> <p>昭和十七年度廣島市特別會計公益質屋費歲入出豫算</p> <p>歲入</p> <p>第一款 財產ヨリ生スル收入 金四百四拾圓</p> <p>第一項 預金利子 金四百四拾圓</p> <p>第二款 貸付金ヨリ生スル收入 金六千四百圓</p> <p>第一項 貸付金ヨリ生スル收入 金六千四百圓</p> <p>第三款 流質物賣却處分殘餘金 金貳百拾圓</p> <p>第一項 流質物賣却處分殘餘金 金貳百拾圓</p> <p>第四款 雜收入 金壹百貳拾參圓</p> <p>第一項 雜收入 金壹百貳拾參圓</p> <p>第五款 貸付金戻入 金拾六萬圓</p> <p>第一項 貸付金戻入 金拾貳萬八千圓</p> <p>第二項 過年度貸付金戻入 金參萬貳千圓</p> <p>第六款 繰入金 金四千壹百拾九圓</p> <p>第一項 繰入金 金四千壹百拾九圓</p> <p>第七款 繰越金 金壹圓</p>	<p>第五款 繰越金 金七百貳拾參圓</p> <p>第一項 前年度繰越金 金七百貳拾參圓</p> <p>歲入合計金五千參百貳拾六圓</p> <p>歲出經常部 船入病院費 金四千四百八拾四圓</p> <p>第二項 需用費 金四千四百八拾四圓</p> <p>經常部計金四千四百八拾四圓</p> <p>歲出臨時部 役所費 金八百四拾貳圓</p> <p>第一款 貯蓄獎勵諸費 金八百四拾貳圓</p> <p>臨時部計金八百四拾貳圓</p> <p>歲出合計金五千參百貳拾六圓</p> <p>歲入出差引殘金ナシ</p> <p>●廣島市告示甲第四六號</p> <p>廣島市會ノ議決ヲ經タル昭和十六年度廣島市歲入出豫算追加更正ノ要領左ノ如シ但シ本豫算ハ即日執行ス</p> <p>昭和十七年三月二十日 廣島市長 藤田 若水</p> <p>昭和十六年度廣島市歲入出豫算追加更正</p> <p>歲入</p> <p>第十款 國庫補助金 金五拾參萬參千參百八拾壹圓</p> <p>（增六萬九千七百四拾貳圓）</p> <p>第一款 國庫補助金 金五拾參萬參千參百八拾壹圓</p> <p>（增六萬九千七百四拾貳圓）</p> <p>第五款 繰越金 金參百七拾七萬八千八百六拾壹圓</p> <p>（增貳萬五千四百四拾六圓）</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

一一七

<p>第一項 前年度繰越金 金壹圓</p> <p>歲入合計金拾七萬壹千貳百九拾參圓</p>		<p>第一項 前年度繰越金 金壹圓</p> <p>歲入合計金七千八百七拾七圓</p>		<p>第一項 前年度繰越金 金參百七拾七萬八千八百六拾壹圓</p> <p>(增貳萬五千四百拾六圓)</p>	
<p>第一款 事務費 金五千八百參拾圓</p> <p>第一項 給料及雜給 金五千八拾圓</p> <p>第二項 需用費 金六百五拾圓</p> <p>第三項 修繕費 金壹百圓</p> <p>第二款 貸付金 金拾六萬圓</p> <p>第一項 貸付金 金拾六萬圓</p> <p>第三款 流質物賣却處分殘餘交付金 金貳百拾圓</p> <p>第一項 流質物賣却處分殘餘交付金 金貳百拾圓</p> <p>第四款 雜支出 金參拾圓</p> <p>第一項 雜支出 金參拾圓</p> <p>第五款 豫備費 金貳拾圓</p> <p>第一項 豫備費 金貳拾圓</p> <p>經常部計金拾六萬六千九拾圓</p>		<p>第一款 資金ヨリ繰入 金七千圓</p> <p>第一項 資金ヨリ繰入 金七千圓</p> <p>第二款 資金ヨリ生スル收入 金六百九拾參圓</p> <p>第一項 資金ヨリ生スル收入 金六百九拾參圓</p> <p>歲入合計金七千六百九拾參圓</p> <p>出</p> <p>第一款 小公園敷地買收費 金七千六百九拾參圓</p> <p>第一項 小公園敷地買收費 金七千六百九拾參圓</p> <p>歲出合計金七千六百九拾參圓</p> <p>歲入出差引殘金ナシ</p> <p>●廣島市告示甲第五一號</p> <p>廣島市會ノ議決ヲ經タル昭和十七年度廣島市特別會計公會堂改築資金歲入出豫算ノ要領左ノ如シ但シ本豫算ハ四月一日ヨリ執行ス</p> <p>昭和十七年三月二十五日</p> <p>廣島市長 藤田 若水</p>		<p>第一款 市債 金貳百五萬七千參百圓</p> <p>(增七萬七千圓)</p> <p>第一項 市債 金貳百五萬七千參百圓</p> <p>(增七萬七千圓)</p> <p>第二項 需用費 金四萬八千參百參拾七圓</p> <p>(增參千四百九拾六圓)</p> <p>第五項 防空諸費 金壹萬九千參百圓</p> <p>(增貳千四百圓)</p> <p>經常部計金參百四拾參萬貳千七百四拾八圓</p> <p>臨時部 金五拾壹萬四千九百五拾壹圓</p> <p>(增拾六萬五千九百九拾貳圓)</p> <p>第十款 警防費 金五拾壹萬四千九百五拾壹圓</p> <p>(增拾六萬五千九百九拾貳圓)</p> <p>第一項 警防費 金五拾壹萬四千九百五拾壹圓</p> <p>(增拾六萬五千九百九拾貳圓)</p> <p>臨時部計金八百六拾六萬貳千九百九拾五圓</p> <p>(增拾六萬五千九百九拾貳圓)</p> <p>歲出合計金千貳百九萬四千九百四拾參圓</p> <p>(增拾七萬千八百八拾八圓)</p> <p>歲入出差引殘金ナシ</p>	
<p>第一款 寄附金 金五千圓</p> <p>第一項 寄附金 金五千圓</p> <p>第二款 資金收入 金貳千八百七拾七圓</p> <p>第一項 資金收入 金貳千八百七拾七圓</p>		<p>昭和十七年度廣島市特別會計</p> <p>公會堂改築資金歲入出豫算</p>		<p>昭和十七年度廣島市特別會計</p> <p>獎學資金歲入出豫算</p>	
<p>昭和三十七年度廣島市特別會計</p> <p>公會堂改築資金歲入出豫算</p>		<p>昭和三十七年度廣島市特別會計</p> <p>獎學資金歲入出豫算</p>		<p>昭和三十七年度廣島市特別會計</p> <p>獎學資金歲入出豫算</p>	



第一款 資金ヨリ生スル收入 金壹千九百九十九圓  
第一項 香川獎學資金收入 金壹百四拾圓  
第二項 坂本獎學資金收入 金壹百五拾圓  
第三項 小左古獎學資金收入 金壹拾參圓  
第四項 永本獎學資金收入 金四百九拾五圓  
歲入合計金壹千九百九十九圓

第一款 獎學費 金壹千九百九十九圓  
第一項 香川獎學費 金壹百四拾圓  
第二項 坂本獎學費 金壹百五拾圓  
第三項 小左古獎學費 金壹拾參圓  
第四項 永本獎學費 金四百九拾五圓  
歲入合計金壹千九百九十九圓

●廣島市告示第五四號  
廣島市會ノ議決ヲ經タル昭和十七年度廣島市特別會計都市計畫事業南觀音町附近土地區劃整理地區事業費歲入出豫算ノ要領左ノ如シ但シ本豫算ハ四月一日ヨリ執行ス  
昭和十七年三月二十五日 廣島市長 藤田 若水

昭和十七年度廣島市特別會計都市計畫事業南觀音町附近土地區劃整理地區事業費歲入出豫算

第一款 區劃整理施行費收入 金拾七萬七千七百七十七圓  
第一項 區劃整理施行費收入 金拾七萬七千七百七十七圓  
第二款 換地清算徵收金 金壹圓  
第一項 換地清算徵收金 金壹圓  
第三款 雜收入 金貳萬四千六百六拾圓  
第一項 雜收入 金貳萬四千六百六拾圓  
第四款 前年度繰越金 金壹圓  
第一項 前年度繰越金 金壹圓  
歲入合計金貳拾萬九千九百九拾四圓

第一款 區劃整理事業費 金貳萬壹千九百九十九圓  
第一項 區劃整理事業費 金貳萬壹千九百九十九圓  
第二款 換地清算交付金 金壹圓  
第一項 換地清算交付金 金壹圓  
第三款 雜支出 金壹圓  
第一項 雜支出 金壹圓  
第四款 豫備費 金壹圓  
第一項 豫備費 金壹圓  
歲入合計金貳拾萬九千九百九拾四圓

第一款 豫備費 金壹圓  
第一項 豫備費 金壹圓  
歲入合計金貳拾萬九千九百九拾四圓

●廣島市告示第五五號  
廣島市會ノ議決ヲ經タル昭和十七年度廣島市特別會計都市計畫事業津町附近土地區劃整理地區事業費歲入出豫算ノ要領左ノ如シ但シ本豫算ハ四月一日ヨリ執行ス  
昭和十七年三月二十五日 廣島市長 藤田 若水

昭和十七年度廣島市特別會計都市計畫事業津町附近土地區劃整理地區事業費歲入出豫算

第一款 區劃整理施行費收入 金拾五萬八千八百八拾圓  
第一項 區劃整理施行費收入 金拾五萬八千八百八拾圓  
第二款 雜收入 金壹圓  
第一項 雜收入 金壹圓  
第三款 前年度繰越金 金壹圓  
第一項 前年度繰越金 金壹圓  
歲入合計金拾五萬八千八百八拾圓

●廣島市告示第四七號  
廣島市會ノ議決ヲ經タル昭和十六年度廣島市歲入出豫算更正ノ要領左ノ如シ但シ本豫算ハ即日執行ス  
昭和十七年三月二十日 廣島市長 藤田 若水

昭和十六年度廣島市歲入出豫算更正  
第一款 繰越金 金四千參百九拾九圓  
第一項 前年度繰越金 金四千參百九拾九圓  
歲入合計金四千參百九拾九圓

●廣島市告示第三一號  
昭和五年八月十一日內務省令第二十六號廣島市計畫事業道路新設擴充受益者負擔ニ關スル件第四條及第六條ニ依リ昭和八年十一月一日內務省告示第三百七十六號廣島市計畫道路事業中二等大路第一類第二號線

第一項 繰入金 金四千參百九拾九圓  
第一項 繰入金 金四千參百九拾九圓

臨時部計金八百四拾八萬八千六百七拾七圓(減參千參百四拾八圓)  
歲入合計金八百四拾八萬八千六百七拾七圓(減參千參百四拾八圓)  
歲入出豫算金ナシ

第三款 豫備費 金貳千參百九拾七圓  
第一項 豫備費 金貳千參百九拾七圓  
歲入合計金拾五萬八千八百八拾圓  
歲入出豫算金ナシ  
●廣島市告示第五六號  
廣島市會ノ議決ヲ經タル昭和十七年度廣島市特別會計廣島工業港修築費歲入出豫算ノ要領左ノ如シ但シ本豫算ハ四月一日ヨリ執行ス  
昭和十七年三月二十五日 廣島市長 藤田 若水

昭和十七年度廣島市特別會計廣島工業港修築費歲入出豫算

第一款 市債 金四拾四萬圓  
第一項 市債 金四拾四萬圓  
第二款 一般會計繰入金 金貳萬參千圓  
第一項 一般會計繰入金 金貳萬參千圓  
歲入合計金四拾六萬參千圓

第一款 廣島工業港修築費 金四拾四萬參千圓  
第一項 廣島工業港修築費 金四拾四萬參千圓  
第二款 公債 金貳萬參千圓  
第一項 公債 金貳萬參千圓  
歲入合計金四拾六萬參千圓  
歲入出豫算金ナシ

●廣島市告示第五七號  
廣島市會ノ議決ヲ經タル昭和十七年度廣島市特別會計公用地費歲入出豫算ノ要領左ノ如シ但シ本豫算ハ四月一日ヨリ執行ス  
昭和十七年三月二十五日 廣島市長 藤田 若水

昭和十七年度廣島市特別會計公用地費歲入出豫算

第一款 資金ヨリ繰入金 金八萬參千貳百貳拾八圓  
第一項 資金ヨリ繰入金 金八萬參千貳百貳拾八圓  
第二款 資金ヨリ生スル收入 金四萬貳千壹百五拾圓  
第一項 資金ヨリ生スル收入 金四萬貳千壹百五拾圓  
歲入合計金拾貳萬五千參百七拾八圓  
歲入出豫算金ナシ

●廣島市告示第五八號  
廣島市會ノ議決ヲ經タル昭和十七年度廣島市特別會計都市計畫事業費歲入出豫算ノ要領左ノ如シ但シ本豫算ハ四月一日ヨリ執行ス  
昭和十七年三月二十五日 廣島市長 藤田 若水

昭和十七年度廣島市特別會計都市計畫事業費歲入出豫算

第一款 目的稅 金八拾九萬五百六拾圓  
第一項 都市計畫稅 金八拾九萬五百六拾圓  
第二款 舊法ニ依ル稅收入 金貳千五百四拾五圓  
第一項 舊法ニ依ル稅收入 金貳千五百四拾五圓  
第三款 國庫補助金 金參萬九千九百四拾六圓  
第一項 國庫補助金 金參萬九千九百四拾六圓  
第四款 縣補助金 金拾八萬圓  
第一項 縣補助金 金拾八萬圓  
第五款 負擔金 金拾八萬圓  
第一項 負擔金 金拾八萬圓  
第六款 雜收入 金參萬五千圓  
第一項 雜收入 金參萬五千圓  
第七款 市債 金壹百七拾八萬圓  
第一項 市債 金壹百七拾八萬圓  
歲入合計金參拾壹萬五千四拾圓

第一款 負擔金 金拾八萬圓  
第一項 負擔金 金拾八萬圓  
第二款 雜收入 金參萬五千圓  
第一項 雜收入 金參萬五千圓  
第七款 市債 金壹百七拾八萬圓  
第一項 市債 金壹百七拾八萬圓  
歲入合計金參拾壹萬五千四拾圓

第一款 負擔金 金拾八萬圓  
第一項 負擔金 金拾八萬圓  
第二款 雜收入 金參萬五千圓  
第一項 雜收入 金參萬五千圓  
第七款 市債 金壹百七拾八萬圓  
第一項 市債 金壹百七拾八萬圓  
歲入合計金參拾壹萬五千四拾圓

第一款 負擔金 金拾八萬圓  
第一項 負擔金 金拾八萬圓  
第二款 雜收入 金參萬五千圓  
第一項 雜收入 金參萬五千圓  
第七款 市債 金壹百七拾八萬圓  
第一項 市債 金壹百七拾八萬圓  
歲入合計金參拾壹萬五千四拾圓

(皆實青崎線)一部ノ負擔區及事業着手ノ日ヲ左ノ通り定ム  
昭和十七年三月六日 廣島市長 藤田 若水

一、負擔區 比治山本町字龜島一三二番地ノ一地先ヨリ同町字同二一七番地ノ一地先ニ至ル間ノ新設道路ノ周圍  
二、事業着手ノ日 昭和十七年三月十日

●廣島市告示第三五號  
道路工事受益者負擔規程第十三條ニ依リ受益者負擔金ヲ賦課スヘキ工事名及工事施行箇所等左ノ通り定ム  
昭和十七年三月十四日 廣島市長 藤田 若水

一、受益者負擔金ヲ賦課スヘキ工事名及工事施行箇所  
大手町五丁目、六丁目道路鋪裝工事  
大手町五丁目、六丁目道路鋪裝工事

大手町六丁目五番地ノ一及尾道町五八番地ノ一先ヨリ大手町五丁目八番地ノ二及大手町六丁目三九番地ノ一先ニ至ル間及鋪裝道路ノ維持上必要ナル區間  
二、工事着手年月日 昭和十七年三月十七日  
本工事施行箇所一負擔區トス  
道路ニ接スル部分ヲ地帶トス  
四、負擔率 總工費ノ四分ノ一トス

●廣島市告示第三六號  
道路工事受益者負擔規程第十三條ニ依リ受益者負擔金ヲ賦課スヘキ工事

道路工事受益者負擔規程第十三條ニ依リ受益者負擔金ヲ賦課スヘキ工事



第一款 都市計畫事業費本年度支出額

第一項 都市計畫街路事業費本年度支出額  
金貳百六拾萬壹千七百貳拾壹圓  
第二項 都市計畫公園綠地事業費本年度支出額  
金壹百八拾五萬六千四百五十五圓  
第三項 都市計畫墓園事業費本年度支出額  
金貳拾參萬八千參百四拾五圓

第二款 公債費

第一項 公債費  
金四拾九萬九千五百六拾九圓  
第三項 雜支  
金參千七百五拾圓

第四款 豫備費

第一項 豫備費  
金五千五百圓  
歲出合計金參百拾壹萬五千四百拾圓  
歲入出算引殘金ナシ

●廣島市告示第五九號

廣島市會ノ議決ヲ經タル昭和十七年度廣島市特別會計  
公用地費歲入出算追加ノ要領左ノ如シ但シ本豫算ハ  
四月一日ヨリ執行ス  
昭和十七年三月二十五日  
廣島市長 藤田 若水

昭和十七年度廣島市特別會計  
公用地費歲入出算追加

第一款 歲入

第一項 資金ヨリ繰入  
金五拾七萬七千五百圓  
第一項 資金ヨリ繰入  
金五拾七萬七千五百圓  
歲入合計金五拾七萬七千五百圓  
歲入出算引殘金ナシ

第二款 歲出

第一項 繰入金  
金五拾七萬七千五百圓  
第一項 繰入金  
金五拾七萬七千五百圓  
歲出合計金五拾七萬七千五百圓  
歲入出算引殘金ナシ

●廣島市告示第一號

廣島市會ノ議決ヲ經タル昭和十七年度廣島市天滿町外

部落有財產歲入出算ノ要領左ノ如シ但シ本豫算ハ四  
月一日ヨリ執行ス  
昭和十七年三月二十五日  
廣島市長 藤田 若水

昭和十七年度廣島市天滿町外  
部落有財產歲入出算

第一款 歲入

第一項 天滿町外七箇町貸地料  
金壹千壹百五拾圓  
第二項 元宇品町貸地料  
金四拾圓  
第三項 江波町貸地料  
金拾參圓  
第四項 古田町貸地料  
金貳圓  
歲入合計金壹千貳百七圓  
歲入出算引殘金ナシ

第二款 歲出

第一款 財產管理諸費  
金壹千貳百七圓  
第一項 天滿町外七箇町財產管理諸費  
金壹千壹百五拾圓  
第二項 元宇品町財產管理諸費  
金四拾圓  
第三項 江波町財產管理諸費  
金拾參圓  
第四項 古田町財產管理諸費  
金貳圓  
歲出合計金壹千貳百七圓  
歲入出算引殘金ナシ

廣島市共濟組合評議員會

三月二十七日昭和十六年度評議員會ヲ次ノ通り開會  
シタリ  
議場 廣島市役所內會議室  
出席議員 河原 稔、外十九名  
參與員 三宅 高、外四名

狀況 午後四時出席議員二十名ヲ以テ三宅議長開會  
ヲ宣シ、全員起立、國民儀禮ノ後審議ニ入り、左記  
議案ヲ可決午後六時半閉會シタリ  
議案 昭和十六年度事務報告(可決) 昭和十七年度  
歲入出算案(可決) 廣島市共濟組合條例中改正ノ件  
(件可決) 廣島市共濟組合條例施行細則中改正ノ件  
(二部修正可決) 組合員ノ保健施設ニ關スル件(撤回)

名及工事施行箇所等左ノ通り定ム  
昭和十七年三月十四日  
廣島市長 藤田 若水

一、受益者負擔金ヲ賦課スヘキ工事  
名及工事施行箇所  
東白島町地内道路鋪裝工事  
東白島町一〇一番地及同町一四〇  
番地々先ヨリ同町一〇五番地及同  
町一二九番地々先ニ至ル間及鋪裝  
道路ノ維持上必要ナル區間  
二、工事着手年月日  
昭和十七年三月十七日

三、負擔區及地帶  
本工事施行箇所ヲ一負擔區トス  
道路ニ接スル部分ヲ地帶トス  
四、負擔率  
總工費ノ四分ノ一トス

●廣島市告示第三七號

道路工事受益者負擔規程第十三條ニ  
依リ受益者負擔金ヲ賦課スヘキ工事  
名及工事施行箇所等左ノ通り定ム  
昭和十七年三月十四日  
廣島市長 藤田 若水

一、受益者負擔金ヲ賦課スヘキ工事  
名及工事施行箇所  
白島西中町地内道路鋪裝工事  
白島西中町六四番地及同町七五番  
地々先ヨリ同町二九番地及三四番  
地々先ニ至ル間及鋪裝道路ノ維持  
上必要ナル區間  
二、工事着手年月日  
昭和十七年三月十七日

三、負擔區及地帶  
本工事施行箇所ヲ一負擔區トス  
道路ニ接スル部分ヲ地帶トス

昭和十七年度廣島市  
總豫算二關スル  
藤田市長說明要旨

茲ニ昭和十七年度廣島市歲入歲出總豫算並關聯議案  
ヲ提出スルニ當リマシテ其ノ概要ヲ說明致シマスルコ  
トハ私ノ欣幸トスル處デアリマス。  
顧レバ支那事變勃發以來既ニ五年ノ長キニ亘リ、我  
國ハ重疊タル萬難ヲ排シ、幾多ノ犠牲ヲ拂ヒ、夙ニ正  
義人道ニ立脚シテ東亞永遠ノ安定、宇內恒久ノ平和ニ  
努力邁進シテ來マシタコトハ一ニ、我が悠久三千年、  
猷遠ニシテ崇嚴ナル盛國ノ理念ト、萬邦協和ノ國是ヲ  
顯現セムガ爲デアリマシタ。然ルニ頑迷ナル蔣政權ハ  
米英ノ甘言ト爾使ニ隨ヒ、無益ナル抗戰ヲ持續シ、米  
英兩國ハ又其ノ絶大ナル軍備ト經濟力トヲ以テ、我ヲ  
屈從セシメムトシ、帝國ハ隱忍實ニ久シキニ彌リマシ  
タケレドモ、遂ニ平和的安結ヲ見ルニ到ラズ、益々傲  
慢不遜ナル態度ヲ露呈シ來リマシタノデ、帝國ハ自存  
自衛ノ爲メ斷然、起ツノ已ムヲ得ザルニ到リ、昨年十  
二月八日、畏クモ米英兩國ニ對シ、宣戰ノ大詔ヲ渙發  
アラセラレマシタコトハ、諸君ト共ニ、餘リニモ感激  
ノ新ナル處デアリマス。

錦旗ノ向フ所敵ナク、皇軍ノ神速果敢ナル行動ハ、  
一瞬ニシテ、ハワイ眞珠灣ニ米國太平洋艦隊ヲ殲滅シ  
マレト沖ニ英國東洋艦隊ノ主力ヲ撃沈シテ、全ク世界  
ノ形勢ヲ一變セシメタ事ハ、僅カニ三日間ノ出來事デ  
アリマス。此ノ太平洋ノ三日間ハ永久ニ世界戰史ニ輝  
ク三日間デアリマス。而シテソレカラソレト、海ニ、  
陸ニ、空ニ、皇軍赫赫ノ戰果ハ間斷ナシニ擴大セラ  
レ、マニラヲ屠リ、香港ヲ陷レ、マレト半島ハ完全ニ

占領シ、英國ノ東洋制覇百年ノ牙城「シンガポール」  
ヲ攻落シテ、正ニ西南太平洋ヲ我勢力下ニ置ク、誠ニ  
一億國民ノ感激感謝措ク能ハザル所デアリマス。而モ  
未ダ敵機ノ一影ヲモ我が國土ニ見ザルコトニ對シテハ  
私共統後國民ハ何ト申シテ宜シイカ、唯々 御稜威ノ  
下、皇國ニ生ラ享ケタル歡喜ト感激ニ堪ヘヌトコロデ  
アリ、同時ニ、第一線將兵各位ノ辛苦艱難ヲ思ビ、實  
ニ感謝ノ言葉モナイノデアリマス。私ハ勇戰奮闘ノ  
上、聖戰史ニシテ戰死病歿セラレタル護國ノ英靈ニ對  
シマシテ、衷心ヨリ謹ミテ御冥福ト敬弔ノ至忱ヲ表シ、  
又或ハ傷キ病ヲ得タル將兵各位ニ對シテ、深甚ナル同  
情ト感謝ノ誠意ヲ捧ゲ、速カニ健康恢復セラレンコト  
ヲ熱禱願スルモノデアリマス。

此ノ大戰下ニ在リマシテハ、銃後ノ私共ハ前線ト同  
樣戰場ト心得、愈々鐵石ノ心ヲ堅持シテ、更ニ長期戰  
爭ノ覺悟ヲ新ニシ、隣保相倚リ相扶ケマシテ、曠古未  
曾有ノ聖戰完遂ニ、懸命ノ努力ヲ效サネバナラヌト存  
ズルノデアリマス。幸ニ各位一層ノ御協力ヲ得マス様  
切望ニ堪ヘマセン。

之ヨリ昭和十七年度豫算ニ付說明申上ゲマス。

豫算編成方針 昭和十七年度ノ豫算編成ニ方リマシ  
テハ、政府ヨリ聖戰目的達成ノ爲ニ、戰時財政經濟ノ  
強化ヲ圖リ、物資、資金及努力ノ需給調整並物價對策  
等ニ一段ノ協力ヲ致スベキハ勿論、専ラ既定經費ノ節  
約ヲ圖リ、新規經費ハ眞ニ緊急已ムヲ得ザルモノ、ミ  
ニ止メ、以テ極力歲出ノ膨脹ヲ抑止スル様示達サレタ  
ノデアリマス。仍而本豫算ハ、政府ノ方針ニ遵ヒ編成  
ヲ致シタノデアリマスガ、本市將來ノ發展上、其ノ他  
時局ニ鑑ミ銃後行政ノ完壁ヲ期スルニ必要已ムヲ得ザ  
ルモノ等ニ付、彼是考究按配致スコトニ努メタノデア  
リマス。

一般會計豫算總額 昭和十七年度一般會計豫算總  
額ハ七百六拾貳萬四千四百八拾參圓デアリマシテ之ヲ前  
年度當初豫算總額(同時議決ヲ含ム)ノ七百六拾參萬  
六千九百拾壹圓ニ比較シマスルト壹萬五千四百貳拾八  
圓ノ減額デアリマス。但シ前年度豫算總額ニハ八拾萬四

四、負擔率  
總工費ノ四分ノ一トス

●廣島市告示第三八號

道路工事受益者負擔規程第十三條ニ  
依リ受益者負擔金ヲ賦課スヘキ工事  
名及工事施行箇所等左ノ通り定ム  
昭和十七年三月十四日  
廣島市長 藤田 若水

一、受益者負擔金ヲ賦課スヘキ工事  
名及工事施行箇所  
猿猴橋町地内道路鋪裝工事  
猿猴橋町二一番地及松原町六五七  
番地々先ヨリ同町六八〇番地及猿  
猴橋町三六番地々先ニ至ル間及鋪  
裝道路ノ維持上必要ナル區間  
二、工事着手年月日  
昭和十七年三月十七日

三、負擔區及地帶  
本工事施行箇所ヲ一負擔區トス  
道路ニ接スル部分ヲ地帶トス  
四、負擔率  
總工費ノ四分ノ一トス

●廣島市告示第三九號

道路工事受益者負擔規程第十三條ニ  
依リ受益者負擔金ヲ賦課スヘキ工事  
名及工事施行箇所等左ノ通り定ム  
昭和十七年三月十四日  
廣島市長 藤田 若水

一、受益者負擔金ヲ賦課スヘキ工事  
名及工事施行箇所  
比治山神社南側道路鋪裝工事  
桐木町九三二番地ノ七地先ヨリ同

比治山神社南側道路鋪裝工事  
桐木町九三二番地ノ七地先ヨリ同



ク困難ト成ツタ原因ノ重ナルモノハ其ノ生産不足ニ在ルト存ジマス。故ニ此ノ際生産ノ増加ヲ圖ルカ、或ハ又蔬菜集荷ノ方法ヲ改善スルカニアラザレバ、市民ノ需要ニ應ズルコトハ到底出來ナイノデアリマス。依ツテ十七年度ニ於テハ、本市外環ノ近郊町村ノ協力ヲ求メ、一ノ蔬菜増産「プロック」ヲ結成シマシテ自給圈ヲ確立シ、以テ増産ノ達成ト、需給ノ圓滑ヲ圖ルコト、シ之ガ經費壹萬圓ヲ計上致シマシタ。

(2) 中小商工業轉業助成 政府ノ戰時經濟政策ニ由リマシテ、企業統合、機構改革方行ハレツ、アルコトハ、申上グル迄モアリマセシガ、之ガ爲ニ中小商工業者ノ轉業、失業ガ起ツテ來テ居リマス。而シテ其ノ對策ハ專ラ政府ニ於テ考究立案サレテ居リ、地方自治體ニ於テ、此ノ問題ヲ根本的ニ解決スルコトハ、貧弱ナル團體財政デハ到底許シマセシ。然シナガラ地方商工業ノ振否ニ關スルコトデアリマスノデ、出來得ル限りノ助成ヲ致ス考ヘド轉業助成費トシテ壹萬圓ヲ計上シタノデアリマス。

(3) 南方調査 支那事變ハ進展シテ大東亞戰爭トナリ、大東亞共榮圈ノ確立著々トシテ進捗シ、南方經營ノ要切ナルモノアルノ秋、市民ヲシテ南方事情ヲ理解セシムル爲メ各種ノ調査、施設ヲ爲ス等ノ經費壹萬五千圓ヲ見積リマシタ。

(4) 臨時統制經濟 市民ニ對スル物資ノ配給ハ、其ノ重要品目ガ漸次切符制ト成リツ、アリマスノデ、之ニ要スル經費八千四百餘圓ヲ増加計上シテ居リマス。

保健衛生施設 第五保健衛生施設デアリマス。

(1) 妊婦指導 現在ノ時局下ニ於テ、人的資源ノ増強ヲ圖ルコトハ、實ニ緊切ナル問題デアリマシテ、延イテハ將來ノ健兵ニモ影響スル處ガ鮮クナイコトヲ考ヘマスルト、厚生保健ノ問題ハ、一日モ忽略スル附スベカラザルモノデアリマス。依ツテ先ヅ第一ニ『産めよ殖せよ』ノ時代ヨリ『産めよ育てよ』ガ一層時局要請ノ趣旨ニ合致スルト存ジ、茲ニ妊婦指導ノ方途ヲ講ジマシタ。即チ、市内居住ノ妊婦婦人ヲ

對象トシテ、登錄制度ヲ設ケマシテ、十分ナル指導ト保護ヲ加ヘ、出生セル乳幼児一ヶ年約八千人ノ成育ニ不安ナカラシメタインデアリマス。大體市内十方面ニ區分シマシテ、夫々専門指導婦ヲ常置シ内科、產婦人科等ノ醫師ヲモ囑託シテ、其ノ診察ト指導ニ當ラシムルコト、シ、經費壹萬七百餘圓ヲ計上シマシタ。

(2)小兒健康指導及乳兒託兒所 小兒ニ對スル現在ノ厚生施設トシテハ、生後一年二ヶ月以內ノ乳幼兒ニ對シテハ健康相談ヲ行ヒ、又國民學校兒童ニ對シテモ、夫々健康指導ヲ實施シテ居ルリマスルガ、生後一年二ヶ月以上六年未滿ノ小兒ニ對シテハ、何等ノ方途ガ講ゼラレテ居リマセンノデ、十七年度ハ右該當年齡中ノ虛弱兒童ニ對シ、健康相談ヲ行フコト、シ經費壹千圓ヲ計上致シマシタ。又時局下生産擴充、或ハ勤勞倍加等ヲ要スルニ際シ、勤勞婦人ノ能率増進ト、其ノ援護ヲ圖ル爲メ、乳兒託兒所ヲ一箇所新設スルコト、シ經費壹千餘圓ヲ計上致シマシタ。

(3)市營火葬場建設 市營火葬場ノ設置ニ付テハ、先年之ガ事業費ノ議決ヲ經テ居リマスガ、敷地ノ選定等ニ時日ヲ要シマシタル處、敷地モ內定ノ見込デ設置ノ認可手續中デアリマス。依ツテ來年度建築費等參拾八萬六千餘圓ヲ計上シ、市營火葬場ノ實現ヲ期シ度イト存ズルノデアリマス。

(4)醫療保護施設 客年十月醫療保護法ノ發布ニ由リマシテ、從來ノ救護法及ビ母子保護法ニ由ル保護ハ、新保護法ニ依ル取扱ニ變更セラレタノデアリマス。而シテ保護ノ範圍モ新シク「貧困ニ基ク者」ヲ包含擴張セラレタノデアリマスガ、此ノ部分ハ專ラ恩賜財團濟生會ノ分擔トナリマシタガ、之等ノ關係ニ由リマシテ醫療金額ヲ増額スルコトニ致シタノデアリマス。所要經費ハ貳萬五千餘圓デアリマス。

(5)汚物處理 塵芥及屎尿ノ處理ニ従事スル馬持人夫ハ、現在飼料騰貴ニ伴ヒ苦痛ガ加ハリマシタノデ、馬糞手當ヲ人夫給ヨリ引離シテ、其ノ給與ヲ改メ、之ガ爲壹萬四千九百餘圓ヲ増額計上致シマシタ。

廣島地方から應召して西部第十部隊に屬し目下參戰に参加してゐられる將兵は作戰の關係で家郷への音信が不便であるのと戰死傷者の發表が少いため留守の方々は相當憂慮してゐられる向もあるが、萬々一戰死傷された場合には早速と原隊より公報があり新聞にも發表されて居り、その外の方でお便りが無いのは御丈夫で御國のために活躍してゐられるのですから御心配ないやうにと今回江田西部第十部隊長殿から左の通り出征軍人遺家族の方へ連絡するやう御依頼がありました。

出征軍人遺家族連絡方  
依頼ノ件通牒

昭和十七年三月十六日  
西部第十部隊長 江田 直文  
廣島市長殿

貴市（町村）ヨリ應召シ當隊關係部隊ニ屬シ目下作戰参加中ノ將兵ニシテ長期間私信等作戰ノ關係上連絡意ノ如クナラザルト他部隊ニ比シ戰死傷者ノ發表少キトニヨリ其ノ遺家族中ニハ相當憂慮シアルモノアラザルヤニ思料致サル、モ、新聞發表ハ確實ニシテ既ニ發表セル者以外ハ全テ聖戰参加中ナルヲ以テ此ノ旨各關係者ニ傳達方取計ハレ度依頼ス。

便りが無いのは  
お丈夫なのです

廣島地方から應召して西部第十部隊に屬し目下參戰に参加してゐられる將兵は作戰の關係で家郷への音信が不便であるのと戰死傷者の發表が少いため留守の方々は相當憂慮してゐられる向もあるが、萬々一戰死傷された場合には早速と原隊より公報があり新聞にも發表されて居り、その外の方でお便りが無いのは御丈夫で御國のために活躍してゐられるのですから御心配ないやうにと今回江田西部第十部隊長殿から左の通り出征軍人遺家族の方へ連絡するやう御依頼がありました。

出征軍人遺家族連絡方  
依頼ノ件通牒

西部第十部隊長 江田直文  
廣島市長殿

貴市(町村)ヨリ應召シ當隊關係部隊ニ屬シ目下作戰參加中ノ將兵ニシテ長期間私信等作戰ノ關係上連絡意ノ如クナラザルト他部隊ニ比シ戰死傷者ノ發表少キトニヨリ其ノ遺家族中ニハ相當憂慮シアルモノアラザルヤニ思料致サル、モ、新聞發表ハ確實ニシテ既ニ發表セル者以外ハ全テ聖戰參加中ナルヲ以テ此ノ旨各關係者ニ傳達方取計ハレ度依頼ス。

千五百圓ノ第四期水道擴張費支出額ヲ包含シテ居リマスガ本年度ハ別途追加案トシテ提出致シテ居リマス。

新  
規  
事  
業

以下新事業ノ主ナルモノニ付其ノ内容ヲ申上ゲマス。

(1) 國民學校令ハ、皇國ノ本義ニ基キ、國民ノ基礎的の修養ヲ積ムベキデアリマシテ、之ガ方法ノ一トシテハ、外地ノ文物ヲ觀察シ、或ハ心身ヲ鍊磨シテ團體的の修養ヲ積ミ、或ハ又教材ニ付テモ不斷ノ研究心ヲ發明心ヲ以テ、科學的ニ取扱フ等ノ如キコトハ、何レモ必要ト存ジマスノデ、之等ノ支途ニ充ツル爲、外地觀察、鍊成、研究助成トシテ經費貳千圓ヲ計上致シマシタ。

(2) 國民學校増改築　國民學校ノ増改築ニ付キマシテハ  
校舎腐朽、教室著シク不足等緊急差措キ難キモノ、  
ミトシ、青崎校舎増改築費七萬壹千七百餘圓、中島  
校舎増築費五萬六百餘圓、牛田校舎増築費參萬八千  
八百餘圓及商業學校物置建築費參千四百餘圓ヲ計上  
シマシタ。尙新設南觀音國民學校年度割額拾七萬參  
千餘圓ハ敷地諸費昭和十六年度起償ガ、十七年度ニ  
繰越許可セラレル見込ノ爲ニ一年繰延ベルコト、致  
シマシタ。

町内會助成 第二町内會助成デアリマス。本市町内會整備ノ狀況ハ、先進都市ニ比シ成績良好デアリマス。コトハ、眞ニ欣快ニ堪ヘヌ所デ、役員各位ノ市政ニ貢獻セラレタル一方ナラザル努力ニ對シマシテ、深ク謝意ヲ表スルモノデアリマス。國內ノ態勢ハ、宣戰ト共ニ一層緊張ト結束ヲ要スルコト、相成リマシタノデ、益々町内會ノ活動ト協力ヲ望ム次第デアリマス。則チ近時國策ノ遂行、物資ノ配給等、町内會役員ノ事務ガ激増致シタニ鑑ミマシテ之ガ助成費トシテ前年度ニ比

シ、町内會分増額八萬五千七百餘圓、聯合町内會分増額八千參百餘圓ヲ計上致シマシタ。助成費中町内會分ハ基本額ヲ平均一町内會月額拾圓宛トシ、聯合町内會分ハ月額平均參拾圓宛ト致シタノデアリマス。但シ前年度ハ助成費トシテ六萬九千四百餘圓ノ追加議決ヲ經テ居リマスノデ、差引新規參萬四千六百餘圓ノ増加トナルノデアリマス。

警防施設ノ充實

(1)施設充實 防空施設ノ整備充實ニ關シマシテハ  
先年來政府ノ内示ニ依リマシテ年々經費ヲ計上シ、  
充實ニ努メテ居リマスガ、先般從來ノ計畫ヲ一變セ  
ラレタノデ、茲ニ計畫ヲ變更スルコトニ相成マシ  
タ。即チ昭和十七年度ニ於テハ貯水槽十二(大型二、  
小型十)、唧筒五十五(大型五、腕用五十)、鐵砲三  
千五百十八箇、防毒面十五萬五千八百箇、竝資材倉  
庫五箇所ノ整備割當ニ基キマシテ、之ガ經費貳拾九  
萬壹千九百餘圓ヲ要スルノデアリマス。之ニ對シテ  
ハ拾參萬百餘圓ノ國庫補助ガ有リマス。

(2) 警防團員慰勞手當 昨年大東亞戰爭ノ勃發ト共ニ、防空下令ト成リ、爾來警防團員各位ガ、日夜警戒ニ服シテ居ラレルコトハ洵ニ感謝ニ堪ヘマセヌ。就キマシテハ十分デハアリマセヌガ、來年度ニ於テハ、慰勞手當トシテ新規ニ壹萬圓ヲ計上致シマシタ。

(3) 囑託部長新設 防毒救護ノ事務ハ、急遽處置ヲ要シマスルト共ニ、一面技術ヲ要シマスルノデ、一旦事故突發ノ際ニ備フル爲ニ、新ニ部長三名ヲ囑託スルコト、シ、經費壹千貳百圓ヲ計上シマシタ。

(4) 上水道鐵管確保 本市上水道ノ防衛對策ノ一トシテ故障應急措置ニ備ヘル爲、豫メ鐵管ヲ購入スルヲ要シマスノデ、其ノ經費四萬貳千八百餘圓ヲ計上シテ置キマシタ。

勸業施設

(1) **蔬菜自給率** 本市ニ於ケル蔬菜ノ家庭消費量ハ一ヶ年約六百萬貫ヲ要スルニ拘ハラズ、市内生産量ハ僅ニ其ノ十%ニ過ギマセン。近來蔬菜ノ人手著シ

町九三二番地ノ一三地先ニ至ル間  
及鋪裝道路ノ維持上必要ナル區間  
二、工事着手年月日  
昭和十七年三月十七日  
三、負擔區及地帶  
本工事施行箇所ヲ一負擔區トス  
道路ニ接スル部分ヲ地帶トス  
四、負擔率  
總工費ノ四分ノ一トス



### 土木及下水道施設 第六土木及下水道施設デアリマス。

(1)大洲地下道新設 晩近市勢ノ發展ニ伴ヒ、頓ニ隣接町村トノ交通輻輳ヲ來シテ居リマスコトハ、各位ノ能ク承知セラル、處デアリマスガ、國有鐵道トノ平面交叉ニ依ル障害ハ相當著シク、將來何トカ考究シナイト、貨物ノ市内出入ニ相當ノ影響ヲ蒙ルト思フノデアリマス。偶々鐵道省ニ於テ廣島車輛工場ノ設置ニ伴ヒ、大洲地區ニ幅員二十尺ノ地下道ヲ一箇所、鐵道省工事トシテ設ケラル、計畫ガ出來マシタガ之ハ東部地方交通連絡ノ上ニ、洵ニ好都合ト存ゼラレマスノデ、之ヲ兩端ノ取付道路ヲ改修スルコトニ致シタノデアリマス、其ノ所要經費六萬八千四百餘圓デアリマス。

(2)廣瀬橋修繕 廣瀬橋ハ昭和十二年二月架換シタモノデアリマスガ、御承知ノ如ク交通量モ相當有リ既ニ橋板ガ腐朽シマシタノデ、之ガ修繕ノ爲經費七千參百餘圓ヲ計上致シマシタ。

(3)抽水所設備門ノ新設 現在ノ觀音抽水所々々在ノ堤防ハ、公用廢止ト成リマシテ、目下區劃整理事業トシテ工事進捗中デアリマスカラ、何レ排水ノ關係上移轉ヲ要シマスノデ、移轉費壹萬貳千圓ヲ計上シマシタ。大洲、庚午ノ新開ハ、溜溜池ノ排水不十分ナル爲屢々浸水シ、昨年ノ如キハ農作物ノ被害モ相當甚大デアリマシタ、之ニ對シ排水ノ改善ヲ致シマスルコトハ、延イテ農作物ノ増産計畫ヨリ見テモ、緊切ナルコト、信ジマスルカラ、各一ヶ所ニ樋門ヲ設ケルコト、シ經費拾壹萬四千圓ヲ、全額起債ニ依ッテ支辨スルコト、致シマシタ。

### 吏員職員ノ待遇改善 第七吏員職員ノ待遇改善デアリマス。本市吏員ノ待遇ヲ、他都市ニ比較致シマス

フ教員數増加、需用費等ノ爲貳萬參千餘圓 (2)第二工業學校ハ昭和十六年度ヨリ甲種昇格ト共ニ機械工教科ヲ増設シタル關係ニ依リマシテ、六學級ノ増加ニ依リ夫々教員給及ビ需用費等壹萬九千餘圓 (3)煙草病院ハ、豫テ増築計畫中ノ處、近ク工事ニモ着手完成ノ見込デアリマスガ、之ガ爲病床六十二ノ増加ニ因リ、看護婦ノ増員並需用費ノ増加等八千六百餘圓 (4)廣島工業港修築ニ伴フ漁業權補償起債ニ付テハ、其ノ筋ノ許可相當困難デアリマシタガ、十六年度ニ於テ六十六萬圓ノ許可ヲ得マシタ、來年度ニ於テ所要利子貳萬貳千六百餘圓 (5)市民健康管理所モ本年度開所致度ト考ヘ、九ヶ月分經費計上ニ依ル參千參百餘圓 (6)納稅獎勵ノ爲計上セル額壹萬壹千貳百餘圓 (7)退隱料支給者増加ニ依ル經費六千四百餘圓 (8)傳染病豫防用リヤカー及自動車代燃改裝ニ要スル經費七千七百餘圓 (9)吏員教員ニ對スル特別手当増加壹萬九千八百餘圓、同臨時家族手当六萬五百餘圓、吏員雇傭員臨時手当九萬壹千六百餘圓、國民學校及青年學校教職員臨時手当六萬五千八百餘圓 (10)役所費ニ於ケル諸手当増加貳千貳百餘圓、消耗品費印刷費七千四百餘圓、被服費增加貳千參百餘圓 (11)上水道費ニ於テ給水量増加ノ爲動力諸費ニ要スル經費壹萬四千貳百餘圓、檢定ヲ要スル量水器増加ノ爲ノ經費七千七百餘圓等デアリマス。

### 減額スル主ナル經費

次ニ既定ノ計畫ニ依ル事業完了或ハ法令ノ結果ニ依ルモノ其他減額セル主ナルモノヲ説明致シマス。

(1)土木費ニ於テ相生橋連絡橋及中央橋修繕費貳萬貳千貳百餘圓、太田川改修費寄附金減拾五萬貳千圓 (2)教育費ニ於テ工業學校設備費參千餘圓、第一工業學校建築費減四萬六千餘圓、高等女學校營繕

ルニ、六大都市ガ本市ノ上位ニ在ルハ勿論デアリマスケレドモ、其ノ以下ノ都市、就中近接都市タル下關、岡山、吳市等ノ待遇ニ比ベマス、本市ハ概ネ下位デアリ、豫テ各位ヨリモ、御同情アル御意見ヲ承ツテモ居リマスノデ、此ノ際若干ノ待遇改善ヲ行ヒタイト存ズルノデアリマス、即チ月俸吏員ニ對シテハ從來ノ臨時手当月額參圓ノ支給ヲ廢シテ五圓乃至八圓（年俸者ハ年額百圓）ノ増俸ト致シタノデアリマス。又市立中等學校教員ニ對シテハ月額五圓ノ増俸トシ、日給者ニ對シテハ日給拾錢ヲ増給スルコト、致シマシタ、所要經費ハ從テ各費目ニ互ツテ居リマスガ、役所費關係ハ五萬貳千八百餘圓デアリマス。尙日給者並國民學校教員等ノ學校關係者ニ對シテハ、臨時手当ハ之ヲ存置スルコト、シタノデアリマス。

### 補助費其ノ他 其ノ外本年四月總選舉ヲ行ハルベキ衆議院議員選舉費八千五百餘圓、又五月行ハルベキ市會議員選舉費八千六百餘圓、家屋稅ノ國稅移管ニ因ル臨時調査費八千餘圓、福島町一致協會ニ於ケル託兒所建設助成費參千圓、銃後奉公會ニ對スル補助費壹千圓壯年團ニ對スル補助費千五百圓、大政翼贊會支部補助費參千圓、銃劍道振興會補助費七百圓、帝國在郷軍人會廣島市聯合會補助費八千餘圓、前年度臨時補助費五百圓ガ有リマシタガ十七年度ニ於ケル新規増額、經常補助費九百圓、同海軍志願兵獎勵補助費六百圓、傷痍軍人會廣島市分會補助費貳百圓、廣島模範地區指導所費補助五千圓等ヲ計上致シマシタ。

### 増額スル主ナル經費

次ニ既定ノ計畫並ニ法令其ノ他ニ依ル増額ノ主ナルモノニ付説明申上ゲマス。

(1)第一工業學校ハ昭和十四年度新設セラレマシタノデ、十七年度ハ第四學年ガ二學級増加トナリ、之ニ伴

費減四萬七千餘圓、職町國民學校々々舍改築費減拾四萬六千餘圓、木工指導所増築費減五萬參千七百餘圓 (3)水道費ニ於テ基町分室倉庫移轉改築費減七千貳百餘圓 (4)尿尿處理費ニ於テ運搬船建造諸費減貳萬貳千九百餘圓 (5)體力費ニ於テX線間接攝影機設備費減壹萬八千圓 (6)勸業費ニ於テ生鮮食糧品配給機構調査費減四萬九千餘圓、外海出漁船建造助成費減四萬五千餘圓、貿易振興費減壹萬參千貳百餘圓、家畜市場費交付金減六千九百餘圓、字品棧橋費減參千六百圓 (7)財產費ニ於テ公會堂敷地買收費年賦償還完了ニ因ル減貳萬九千貳百餘圓 (8)公債費ニ於テ低利借入ニ依リ之ガ減費參萬壹千五百餘圓等デアリマス。

### 歳入

之ヨリ歳入ニ付テ説明申上ゲマス。稅收入ハ總額參百五拾萬七千八百八拾參圓デアリマシテ、前年度ニ比シ參拾五萬四千四百七拾七圓ヲ増加シ、稅外收入ハ總計四百拾壹萬九千七百圓デアリマシテ參拾四萬九千四百七拾五圓ヲ減額致シマス。

### 稅收入 稅收入ニ於キマシテハ其ノ稅率ヲ据置キ前年度通ト致シマシタ、曩ニ說明致シマシタル如ク市民ノ福利増進ト、市勢發展及時局乘切リノ爲等支出經費ハ果増スルノデ、一應増稅モ考慮致シマシタガ、十七年度ニ於テハ之ヲ避ケルコト、致シタノデアリマス、國稅附加稅ハ地租、營業稅、家屋稅ノ附加稅貳貳百五拾四萬七千參百餘圓、縣稅附加稅ハ段別稅外八課目ノ附加稅參拾貳萬貳千六百餘圓、獨立稅ハ市民稅外八課目デ六拾壹萬九千餘圓、舊法ニ依ル稅收入ガ壹萬貳千七百餘圓デ之ニ地方分與稅貳萬五千圓ヲ加ヘマスト合計參百五拾貳萬六千七百餘圓デアリマス。

### 稅外收入 稅外收入ニ於キマシテハ使用料及手數

## 國旗掲揚

一定しませう

國旗の制式と掲揚方法につきましましては、昭和五年末に各府縣を通じて一般に通牒されましたが、近來では實際上多少これとは相違して大體次の通りになつて居ります。

國旗の制式は 國旗縦横の比率及日章の直徑比率並其の旗面に於ける位置は祝意の場合たとる吊意の場合たとるを問はず何れも明治三年太政官布告第五十七號に定むる國旗寸法の比率に準據するを妥當とすべし。

(註) 國旗の地色は白、日章は赤、旗の縦横の寸法は二と三の割合とし、日章の徑は縦の三分の二で必ず旗面の中心に行かねばならぬ。

國旗一旗掲揚の場合には門内より見て右（門外より見て左）に掲揚するを望ましく、已むを得ざれば左（門外より見て右）に掲揚するも可なるべし。

國旗二旗掲揚の場合には併立交又隨意なるべきも之を一定せんとする趣旨よりせば併立するを望ましく、時宜に依り交又するも可なるべし、交又する場合は門内より見て左（旗竿の本右）の國旗を内側とするを可とすべし。

特に外國に敬意を表するため外國旗を國旗と共に掲揚する場合には併立交又隨意なるべきも一定せんとする趣旨よりせば交又するを望ましく、而して併立する場合は國旗を門内より見て右（門外より見て左）に掲げ、交又する場合は國旗の旗竿を前にし、その本を左方（門外より見て右）とする、二ヶ國以上の國旗と共に掲揚する場合は我が國旗を中央とする。

旗布の上端は旗竿の頭に達せしめ、竿頭に球などのある場合は、これに密接せしめる。

用意を表す ため國旗を掲げる場合は、旗竿の上部に旗布に接して黒色の布片を附ける、球はこれを黒布で蔽ふ、又竿頭から凡そ旗竿の半に、若しくは凡そ旗布の縦幅だけ下げて弔意を表することもある。

外國の元首又はその名代の奉迎等若しくは特に外國に敬意を表すべき場合に限りその國の國旗を右（外から見て左）とする。

國旗を他の旗と共に同じ旗竿には掲揚せず。國旗を他の旗と並べて掲揚する時は、常に最上位に置き室内では旗竿を用ひないで上座の壁面に掲げてよいが、夜外に出し放しにしてはならない。



料貳萬八千四百餘圓、給水工事費收入壹萬八千五百餘圓、交付金貳萬八千四百餘圓、報償金五千五百餘圓、國庫補助金貳拾四萬四千餘圓、縣補助金七千貳百餘圓、雜收入壹萬六千餘圓等ノ増額ガ主ナルモノデアリマス、使用料、手数料ノ内、中等學校ノ授業料ハ、縣立中等學校授業料ニ比較シマシテ、新學年ヨリ年額五圓ヲ増徴スルコト、シ、又尿尿汲取手数料ハ現在一荷拾五錢ヲ貳拾錢ト改メマシタ。

**市 債** 市債ハ百拾六萬六千六百圓デアリマシテ前年度ヨリ七拾參萬七千七百圓ヲ減ジマス、此ノ外水道擴張債都市計畫事業債等ガ有リマスカラ合計四百五拾六萬六千六百圓ナリマス、前年度ノ當初議決總額四百六拾萬八千參百圓ニ比較致スト四萬七千七百圓ノ減ト爲ルノデアリマス、何レモ本市ノ現狀並其ノ將來性ニ鑑ミマシテ已ムヲ得ザルモノデアリマス。

以上ガ一般會計豫算ニ對スル大體ノ説明デアリマス。

### 特別會計豫算

之ヨリ特別會計豫算ニ付御説明申上ゲマス。

**都市計畫事業** 都市計畫事業ハ交通網ノ完備、防空施設ノ完壁上カラ見マシテ極力其ノ進捗ヲ圖ツテ居リマスガ、御承知ノ通政府ニ於テ之ガ主タル財源デアアル起債ヲ抑制サレマスノデ十六年度ニ於テハ街路、公園事業トモ相當減額セデレ、又墓園事業費ハ遂ニ繰延ベルノ外ナキニ至ツタ様ナ事情デアリマス、從ツテ繼續年額ハ變更シマセンガ、繼續費總額及年度割ノ變更ヲ要スルコト、ナリマシタ、尙經費ハ物價昂騰ノ爲増額計上シ總額ニ於テ街路事業費貳千貳百五拾六萬七千餘圓デアツタノヲ、貳千參百五拾壹萬九千餘圓トシ、公園綠地事業費百四拾九萬八千餘圓ヲ百五拾壹萬貳千餘圓トシ、墓園事業費五拾萬六千餘圓ヲ五拾壹萬參千餘圓トシ、其ノ外公債費、豫備費ハ多少減ジマス、昭和十七年度街路事業內容ハ (1)十日市横川線 (2)觀音十日市線 (3)横川白島線 (4)段原宇品線 (5)水主町

吉島線 (6)小網町江波線デアリマス、公園綠地事業ハ牛田町外六箇所、三瀧山外一箇所デアリマス、墓園事業ハ前年度計畫ノ通りデアリマス。

**土地區劃整理** 本市ニ於ケル區劃整理事業ハ庚午町南觀音町、草津町ノ三區域デ施行シテ居リマシタガ、其ノ内庚午町ハ昭和十六年度事業完了シマシタ、南觀音町ハ自昭和十四年度至同十六年度間ノ繼續施行ノ處進捗ノ狀況ニ依リマシテ二ヶ年延長シ昭和十八年度迄ト致シマシタ、草津町ハ自昭和十六年度至同十九年度間ノ繼續施行デアリマシテ去月二十八日認可セラレマシタ。

**廣島工業港修築** 廣島工業港修築ニ關スル漁業權補償分擔金ニ付テハ、昨年度豫算百拾萬圓ノ議決ヲ經マシタガ、之ガ財源タル起債ハ内務、大藏兩省ニ於テ全額承認セラレナカッタノデ、本年度其ノ殘額四拾四萬餘圓ト公債費貳萬貳千餘圓計四拾六萬參千圓ヲ計上致シマシタ。

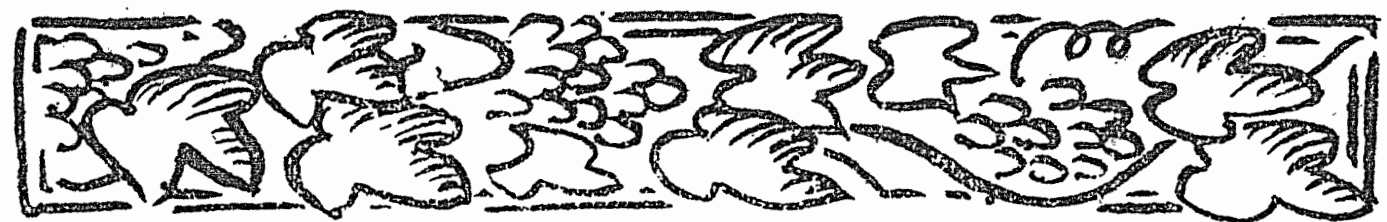
諸君、戰ハ將ニ之カラデアリマス、現ニ皇軍ハ南進ニ南進ヲ續ケテ、東亞共榮ノ範圍愈々擴大シテ居リマスガ、他面北邊ノ護リ及大陸ノ鎮定ニ絶大ナル努力ヲ重ネラレテ居リマス。今ヤ彼ノ「アングロサクソン」ヲ中心トセル從來ノ世界秩序ハ、茲ニ崩壞シ、我國ヲ根幹トスル處ノ新シキ理想ト現實ニ基キ、世界新秩序ヲ打樹テネバナラヌコトハ曩ノ御詔勅ニ明示シ賜フタノデアリマス、之即チ世界歴史ノ一大轉換デアリマス。私共銃後一億國民ハ能ク戰爭ノ將來ヲ洞察シ、益々官民一如、上下一體トナリマシテ、第一線將兵ノ勞苦ヲ心トシ、赤誠ヲ捧ゲ職域ニ奉公シテ、臣道ノ實踐ニ邁進シ只々聖戰一途、斷乎完遂ニ努メルノガ之即チ、大御心ニ應ヘ奉ル銃後奉公唯一ノ道デアルト堅ク信ズル處デアリマス、此ノ際軍都大廣島四十萬市民ヲ代表セラル、各位ニ於カレマシテハ、一層御協力ト御援助アラムコトヲ御願スル次第デアリマス。尙第四期水道擴張費昭和十七年度割額、並市立中學校及實科高等女學校新設及市立高等女學校學級増加ニ伴フ經費ハ、追加提案致シマシタカラ何卒宜敷御願致シマス。

### 軍事援護資金

各町應出額

- △三四、一九横川町三丁目△一八
- 六、〇〇草津濱町△一四四、〇〇大手
- 町一丁目△一〇〇、〇〇立町△三六
- 四、〇〇南蟹屋町△二五〇、〇〇白島
- 中町△一〇〇、〇〇宇品町海岸東部
- △三二〇、〇〇仁保町本浦△一〇四、
- 〇〇西觀音町西部△六〇、〇〇稻荷
- 町東組△一一五、七〇鍛冶屋町△四
- 〇五、〇〇横川町二丁目△一〇〇、〇
- 〇比治山町△七〇、〇〇鐵砲町上組
- △八七、二〇草津本町△八〇、〇〇鹽
- 屋町△七五、〇〇鐵砲町中乙組△二
- 二〇、〇〇似島△三〇、〇〇猿樂町東
- 組△二〇〇、五〇牛田町早稻田區△
- 一〇〇、〇〇上流川町中組△三〇、〇
- 〇愛宕町一丁目△六〇、〇〇播磨屋
- 町△二三八、〇〇五中島本町△一五五、
- 〇〇牛田町新町區△三七九、一〇楠
- 木町三丁目△六五、〇〇宇品町御幸
- 通千丁目△一〇〇、〇〇鐵町下組△
- 四三八、五〇牛田町南町區△一〇〇、
- 〇〇河原町上組△一〇〇、〇〇北樓
- 町△四五〇、〇〇西平塚町△一二〇、
- 〇〇段原町△一七二、七〇宇品町南
- 部港區△六〇、〇〇堺町三丁目△一
- 二〇、〇〇土手町(完)





# 市廳前大道路愈よ決定

以上に關係の圖面は廣島縣廳及廣島市役所に備へ置き縦覽に供せられて居ります。

廣島市都市計畫街路の部中左の路線が新に都市計畫事業路線となり、昭和十六年度から同二十二年度まで七年間の豫定で事業を執行されることになりました。

△紙屋町國泰寺線(紙屋町—大手町八丁目間、延長七四三間、幅員三〇米乃至三六米)  
△十日市横川線(横川驛前に約三千四百四十五平方メートルの廣場を設く)  
△小網町江波線(江波町地内、延長二〇七間、幅員二〇米乃至二二米)  
△船入新實線(水主町—大手町九丁目間、延長二八五間、幅員二五米但明治橋二二米)  
△廣島驛前線(廣島驛前に四千九百五十六平方メートルの廣場を設く)  
△觀音十日市線(北榎町—新市町間、延長一四四間、幅員一五米)  
△觀音町線(南觀音町地内、延長四〇六間、幅員二二米)  
△水主町吉島線(水主町—吉島本町間、延長八四二間、幅員二二米)  
△皆實青崎線(出汐町、霞町、東雲町間、延長一、二八八間、幅員二〇米乃至三八米東雲町に七百八十平方メートルの廣場を設く)  
△横川白島線(横川町三丁目地内、延長七五間、幅員一五米)  
△段原宇品線(出汐町—翠町間、延長五〇七間、幅員一五米)  
△御幸橋東新開線(皆實町三丁目—翠町間、延長三八一間、幅員一五米)  
これ等の路線中には  
一、紙屋町電車交叉點から電車軌道に沿つて南走、鷹野橋に至る市の中央を南北に貫く大幹線道路。  
二、鷹野橋で右の大幹線道路と交叉して船入町に向ひ東西貫通の幹線道路の一部をなす船入皆實線  
があり、更に皆實青崎線は既に事業路線となつてゐる比治山橋、出汐町間の路線が出汐町から東雲町猿橋橋川右岸に延長されるものである一方、この路線は既に完成の比治山橋東詰專賣局東南角間の道路並に新事業路線の御幸橋東新開線、段原宇品線と比治山の南方、皆實町一、二、三丁目に新に環狀道路を出現せしめんとしてゐるをはじめとし△觀音十日市線は電車十日市停留所から西へ天満川左岸に達し  
△觀音町線は既定の路線を更に延長して昭和開の南端に出で、水主町吉島線また水主町バス道と吉島本町南堤防を結び、小網町江波線は今回の決定で小網町から江波海岸まで全線の事業決定となり、近き將來實現の廣島工業港完成に備へられるのであります。



號二十六百第  
創刊日九十月四年七十和昭  
行發日十二月四年七十和昭  
紙五金部一價定  
所役市島廣所行發  
所市島廣所人行發  
所販活弟兄田地社會所刷印  
地番一日丁七町手大市島廣  
地番一日丁七町手大市島廣

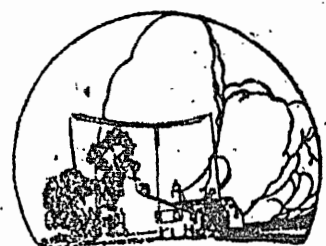
## 主要目次

都市計畫事業路線追加決定さる△警戒警報傳達方法改  
正△尿尿汲取券引換△町籍簿の異動報告  
に就て△市公益質屋貸付限度の引上△市政小講座(厚生施設)△納期獎勵規程大改

正△本年度徴兵検査日割△本年度種痘日割△水道部から御願ひ△配給だより△名譽の戦死者△町内會正副會長異動△衛生組合正副組長異動△叙任及辭令△市役所揭示場に揭示の件名△最近町内會に發送した文書摘録

いさ下てし捺を印・覽回くなれ洩戸全





# 警戒警報傳達

此の欄は必ず常會で朗讀して下さい

警戒警報とその解除との傳達方法は從來區々でありましたが今回これが一部を改善し、全國的に統一されて傳達の迅速確實を期することになりました。この改正で本市に適用の點は大體次の通りであります。

一、主な傳達方法(口頭傳達)  
イ、本市の防空計畫に基き警報を受けた警防分團(詰所)は直ちに分團員をして豫め定めてある擔當區域内の各隣保班長に洩れなく口頭をもつて警報を傳へ(此の際努めて沿道の各戸にも警報を周知するものとす)隣保班長は更にこれを班内各家庭に傳へること。  
ロ、前項の場合に土地の状況により數隣保班を一團として、其の中の一隣保班長(又は幹事等)に警報を傳へ、傳達を受けた隣保班長(又は幹事等)から他の隣保班長に傳達する區域もある。

ハ、警防分團の出動人員等の關係で警防分團から直接隣保班長へ傳達すること。  
ニ、前各項の實施に當つて警報の受領傳達の爲町内會隣保班等詰所を設け代表者を出して常時詰め切つてゐることは長期戦に堪へられないので禁ぜられて居ります。  
ホ、前各項の警報傳達に當つては電話その他の施設を努めて活用すること。  
ヘ、隣保班長は右に依る傳達の外「ラジオ」その他(補助的な傳達)



方法)により警報の發令を知つた時にも速に班内各戸に傳達するやう努めること。  
二、補助的な傳達方法 以上の外補助手段として掲示、旗、吹流、掲燈による傳達方法がありますがこゝには割愛します。  
三、要するに 傳達の方法は統一されましたが之れがため形成的に流れることの無いやう又、土地の状況その他を考慮して實情に適し無理が生じないやうにして迅速確實に傳達するやう警防分團長、町内會長は協議の上で擔當區域内の傳達方法を決定して置くこと  
因に去る二月二十七、八兩日及び三月四、五日の兩度本市で行はれた防空訓練の際に於ける警報傳達は右の方法により實施されましたが何れも好成績であり、就中各家庭への警報傳達は隣保班長の責任であるとの自覺と信念を體得されて積極的に自警報を受領することに留意された向が多かつたことは防空強化のため劃期的進歩と申すべく大いに意を強くされました。(防衛に關することには遠慮なく防衛課にお問ひ下さい)

れば便利のやうですが此の方法は兎角間違ひが起り易いので此の度はこれまでに御買求めになつてゐる「十五錢券」を一應市役所清掃課に御持参を願ひ新しい「二十錢券」とお引換へするの事になりました。この事については前々號の市報でもお知らせしましたがまだ御不案内の方が多く皆様のお手許にある「十五錢券」は遠慮なく防衛課にお問ひ下さい)

## 汲取券引換

本市の尿尿汲取料は從來一荷十五錢でありましたが本年度から「一荷二十錢」と一荷につき五錢値上となりました。就きましては在來の十五錢券に現金五錢を添へてお使ひにな

## 町籍の異動

この點に御留意下さい



生活必需物資の割當は町内會の人口を基準として行はれて居ります。だから今日のやうに割當物資が増へて來ますと町籍簿を常に整理して置くことが大切になつて來ます。これがため各町内の世帯員數及世帯數の異動報告について常に各町内會の方々に一方ならぬ御手数を煩はして居りますが、多い中には往々折角お骨折りで下さつたにも拘らず記入事項の洩れてゐるもの、書き方の間違つたものがありまして町籍簿の整理に困ることがあります。そこで此度多くの隣保班長が御代りになつたことでもありますから御参考までに特に御留意を願ひ度い點について説明して物資の配給に萬全を期し度いと思ひます。何卒意のあるところを御諒察下さいまして一層の御協力を願ひます。

二、内容記入事項  
1、一家族轉入の場合及新に世帯を持つた時  
イ、異動家族の欄に「世帯新設(又は「轉入」と記入し備考欄に前の住所を記入する  
ロ、世帯轉出の跡へ轉入した場合は参考欄に前居住世帯主の氏名を記入のこと、この場合町内會長はなるべく前居住者の異動報告書と共に提出され度い  
ハ、以上の場合には報告書の外に市民調査票をも添へて出して下さい  
2、世帯全部退去の場合 異動家

## 市内傳染病發生月報

(三月中)

町名	發生數	町名	發生數	町名	發生數
仁保町大河	二	西觀音町一	三	比治山町	一
田中町	二	牛田町	三	仁保町向洋	二
下中町	一	西觀音町二	二	新川場町	二
吉島本町	一	西觀音町三	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町四	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町五	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町六	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町七	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町八	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町九	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町十	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町十一	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町十二	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町十三	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町十四	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町十五	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町十六	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町十七	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町十八	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町十九	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町二十	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町二十一	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町二十二	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町二十三	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町二十四	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町二十五	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町二十六	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町二十七	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町二十八	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町二十九	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町三十	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町三十一	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町三十二	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町三十三	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町三十四	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町三十五	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町三十六	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町三十七	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町三十八	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町三十九	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町四十	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町四十一	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町四十二	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町四十三	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町四十四	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町四十五	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町四十六	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町四十七	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町四十八	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町四十九	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町五十	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町五十一	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町五十二	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町五十三	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町五十四	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町五十五	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町五十六	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町五十七	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町五十八	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町五十九	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町六十	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町六十一	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町六十二	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町六十三	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町六十四	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町六十五	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町六十六	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町六十七	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町六十八	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町六十九	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町七十	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町七十一	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町七十二	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町七十三	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町七十四	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町七十五	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町七十六	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町七十七	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町七十八	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町七十九	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町八十	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町八十一	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町八十二	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町八十三	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町八十四	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町八十五	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町八十六	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町八十七	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町八十八	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町八十九	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町九十	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町九十一	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町九十二	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町九十三	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町九十四	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町九十五	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町九十六	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町九十七	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町九十八	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町九十九	二	南榮寺町	二
鶴見町	三	西觀音町一百	二	南榮寺町	二

## 一世帯百圓

市公益質屋の貸付限度引上

質屋は昔からなつや、一六銀行などの愛稱を以て呼ばれ、小額金融機關として庶民生活と切つても切れぬ間柄にあります。政府もこの重要性を認め、昭和二年營利を目的とせぬ公益質屋法を實施し、市町村、公共團體などの質屋經營を助成せられることになり本市でも昭和五年市營東公益質屋(稻荷町、電話中二六番)西公益質屋(天満町、電話西三番)の二箇所を設け親切に小額金融の便宜をはかつて居りますが、利用者は年々増加し昨年は二箇所合せて約壹萬人貸付金七萬餘圓に達しました。市はこの公益質屋利用の實績と市民の要望に鑑みて今回貸付限度を引上げ今までの「一口拾圓」「一世帯五拾圓」であつたのを「一口貳拾圓」「一世帯百圓」に改めることとして只今手続中ですが、この市報が皆さんの御手もとに届く頃にはこの引上限度で御利用を願ふやうになることと思ひます。精々御利用下さい。(公益質屋についてのお問合せは市役所社會課か東、西公益質屋へ)

## 衛生正副組長異動

組合名 役名 前任者 後任者  
富士見組 長 山沖 壽一 森 一夫  
愛宕二丁目 同 福岡三代藏 坂村 義夫  
愛宕三丁目 同 村田萬太郎 鳴輪 久譽  
愛宕四丁目 同 岩本千太郎 鳴輪 久譽  
大手二丁目 同 金澤 仁 青野 健一  
東觀音町二丁目 同 安形 榮 安形 榮  
大手二丁目 同 安形 榮 安形 榮  
(以上上長ハ組長副ハ副組長ヲ示ス)

つと五萬枚位の中お引換済みのものはその五分の一の僅か一萬枚位であります。これを此の儘にして置きますと皆様の御損であり市としては何時までも整理がつかずその間に十五錢券に現金をつけて使はれるやうなことが起りますと益々困ることになりますから古い汲取券をお持ちの方は此の際至急新しい物とお引換へになるやう重ねてお願いいたします。  
●廣島市告示第六五號  
廣島市尿尿汲取手数料條例施行細則例施行細則中改正ノ件  
廣島市尿尿汲取手数料條例施行細則中左ノ通り改正ス  
昭和十七年三月三十一日  
廣島市長 藤田 若水  
第一條中「金拾五錢」ヲ「金貳拾錢」ニ改ム  
附 則  
本細則ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
従前ノ規定ニ依り尿尿汲取券ヲ所持スル者ニ對シテハ本細則ノ汲取料金ニ換算シ新汲取券ト引替ヲ爲ス







廣島市納税獎勵規程は從來交付金の算出基本を納付税額の成績の優劣に依り千分の三、乃至五、を交付して來たが斯くては納税部の地域的關係に於て、納税金額と戸數との比率に差を生じ交付金に不均衡を來す虞があるから、之を緩和するため納付税額最高額を一定の高度に限定して之を是正し、一面既設納税部の成績益々向上しつゝある實情に鑑み納税部未設置町内會には、先づ試案として納税幹旋部を設け之等をも相當優遇して、全町内會に要望し可及的運営を期せんとした改正の要點次の通り

一、納付額令書一通當り平均五十圓を超えるものは五十圓に止め通數を乗じた額を以て納付成績に千分の三、乃至五、を交付することゝせり

二、令書一通に付壹錢を貳錢に引揚げたり

三、一世帯一ヶ年に付納付成績に依り拾六錢乃至貳拾錢を新に交付することゝせり

四、納税の幹旋を爲す町内會に對しては直接現金を取扱はざるを以て納付額に依る交付金なきも其の他は税金取纏め納税部と同様の額を交付することゝせり

五、納税施設後十世帯以上増加したるときは其の増加世帯に對し拾錢宛を交付することゝせり

六、從來町内會以外の團體には有識階級を以て組織し滞納の虞なきを以て之等に對しては町内會納税部同様に交付の必要なきに付單に納付税額に對し其の成績に依り千分の三、乃至五、を交付することゝせり

(參考) 全國百八十六市ノ内百五十八市ハ町内會納税施設済ニシテ成績ノ見ルベキモノアリ未設置町内會ハ日毎ニ増加シツ、アリ

本年の本市徴兵検査日割

●廣島市告示甲第八九號  
昭和十七年度廣島縣區第六徵募區廣島市徵兵署ノ開設日割ヲ左ノ通り  
定ム  
昭和拾七年四月六日

廣島市長 藤田 若水

# 改正の主要點

一世帯ニ對スル年額ハ二分ノ一額ヲ其ノ各期末日現在世帶數ニ依リ計算シ期ノ中途ニ於テ納稅施設ヲ爲シタルモノニ對スル當該年度額ハ之ヲ月割トシ一世帯當錢位未滿ハ錢位ニ滿タシム

第一期其ノ年四月一日ヨリ九月三十日迄

第二期其ノ年十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄

第八條 納稅ニ關スル施設ヲ爲シ獎勵金ヲ受ケムトスルモノハ左ノ事項ヲ市長ニ届出デ其ノ承認ヲ受クベシ

一 納稅施設ニ關スル規約(納稅義務者名簿添付)

二 町内會納稅部事務所、所在地(團體ニ在リテハ其ノ團體事務所)

三 町内會長並ニ納稅部責任者ノ住所氏名(團體ニアリテハ其ノ責任者)

前項ノ届出事項ニ異動ヲ生ジ又ハ納稅施設ノ實行ヲ廢止シタルトキハ其ノ事實ノ生ジタル日ヨリ五日以内ニ市長ニ届出ヅベシ

第九條 市長ハ納稅成績優良ト認ムルトキハ之ヲ表彰スルコトアルベシ

納稅ニ關シ功勞顯著ノ者アルトキ亦同ジ

第十條 納稅部ノ責任者又ハ團體責任者(以下單ニ責任者ト稱ス)ハ毎月七日迄ニ前月中ニ納付シタル令書ノ通數、金額及滯納者氏名ヲ第一號樣式及第三號樣式ニ依リ市長ニ届出ヅベシ

第十一條 責任者ハ第三號樣式ニ依リ、獎勵金受拂簿ヲ備ヘ受拂事項ヲ明カニスベシ

第十二條 市長ハ吏員ヲシテ納稅ニ關スル諸帳簿ノ檢査ヲナサシムルコトアルベシ

附 則

第十三條 本規程ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 従前ノ規程ニ依リ市長ノ承認ヲ受ケタル町内會其ノ他ノ團體ハ本規程ニ依リ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

第十五條 昭和十六年四月二十二日廣島市告示甲第六十二號廣島市納稅獎勵規程ハ昭和十七年三月三十一日限り之ヲ廢止ス但シ昭和十六年度分ニ對スル獎勵金ノ交付ニ關シテハ仍従前ノ規程ニ依ル

第一號樣式

附則

月分  
納稅金額  
報告書

「何」町内會長

[illegible]

第二號樣式

月分税金滞納者報告

「何」町内會長

[illegible]

第三號樣式

獎勵金受拂簿

[illegible]

納稅獎勵金交付額  
覽表

[illegible]

## 昭和十七年廣島市徴兵検査日割表

徵兵署  
ノ位置

檢 査 町 名

廣島市泰國寺町廣島市公會堂			
六月一日	大須賀町、松原町、猿猴橋町、荒神町、若草町、尾長町、愛宕町、蟹屋一圓	六月八日	休務
六月二日	段原一圓、桐木町、比治山町、的場町、金屋町、稻荷町、松川町、東雲町、大洲町、京橋町、臺屋町	六月九日	千田町一圓、平野町、南竹屋町、中島本町、中島新町、天神町、材木町、元柳町、水主町、木挽町、吉島一圓、西地方町、河原町、舟入一圓、小網町、西新町、牛田町
六月三日	宇品町、元宇品町、土手町、皆賀一圓、翠町、比治山本町、比治山公園	六月十日	寺町、西引御堂町、西九軒町、廣瀬北町、廣瀬元町、錦町、江波町、似島町
六月四日	仁保一圓	六月十一日	橫堀町、新市町、北榎町、榎町、西大工町、堺町三、四丁目、天滿一圓、己斐町、古田町
六月五日	旭町、霞町、出汐町、白鳥一圓、二葉ノ里、八丁堀、鐵砲町、上流川町、胡町、東胡町、上柳町、幟町、橋本町、石見屋町、山口町、堀川町、銀山町、斜屋町、下柳町、彌生町、矢賀町	六月十二日	觀音一圓、福島町、山手町、中廣町、南三篠町、三篠本町一圓、打越町
六月六日	藥研堀、富士見町、昭和町、寶町、鶴見町、竹屋町、下流川町、田中町、平塚町、三川町、新川場町、猿樂町、平田屋町、播磨屋町、草屋町、紙屋町、研屋町、東魚屋町、西魚屋町、立町、小町、下中町、中町、袋町、鐵砲屋町、基町、細工町、横町、鳥屋町、鹽屋町、尾道町、大手町一圓、國泰寺町、雜魚場町、鷹匠町、空鞘町、左官町、鍛冶屋町、十日市町、油屋町、猫屋町、塚本町、堺町一、二丁目	六月十三日	津一圓、庚午町、庚午北町一圓
六月七日		六月十四日	
六月八日		六月十五日	各町入寄留者
六月九日		六月十六日	各町入寄留者
六月十日		六月十七日	各町入寄留者
六月十一日		六月十八日	各町入寄留者
六月十二日		六月十九日	各町入寄留者
六月十三日		六月二十日	各町入寄留者
六月十四日		六月二十一日	各町入寄留者
六月十五日		六月二十二日	各町入寄留者
六月十六日		六月二十三日	各町入寄留者
六月十七日		六月二十四日	各町入寄留者
六月十八日		六月二十五日	各町入寄留者
六月十九日		六月二十六日	各町入寄留者
六月二十日		六月二十七日	各町入寄留者
六月二十一日		六月二十八日	各町入寄留者
六月二十二日		六月二十九日	各町入寄留者
六月二十三日		六月三十日	各町入寄留者
六月二十四日		七月一日	各町入寄留者
六月二十五日		七月二日	各町入寄留者
六月二十六日		七月三日	各町入寄留者
六月二十七日		七月四日	各町入寄留者
六月二十八日		七月五日	各町入寄留者
六月二十九日		七月六日	各町入寄留者
六月三十日		七月七日	各町入寄留者
七月一日		七月八日	各町入寄留者
七月二日		七月九日	各町入寄留者
七月三日		七月十日	各町入寄留者
七月四日		七月十一日	各町入寄留者
七月五日		七月十二日	各町入寄留者
七月六日		七月十三日	各町入寄留者
七月七日		七月十四日	各町入寄留者
七月八日		七月十五日	各町入寄留者
七月九日		七月十六日	各町入寄留者
七月十日		七月十七日	各町入寄留者
七月十一日		七月十八日	各町入寄留者
七月十二日		七月十九日	各町入寄留者
七月十三日		七月二十日	各町入寄留者
七月十四日		七月二十一日	各町入寄留者
七月十五日		七月二十二日	各町入寄留者
七月十六日		七月二十三日	各町入寄留者
七月十七日		七月二十四日	各町入寄留者
七月十八日		七月二十五日	各町入寄留者
七月十九日		七月二十六日	各町入寄留者
七月二十日		七月二十七日	各町入寄留者
七月二十一日		七月二十八日	各町入寄留者
七月二十二日		七月二十九日	各町入寄留者
七月二十三日		七月三十日	各町入寄留者
七月二十四日		八月一日	各町入寄留者
七月二十五日		八月二日	各町入寄留者
七月二十六日		八月三日	各町入寄留者
七月二十七日		八月四日	各町入寄留者
七月二十八日		八月五日	各町入寄留者
七月二十九日		八月六日	各町入寄留者
七月三十日		八月七日	各町入寄留者
八月一日		八月八日	各町入寄留者
八月二日		八月九日	各町入寄留者
八月三日		八月十日	各町入寄留者
八月四日		八月十一日	各町入寄留者
八月五日		八月十二日	各町入寄留者
八月六日		八月十三日	各町入寄留者
八月七日		八月十四日	各町入寄留者
八月八日		八月十五日	各町入寄留者
八月九日		八月十六日	各町入寄留者
八月十日		八月十七日	各町入寄留者
八月十一日		八月十八日	各町入寄留者
八月十二日		八月十九日	各町入寄留者
八月十三日		八月二十日	各町入寄留者
八月十四日		八月二十一日	各町入寄留者
八月十五日		八月二十二日	各町入寄留者
八月十六日		八月二十三日	各町入寄留者
八月十七日		八月二十四日	各町入寄留者
八月十八日		八月二十五日	各町入寄留者
八月十九日		八月二十六日	各町入寄留者
八月二十日		八月二十七日	各町入寄留者
八月二十一日		八月二十八日	各町入寄留者
八月二十二日		八月二十九日	各町入寄留者
八月二十三日		八月三十日	各町入寄留者
八月二十四日		八月三十一日	各町入寄留者
八月二十五日		九月一日	各町入寄留者
八月二十六日		九月二日	各町入寄留者
八月二十七日		九月三日	各町入寄留者
八月二十八日		九月四日	各町入寄留者
八月二十九日		九月五日	各町入寄留者
八月三十日		九月六日	各町入寄留者
八月三十一日		九月七日	各町入寄留者
九月一日		九月八日	各町入寄留者
九月二日		九月九日	各町入寄留者
九月三日		九月十日	各町入寄留者
九月四日		九月十一日	各町入寄留者
九月五日		九月十二日	各町入寄留者
九月六日		九月十三日	各町入寄留者
九月七日		九月十四日	各町入寄留者
九月八日		九月十五日	各町入寄留者
九月九日		九月十六日	各町入寄留者
九月十日		九月十七日	各町入寄留者
九月十一日		九月十八日	各町入寄留者
九月十二日		九月十九日	各町入寄留者
九月十三日		九月二十日	各町入寄留者
九月十四日		九月二十一日	各町入寄留者
九月十五日		九月二十二日	各町入寄留者
九月十六日		九月二十三日	各町入寄留者
九月十七日		九月二十四日	各町入寄留者
九月十八日		九月二十五日	各町入寄留者
九月十九日		九月二十六日	各町入寄留者
九月二十日		九月二十七日	各町入寄留者
九月二十一日		九月二十八日	各町入寄留者
九月二十二日		九月二十九日	各町入寄留者
九月二十三日		九月三十日	各町入寄留者
九月二十四日		十月一日	各町入寄留者
九月二十五日		十月二日	各町入寄留者
九月二十六日		十月三日	各町入寄留者
九月二十七日		十月四日	各町入寄留者
九月二十八日		十月五日	各町入寄留者
九月二十九日		十月六日	各町入寄留者
九月三十日		十月七日	各町入寄留者
十月一日		十月八日	各町入寄留者
十月二日		十月九日	各町入寄留者
十月三日		十月十日	各町入寄留者
十月四日		十月十一日	各町入寄留者
十月五日		十月十二日	各町入寄留者
十月六日		十月十三日	各町入寄留者
十月七日		十月十四日	各町入寄留者
十月八日		十月十五日	各町入寄留者
十月九日		十月十六日	各町入寄留者
十月十日		十月十七日	各町入寄留者
十月十一日		十月十八日	各町入寄留者
十月十二日		十月十九日	各町入寄留者
十月十三日		十月二十日	各町入寄留者
十月十四日		十月二十一日	各町入寄留者
十月十五日		十月二十二日	各町入寄留者
十月十六日		十月二十三日	各町入寄留者
十月十七日		十月二十四日	各町入寄留者
十月十八日		十月二十五日	各町入寄留者
十月十九日		十月二十六日	各町入寄留者
十月二十日		十月二十七日	各町入寄留者
十月二十一日		十月二十八日	各町入寄留者
十月二十二日		十月二十九日	各町入寄留者
十月二十三日		十月三十日	各町入寄留者
十月二十四日		十月三十一日	各町入寄留者
十月二十五日		十一月一日	各町入寄留者
十月二十六日		十一月二日	各町入寄留者
十月二十七日		十一月三日	各町入寄留者
十月二十八日		十一月四日	各町入寄留者
十月二十九日		十一月五日	各町入寄留者
十月三十日		十一月六日	各町入寄留者
十月三十一日		十一月七日	各町入寄留者
十一月一日		十一月八日	各町入寄留者
十一月二日		十一月九日	各町入寄留者
十一月三日		十一月十日	各町入寄留者
十一月四日		十一月十一日	各町入寄留者
十一月五日		十一月十二日	各町入寄留者
十一月六日		十一月十三日	各町入寄留者
十一月七日		十一月十四日	各町入寄留者
十一月八日		十一月十五日	各町入寄留者
十一月九日		十一月十六日	各町入寄留者
十一月十日		十一月十七日	各町入寄留者
十一月十一日		十一月十八日	各町入寄留者
十一月十二日		十一月十九日	各町入寄留者
十一月十三日		十一月二十日	各町入寄留者
十一月十四日		十一月二十一日	各町入寄留者
十一月十五日		十一月二十二日	各町入寄留者
十一月十六日		十一月二十三日	各町入寄留者
十一月十七日		十一月二十四日	各町入寄留者
十一月十八日		十一月二十五日	各町入寄留者
十一月十九日		十一月二十六日	各町入寄留者
十一月二十日		十一月二十七日	各町入寄留者
十一月二十一日		十一月二十八日	各町入寄留者
十一月二十二日		十一月二十九日	各町入寄留者
十一月二十三日		十一月三十日	各町入寄留者
十一月二十四日		十二月一日	各町入寄留者
十一月二十五日		十二月二日	各町入寄留者
十一月二十六日		十二月三日	各町入寄留者
十一月二十七日		十二月四日	各町入寄留者
十一月二十八日		十二月五日	各町入寄留者
十一月二十九日		十二月六日	各町入寄留者
十一月三十日		十二月七日	各町入寄留者
十二月一日		十二月八日	各町入寄留者
十二月二日		十二月九日	各町入寄留者
十二月三日		十二月十日	各町入寄留者
十二月四日		十二月十一日	各町入寄留者
十二月五日		十二月十二日	各町入寄留者
十二月六日		十二月十三日	各町入寄留者
十二月七日		十二月十四日	各町入寄留者
十二月八日		十二月十五日	各町入寄留者
十二月九日		十二月十六日	各町入寄留者
十二月十日		十二月十七日	各町入寄留者
十二月十一日		十二月十八日	各町入寄留者
十二月十二日		十二月十九日	各町入寄留者
十二月十三日		十二月二十日	各町入寄留者
十二月十四日		十二月二十一日	各町入寄留者
十二月十五日		十二月二十二日	各町入寄留者
十二月十六日		十二月二十三日	各町入寄留者
十二月十七日		十二月二十四日	各町入寄留者
十二月十八日		十二月二十五日	各町入寄留者
十二月十九日		十二月二十六日	各町入寄留者
十二月二十日		十二月二十七日	各町入寄留者
十二月二十一日		十二月二十八日	各町入寄留者
十二月二十二日		十二月二十九日	各町入寄留者
十二月二十三日		十二月三十日	各町入寄留者
十二月二十四日		十二月三十一日	各町入寄留者
十二月二十五日		一月一日	各町入寄留者
十二月二十六日		一月二日	各町入寄留者
十二月二十七日		一月三日	各町入寄留者
十二月二十八日		一月四日	各町入寄留者
十二月二十九日		一月五日	各町入寄留者
十二月三十日		一月六日	各町入寄留者
十二月三十一日		一月七日	各町入寄留者
一月一日		一月八日	各町入寄留者
一月二日		一月九日	各町入寄留者
一月三日		一月十日	各町入寄留者
一月四日		一月十一日	各町入寄留者
一月五日		一月十二日	各町入寄留者
一月六日		一月十三日	各町入寄留者
一月七日		一月十四日	各町入寄留者
一月八日		一月十五日	各町入寄留者
一月九日		一月十六日	各町入寄留者
一月十日		一月十七日	各町入寄留者
一月十一日		一月十八日	各町入寄留者
一月十二日		一月十九日	各町入寄留者
一月十三日		一月二十日	各町入寄留者
一月十四日		一月二十一日	各町入寄留者
一月十五日		一月二十二日	各町入寄留者
一月十六日		一月二十三日	各町入寄留者
一月十七日		一月二十四日	各町入寄留者
一月十八日		一月二十五日	各町入寄留者
一月十九日		一月二十六日	各町入寄留者
一月二十日		一月二十七日	各町入寄留者
一月二十一日		一月二十八日	各町入寄留者
一月二十二日		一月二十九日	各町入寄留者
一月二十三日		一月三十日	各町入寄留者
一月二十四日		一月三十一日	各町入寄留者
一月二十五日		二月一日	各町入寄留者
一月二十六日		二月二日	各町入寄留者
一月二十七日		二月三日	各町入寄留者
一月二十八日		二月四日	各町入寄留者
一月二十九日		二月五日	各町入寄留者
一月三十日		二月六日	各町入寄留者
一月三十一日		二月七日	各町入寄留者
二月一日		二月八日	各町入寄留者
二月二日		二月九日	各町入寄留者
二月三日		二月十日	各町入寄留者
二月四日		二月十一日	各町入寄留者
二月五日		二月十二日	各町入寄留者
二月六日		二月十三日	各町入寄留者
二月七日		二月十四日	各町入寄留者
二月八日		二月十五日	各町入寄留者
二月九日		二月十六日	各町入寄留者
二月十日		二月十七日	各町入寄留者
二月十一日		二月十八日	各町入寄留者
二月十二日		二月十九日	各町入寄留者
二月十三日		二月二十日	各町入寄留者
二月十四日		二月二十一日	各町入寄留者
二月十五日		二月二十二日	各町入寄留者
二月十六日		二月二十三日	各町入寄留者
二月十七日		二月二十四日	各町入寄留者
二月十八日		二月二十五日	各町入寄留者
二月十九日		二月二十六日	各町入寄留者
二月二十日		二月二十七日	各町入寄留者
二月二十一日		二月二十八日	各町入寄留者
二月二十二日		二月二十九日	各町入寄留者
二月二十三日		二月三十日	各町入寄留者
二月二十四日		二月三十一日	各町入寄留者
二月二十五日		三月一日	各町入寄留者
二月二十六日		三月二日	各町入寄留者
二月二十七日		三月三日	各町入寄留者
二月二十八日		三月四日	各町入寄留者
二月二十九日		三月五日	各町入寄留者
二月三十日		三月六日	各町入寄留者
二月三十一日		三月七日	各町入寄留者
三月一日		三月八日	各町入寄留者
三月二日		三月九日	各町入寄留者
三月三日		三月十日	各町入寄留者
三月四日		三月十一日	各町入寄留者
三月五日		三月十二日	各町入寄留者
三月六日		三月十三日	各町入寄留者
三月七日		三月十四日	各町入寄留者
三月八日		三月十五日	各町入寄留者
三月九日		三月十六日	各町入寄留者
三月十日		三月十七日	各町入寄留者
三月十一日		三月十八日	各町入寄留者
三月十二日		三月十九日	各町入寄留者
三月十三日		三月二十日	各町入寄留者
三月十四日		三月二十一日	各町入寄留者
三月十五日		三月二十二日	各町入寄留者
三月十六日		三月二十三日	各町入寄留者
三月十七日		三月二十四日	各町入寄留者
三月十八日		三月二十五日	各町入寄留者
三月十九日		三月二十六日	各町入寄留者
三月二十日		三月二十七日	各町入寄留者
三月二十一日		三月二十八日	各町入寄留者
三月二十二日		三月二十九日	各町入寄留者
三月二十三日		三月三十日	各町入寄留者
三月二十四日		三月三十一日	各町入寄留者
三月二十五日		四月一日	各町入寄留者
三月二十六日		四月二日	各町入寄留者
三月二十七日		四月三日	各町入寄留者
三月二十八日		四月四日	各町入寄留者
三月二十九日		四月五日	各町入寄留者
三月三十日		四月六日	各町入寄留者
三月三十一日		四月七日	各町入寄留者
四月一日		四月八日	各町入寄留者
四月二日		四月九日	各町入寄留者
四月三日		四月十日	各町入寄留者
四月四日		四月十一日	各町入寄留者
四月五日		四月十二日	各町入寄留者
四月六日		四月十三日	各町入寄留者
四月七日		四月十四日	各町入寄留者
四月八日		四月十五日	各町入寄留者
四月九日		四月十六日	各町入寄留者
四月十日		四月十七日	各町入寄留者
四月十一日		四月十八日	各町入寄留者
四月十二日		四月十九日	各町入寄留者
四月十三日		四月二十日	各町入寄留者
四月十四日		四月二十一日	各町入寄留者
四月十五日		四月二十二日	各町入寄留者
四月十六日		四月二十三日	各町入寄留者
四月十七日		四月二十四日	各町入寄留者
四月十八日		四月二十五日	各町入寄留者
四月十九日		四月二十六日	各町入寄留者
四月二十日		四月二十七日	各町入寄留者
四月二十一日		四月二十八日	各町入寄留者
四月二十二日		四月二十九日	各町入寄留者
四月二十三日		四月三十日	各町入寄留者
四月二十四日		四月三十一日	各町入寄留者
四月二十五日		五月一日	各町入寄留者
四月二十六日		五月二日	各町入寄留者
四月二十七日		五月三日	各町入寄留者
四月二十八日		五月四日	各町入寄留者
四月二十九日		五月五日	各町入寄留者
四月三十日		五月六日	各町入寄留者
四月三十一日		五月七日	各町入寄留者
五月一日		五月八日	各町入寄留者
五月二日		五月九日	各町入寄留者
五月三日		五月十日	各町入寄留者
五月四日		五月十一日	各町入寄留者
五月五日			



定期種痘施行二關スル件

●廣島市告示第九三號

明治四十二年法律第三十五號種痘法ニ依り本年定期種痘左ノ通り施行ス  
昭和十七年四月十三日

廣島市長 藤田若水

- 一、種痘並ニ検診期日及場所別表ノ通り
- 二、種痘ヲ受クベキ者左ノ如シ
- 一、數ハ二歳ノ者(昭和十六年出生者)第一期
- 二、數ハ二歳ノ者(昭和十六年出生者)第二期
- 但シ定期前二年以内ニ種痘ヲ受ケ善感シタル證ヲ有スル者ヲ除ク
- 三、前年定期種痘ニ善感並ニ猶豫中ノ者
- 四、從前ノ指定期日ニ種痘ヲ受ケズ其ノ他種痘ヲ怠リ又ハ之ヲ受ケタル證跡不明ナル未成年者
- 三、病氣其ノ他事故ニ因リ指定期日迄ニ種痘ヲ受ケコト能ハザル場合ハ其ノ事由ヲ具シ猶豫ヲ申出ラレバシ又檢診ヲ受クルコト能ハザル事由アルトキハ其ノ旨届出ラレバシ
- 四、本市種痘所外ニ於テ種痘ヲ受ケタル場合ハ種痘證ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ届出ラレバシ

昭和十七年種痘並ニ檢診期日及場所

(毎日自午後一時至午後四時)

種痘月日	檢診月日	種痘受ク可キ者ノ居住區域	期別	種痘並ニ檢診場所
五月四日	五月十日	宇品國民學校通學區域	第一期	宇品國民學校
五月五日	五月十一日	宇品	第二期	宇品
五月六日	五月十二日	千田	第一期	千田
五月七日	五月十三日	似島	第二期	似島
五月八日	五月十四日	袋町	第一期	袋町
五月九日	五月十五日	楠那	第二期	楠那
五月十日	五月十六日	大河	第一期	大河
五月十一日	五月十七日	大手	第二期	大手

五月九日	五月十五日	仁保國民學校通學區域	第一、二期	仁保國民學校
五月十六日	五月廿二日	大手	第二期	大手
五月十八日	五月廿三日	比治山	第一期	比治山
五月十九日	五月廿四日	中島	第二期	中島
五月廿五日	五月三十日	皆實	第一期	皆實
五月廿六日	六月一日	江波	第二期	江波
五月廿七日	六月二日	舟入	第一期	舟入
五月廿八日	六月三日	竹屋	第二期	竹屋
五月廿九日	六月四日	神崎	第一期	神崎
五月三十日	六月五日	神崎	第二期	神崎
六月一日	六月六日	觀音	第一期	觀音
六月二日	六月七日	觀音	第二期	觀音
六月三日	六月八日	段原	第一期	段原
六月四日	六月九日	段原	第二期	段原
六月五日	六月十日	觀音	第一期	觀音
六月六日	六月十一日	觀音	第二期	觀音
六月七日	六月十二日	天滿	第一期	天滿
六月八日	六月十三日	天滿	第二期	天滿
六月九日	六月十四日	白島	第一期	白島
六月十日	六月十五日	白島	第二期	白島
六月十一日	六月十六日	本川	第一期	本川
六月十二日	六月十七日	本川	第二期	本川
六月十三日	六月十八日	廣瀬	第一期	廣瀬
六月十四日	六月十九日	廣瀬	第二期	廣瀬
六月十五日	六月二十日	牛田	第一期	牛田
六月十六日	六月廿一日	牛田	第二期	牛田
六月十七日	六月廿二日	荒神	第一期	荒神
六月十八日	六月廿三日	荒神	第二期	荒神
六月十九日	六月廿四日	尾長	第一期	尾長
六月二十日	六月廿五日	尾長	第二期	尾長
六月廿一日	六月廿六日	三篠	第一期	三篠
六月廿二日	六月廿七日	三篠	第二期	三篠
六月廿三日	六月廿八日	矢賀	第一期	矢賀
六月廿四日	六月廿九日	福島	第二期	福島
六月廿五日	七月初一日	青崎	第一期	青崎
六月廿六日	七月初二日	古田	第二期	古田
六月廿七日	七月初三日	己斐	第一期	己斐
六月廿八日	七月初四日	草津	第二期	草津



西  
合  
二  
三

△家庭用鶏卵(第六回) 三月一日(尾長)、一七日(荒神)、一八日(青崎)、一九日(牛田、仁保、大河)、二〇日(段原、比治山、白鳥)、二一日(宇品)、二三日(皆賀、磯町、竹屋)、二五日(楠那)、二六日(似鳥)、二七日(廣瀬、大手、舟入、中島)、三〇日(大芝、本川)、三一日(天滿、四月一日(江波、袋町、神崎)、三日(千田)、四日(已斐、三篠西部、部)。

△家庭用甘藷(第五回) 三月二〇日(比治山、仁保、楠那、大河、皆賀)、二一日(宇品、白鳥、磯町、竹屋、千田、大手、中島、廣瀬、本川、舟入、大芝、神崎、江波、觀音、福島、已斐、二七日(牛田、尾長)、三一日(青崎、荒神、四月二日(比治山)、四日(段原)。

△同(第六回) 四月二日(仁保、楠那、大河、皆賀、宇品、白鳥、磯町)、四日(竹屋、千田、大手町)。

△家庭用馬鈴藷(第二回) 三月二八日(牛田、尾長、青崎、荒神、段原)、三二日(比治山、仁保、楠那、大河、皆賀、宇品、白鳥、磯町、竹屋、千田、袋町、大手町)、四月八日(中島、廣瀬、本川、神崎、舟入、大芝、江波、三篠東部、三篠西部、觀音、已斐、福島、古田、草津)。

△同(第三回) 牛田、尾長、青崎、荒神、段原、比治山)。

△家庭用食料油(第三回) 三月二六日、家庭用配給 一人當約七勺餘見當。

△家庭用小麥粉(第四回) 三月二四日 全市配給 一人當約八十五見當。

△家庭用干麵 三月一三日全市配給 一人當約百六十匁見當。

△幼兒用ビスケット(三月分) 四月三日

全市配給 満一才ヨリ満三才マデノ幼  
兒一人當二十五匁入り一袋強

昭和十七年四月一日告示ヲ以テ廣島市吉島羽衣町々内會ヲ廢止シ左ノ町内會ヲ設置サレタリ					
町内會名	區	域	設置年月日		
吉島羽衣町一丁目	吉島羽衣町内	昭和十七年			
町内會	南大橋筋以北	四月一日			
吉島羽衣町二丁目	吉島羽衣町内	昭和十七年			
町内會	南大橋筋以南	四月一日			
昭和十七年四月一日告示ヲ以テ廣島市愛宕町々内會區域ノ一部ヲ分割シ左ノ町内會ヲ設置サレタリ					
町内會名	區	域	設置年月日		
西愛宕町々内會	愛宕町内五十番地並百七十七番地以西	昭和十七年四月一日			
<b>町内會正副會長異動</b>					
就任	退任				
職氏名	職氏名				
已斐上町區副楡木田精二					
東青崎町同石井俊夫	副平賀保				
東雲町上組同結城壽輔	同金井源一				
同中野末治	同川野信吉				
段原中町中					
字品町御幸					
通三丁目	長塚田清二郎	同稻野皓次郎			
西蠟屋町上	同須郷勸一	同原田伴美			
旭町	副玉田勤吾	同奥本德一			
同	同岩崎爲美				
出汐町同矢鳥要八					

昭和十七年四月一日告示ヲ以テ廣島市吉島羽衣町々内會ヲ廢止シ左ノ町内會ヲ設置サレタリ	町内會名 吉島羽衣町一丁目 町内會 吉島羽衣町二丁目 町内會	區 吉島羽衣町内 南大橋筋以北 吉島羽衣町内 南大橋筋以南	設置年月日 昭和十七年四月一日 昭和十七年四月一日
昭和十七年四月一日告示ヲ以テ廣島市愛宕町々内會區域ノ一部ヲ分割シ左ノ町内會ヲ設置サレタリ	町内會名 西愛宕町々内會	區 愛宕町内五十番地並百七十七番地以西	設置年月日 昭和十七年四月一日

大河聯合町 同會	同	西柳町 通	元柳町	西愛宕町	東觀音町二丁目北區	西觀音町二丁目北區	字品町神田通八丁目	同二丁目	吉鳥羽衣町一丁目	組上流川町中	元柳町	昭和町東部	東雲町上組	國泰寺町眞菰組	西觀音町二丁目北部	同	御幸組	字品町南部	目千田町一丁	目千田町一丁	東觀音町二丁目中區	堺町、三丁目
長內藤章	同森發登	同川本勉	同豐田龍次郎	長眞木光藏	副下土井雅夫	岡松原澤一	同齋藤勲	同渡部久次郎	長內藤明	副田坂重實	同成宮惣五郎	同脇本彌市	同河尻定義	長勝原平三郎	同	同大平靜雄	同國廣積	同西田齊	同大木剛	同長谷川宇一	同西林繁雄	
長杉村政太郎	同須郷勤一	同須郷勤一	同副士田留吉		副畠山忠夫		長渡部賢吉			副新井長次郎	同市川佐與吉	同立座宥慈	同藤本鶴一	同田中近太郎	長松原澤一				副堀田正吉		副三宅定夫	

この一票の行使

# 不在省投票の活用

大東亞樂く力だこの一票——愈よ來る四月三十日は衆議院議員總選舉ですが投票當日不在のため定められた投票所で投票の出来ない選舉有權者のうち左の各項のつに當る方は不在者投票が出來ますから尊い一票を無駄にせぬため是非とも不在者投票をされなくてはなりません。

高橋	恆三殿	宇品町
有川	正實殿	同町
中村	重夫殿	江波町
中原	佐六殿	段原中町
中村	勲殿	轅町
西村	義人殿	荒神町
近藤	喜久雄殿	已斐町
對尾	學殿	研屋町
繩手	忠殿	横堀町
海作	榮一殿	仁保町
福岡	豐殿	猿猴橋町
品川	武殿	福島町
森本	直光殿	平塚町
中川	一男殿	水主町
熊本	政彥殿	白島九軒町
中村	堯殿	小網町
中野	正夫殿	段原中町
山下	一美殿	東觀音町一
水戸	信春殿	荒神町
中村	豐殿	南觀音町
岡本	常俊殿	宇品御幸通
後藤	中殿	段原日出町
兒玉	健殿	廣瀬元町
金子	素也殿	段原末廣町
胡井	馨殿	仁保町伏鱗
住田	倭輝殿	三瀧町
瀨野	文治郎殿	吉島本町
海軍二機兵倉本	光久殿	仁保町東條
軍屬	寺本	米助殿
同	越智	勝巳殿
同	井上	美司殿
同	山縣	晉一殿
同	柿林	茂人殿
同	安藤	國雄殿
同	本田	正一殿
同	徵用工員	平塚町
同		鷹匠町
同		同丁目
同		皆實三丁目
同		天滿町
同		楠木一丁目
同		元宇品町
同		仁保町東條
同		吉島本町
同		三瀧町
同		段原日出町
同		廣瀬元町
同		段原末廣町
同		仁保町伏鱗
同		三瀧町
同		吉島本町
同		仁保町東條
同		元宇品町
同		楠木一丁目
同		天滿町
同		皆實三丁目
同		同丁目
同		鷹匠町
同		平塚町

大東亞築くかだこの一票——愈よ來る四月三十日は衆議院議員總選舉ですが投票當日不在のため定められた投票所で投票の出来ない選舉有權者のうち左の各項の一つに當る方は不在者投票が出来ますから尊い一票を無駄にせぬため是非とも不在者投票をされなくてはなりません。

<p>大型船舶 の乗組員</p> <p>總噸數二十噸以上の船舶（潮州港灣のみ航行する船舶は除く）の船員又は乗つてゐる者で投票當日に船の中</p>	<p>中型船舶 の乗組員</p> <p>總噸數五噸以上の船舶及び十噸未満の船舶が潮州港灣のみに航行する船舶の船員又は乗つてゐる者で投票當日に船の中</p>	<p>鐵道列車 の乗務員</p> <p>鐵道係員、郵便取 道列車に何時も鐵 道列車に乗つてゐる者で投票當日に</p>
<p>選舉期日の公布のあつた日から選 舉の日の前 日迄の間に 不在者投票 が出来来る</p>	<p>選舉期日前 十日（四月 三十日）を 選舉の日の 前日とする 間に不在者 投票が出来 来る</p>	<p>同 右</p>

選舉關係者	自己の屬する投票區域外で選舉事務取票所監視、選舉關係その他選舉に關する者で投票當事する者で投票區域外で職務に従事することになつてゐる者	應召中の陸海軍人	艦船乗組員たる軍屬	職務又は業務の爲の長期旅行者	住居移轉者
者	ことになつてゐる	陸海軍々々人で投票日に演習召集中又は教育召集中になつてゐる者	艦船乗組の軍屬で投票當日海上に勤務することになつてゐる者	引續き十日以上市外に出掛け泊り込み職務又は業務に従事する者で常例に従事する者で投票當日にも市外で職務又は業務に従事することになつてゐる者	昨年の選舉人名簿同調製期日後市外へ住居を移した者で
者	ことになつてゐる	選舉期日公布のあつた日の前日迄の間不在者投票が出来る	同右	同右	同右

市役所前揭示場  
揭示の告示件名

そこで不在者投票をされるについでの手續ですが、これについてはなるべく早く市役所選舉課（電話中五三〇〇番）へ問合せられて手續が済めば右に定められた期間中であれば平日は勿論日曜日、祭日でも午前八時より午後四時半迄の間に市役所で投票が出来ることになつて居ります。

市外で職務又は業務に従事してゐる者

三月二十五日 町内會副會長異動ノ件、徵兵署開設日割ノ件、助役元山修二退職ノ件

三月二十六日 廣島市有給吏員定員規程中改正ノ件、町内會副會長異動ノ件

三月三十日 町内會正副會長異動ノ件

三月三十一日 廣島市屎尿汲取手數料條例施行細則中改正ノ件、昭和十六年度歲入出豫算追加更正、同歲入出豫算追加二件、同特別會計都市計畫事業歲費入出豫算追加更正、同特別會計都市計畫事業草津町附近土地區劃整理地區事業費費入出豫算更正、昭和十六年度廣島市特別會計都市計畫事業庚午町四



廣島市外四都市生活用品  
小賣價格指數比較表

廣島市役所産業部統計課編

註 昭和十七年二月調 (第三回)  
昭和十二年七月ヲ 100 トス

品 目	廣島市	東京市	京都市	神戸市	熊本市
飲 食 料 品	172.0	180.9	170.7	166.8	179.4
米 麥 類	147.5	120.0	133.2	144.7	145.4
鮮 魚 介 類	216.4	209.6	208.9	165.3	200.7
蔬 菜 類	164.6	183.5	169.5	150.8	177.8
乾 物 類	221.8	213.8	202.4	203.2	187.8
調 味 類	129.2	116.8	115.3	117.2	137.0
酒 類	149.5	132.0	150.5	141.5	142.8
菓 子 類	171.4	202.7	183.3	196.4	173.0
果 實 類	206.2	158.5	193.5	172.5	173.0
飲 料	175.2	162.0	166.0	179.0	145.5
(其ノ他略)					
居 住 關 係 品	207.6	224.4	196.3	190.5	152.9
住宅造作料	155.5	186.7	154.0	158.3	169.2
家具及什器	245.4	264.0	228.1	216.4	242.4
光熱材料品	163.1	149.3	149.7	163.5	182.0
燃 料	178.8		159.6	176.2	
(其ノ他略)					
被服身裝品	227.0	269.2	228.7	223.8	210.1
衣 料	211.8	265.4	229.8	232.9	224.5
身ノ廻リ品	253.3	275.8	226.5	208.0	195.7
醫藥衛生材料	171.8	159.6	153.8	148.3	142.1
雜 品	146.7	150.5	159.0	112.0	139.2
(其ノ他略)					
總 平 均	186.7	198.2	179.9	177.1	174.0

備考 (廣島市欄) ○印は先月より騰貴した物品  
△印は先月より低落した物品  
本月に於ても依然として物價は昂騰の一途を辿つてゐるが  
其の中身裝品の如きは前月より3パーセントの昂騰率を示  
している、吾人の銃後消費生活は愈々完璧なる緊縮陣を布  
かねばならぬ事を痛感させられる、即ち從來の不急不急の  
出費を制するといふ常套意識より遙に透徹した自肅生活を  
實行しなければならぬ現實を本指數表は明示してゐるの  
ではないか。

- 島市共済組合條例施行細則中左ノ通  
リ改ム
- 昭和十七年三月十八日  
廣島市長 藤 田 若 水
- 第三條第二項ヲ削ル  
第六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ  
第六條ノ一 組合員ヲ分チテ特別組  
合員及普通組合員トス  
健康保險ノ被保險者ヲ特別組合員  
ト謂ヒ其ノ他ノ者ヲ普通組合員ト  
謂フ
- 第十條 第一項ヲ左ノ如ク改ム  
組合員ハ掛金トシテ毎月給料ヲ受  
クル都度左ノ金額ヲ組合ニ納付ス  
ベシ但シ錢位未滿ノ端數アルトキ  
ハ之レヲ切捨ツルモノトス  
一、特別組合員 給料月額ノ百分  
ノ〇・五  
二、普通組合員 給料月額ノ百分  
ノ一
- 第十五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ  
第十五條ノ一 法令其ノ他ノ規程ニ  
基キ組合ノ爲スベキ給付ト、同種  
ノ給付ヲ受クル者ニ付テハ本組合  
ノ給付ハ之レヲ爲サズ但シ他ヨリ  
受クル給付額本組合ノ給付額ヨリ  
尠キトキハ其ノ差額ヲ支給ス  
給付事由ガ第三者ノ行爲ニ因リテ  
生ジタル場合ニ於テ其ノ第三者ヨ  
リ給付ヲ受クルトキ亦同ジ
- 第二十八條中「但シ他ノ規定ニ依リ  
療治料ノ給付ヲ受クル場合ハ此ノ  
限ニ在ラズ」トアルヲ「但シ重症  
又ハ入院ヲ要スル疾病ニ關シテハ  
査定ノ上其ノ初日より起算シテ前  
項ノ給付ヲ行フ」ニ改ム
- 第三十條 但書ヲ削ル

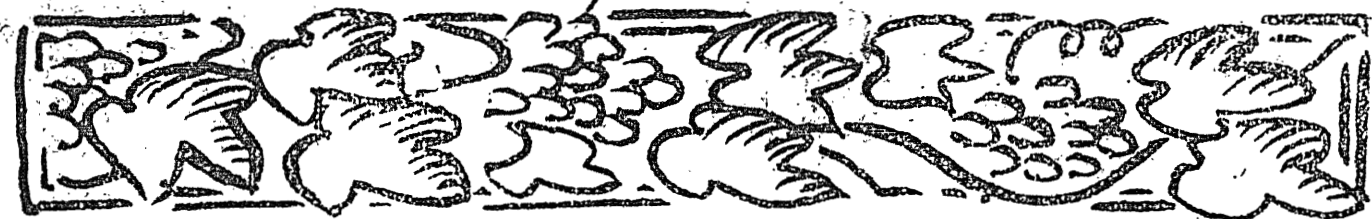
近土地區劃整理地區事業歳入出豫  
算追加、昭和十七年度歳入出豫算  
追加六件、同特別會計廣島工業港  
修築費歳入出豫算追加、廣島市負  
債整理委員手當金支給規程制定ノ  
件  
四月一日 廣島市有給吏員定員規程  
中改正ノ件、町内會區域分割設置  
ノ件、廣島市納稅獎勵規程改正ノ  
件、町内會廢止設置ノ件  
四月二日 度量衡ニ關スル甲種取締  
執行ノ件、町内會正副會長委嘱ノ  
件  
四月四日 廣島市都市計畫街路事業  
及其ノ執行年度割中變更ノ件二  
件、廣島市都市計畫街路ノ部中變  
更ノ件、廣島市都市計畫街路事業

及其ノ執行年度割決定ノ件、不在  
者投票事由該當證明書交付取扱時  
間ノ件、選舉運動ノ爲ニスル演說  
會ニ關スル公營ノ程度等ニ關スル  
件中心部改正告示ノ件、選舉運動  
ノ爲ニスル演說會ニ關スル公營ニ  
納付スベキ費用額ノ件一部改正告  
示ノ件  
四月六日 町内會正副會長異動ノ件  
四月七日 市道路線認定變更ノ件、  
町内會正副會長異動ノ件  
四月九日 徴兵署開設日割ノ件  
◎廣島市告示第八七號  
市道路線認定變更ノ件  
市內牛田町地内市道一〇號線ヲ左記  
ノ通り認定變更シ變更ニ依リ不用ニ

線路變更		線 舊	
線路名	線路名	線路名	線路名
一〇號 牛田町 同上	終起點及 終點及 牛田町 同上	一〇號 牛田町 同上	終起點及 終點及 牛田町 同上
〇・九二 二四・八六	巾一 員般	〇・九二 二四・八六	巾一 員般
	延長		延長

廣島市共済組合條例  
施行細則中改正ノ件  
昭和十六年四月三十日達甲第九號廣  
島市長 藤 田 若 水





### 七月の常會徹底事項

一、七月七日は支那事變勃發五周年記念日です。大東亞戦争の動因となつた此の事變を回想し、在支五年に亘る皇軍の勞苦に感謝し、國民政府の育成強化、重慶政權覆滅の國民的決意を新にし大東亞戦争完遂を期しませう。

(註) 支那事變は大東亞戦争に包含するので、支那事變記念日としての行事は行はれません。

二、七月十三日より一週間全國に「戦時國民防諜強化運動」が實施せられます。國民は皆防諜戰士です。戦ひが長期に渉るほど敵國の秘密活動は熾烈化します。諜報、宣傳、謀略に日常の業務、生活を通じて細心の注意を拂ひ、殊に思想謀略に掛らぬ様致しませう。

三、七月は「戦時生活實踐郵便貯金強調月」です。左記に依り郵便貯金の増加を圖り皇軍の大戦果に應へませう。

(一)本年四月から郵便貯金の一人の預入制限額は五千圓に引き上げられました。  
(二)毎月の大詔奉戴日から八日間彈丸切手(一枚二圓)が全國の郵便局で賣り出

# 廣島市報

號四十六百第

創刊日九十月六年七十和昭  
行發日十二月六年七十和昭  
錢五金部一價定  
所役市島廣所行發  
市島廣廣廣  
所版活第兄田増式社會所刷印  
地番一目丁七町手島廣  
雄番一目丁七町手島廣

### 主要目次

七月の常會徹底事項  
△廣島市會議員當選者告示△戸籍關係法律の改正△町内會助成金増額△「常會の頁」乳幼児の體力検査、恩給扶助料受給用戶籍謄抄本の省略、軍事援護事

業、國税に移管の家屋税△市民體育指導者(東部)△名譽の戦死者△町内會長異動△衛生組合長異動△市内傳染病發生月報△配給だより△最近町内會に發送文書摘錄△市役所前揭示場に揭示の告示件名△市立圖書館增加圖書目錄△家庭と計量

### 矢賀新町

(一)貯蓄は貯金切手の外に定額、積立貯金  
が理想的ですから毎戸一口以上必ず預入すること。  
四、例年の通り七月二十一日から八月二十日迄毎朝六時全國一齊に早起ラヂオ體操會が催されます。會場は國民學校の外に適當な空地を利用して、一人でも多く参加し、體力の錬成を圖りませう。  
五、六月割當の國債二百萬圓、債券百二十萬四千圓は必ず完全消化を期しませう

土地區劃整理の結果廣島市大洲町矢賀町の町名を改稱および字廢止ならびに區域變更を七月一日から實施する旨六月三日附指令訓士經第三一二號で廣島縣知事の許可を得た。(括弧内は舊町および字)

矢賀新町一丁目(大洲町一丁目、同二丁目、矢賀町岩鼻、同下組)矢賀新町二丁目(大洲町二丁目、同三丁目、矢賀町岩鼻)矢賀新町三丁目(大洲町三丁目、同四丁目、矢賀町岩鼻、大須)矢賀新町四丁目(大洲町四丁目、同五丁目、矢賀町、大須)矢賀新町五丁目(大洲町五丁目、同六丁目、矢賀町)矢賀新町六丁目(大洲町六丁目、矢賀町大須)矢賀新町七丁目

いさ下てし捺を印・覽回くなれ渡戸全









法律により行はれます

幼児 昭和十六年四月一日以後に  
 生れた乳幼児  
 二、検査を受けさせる義務者 その乳  
 幼児の保護者です  
 三、検査する項目 身體計測、栄養狀  
 態、疾病異常の検査をして 栄養の  
 指導や疾病異常の療養指導をする  
 のです

乳幼児に對しては、體力検査を受けた乳幼児に對してはその保護者に國の制定した體力手帳を交付することになつてゐます、この體力手帳は非常に大切なもので乳幼児が男子の場合

イ、乳幼児國民體力管理醫（今迄乳幼児指導醫と呼び全市で四十名位縣より委嘱せられます）之は體力検査や療養の指導をする如、巡回指導婦（今迄の通りで各學區平均八名位縣より委嘱）之は開業の産婆で指導を要する母性、乳幼児の體力向上に對し巡

恩給又は扶助料の受給者に對して、これまで受給權調査が行はれ陸軍の軍人及び警察、監獄職員として恩給を受ける者は昭和の偶數年の一月に、又其の遺族は其の七月に、其の他の公務員として恩給を受ける者は奇數

回指導をする

ハ、母性補導委員（今迄の通りで各學區に平均十名位市より委嘱）之は乳幼児體力検査に關する種々の事務に協力し體力向上指導に奉仕する

以上簡単に説明したのでありますが從來市に實施して居ります乳幼児健康相談に比べて體力手帳に關することを除いては殆んど異りませんので現在實施のものを其のまゝ繼續し乳幼児體力検査といたします。只今迄とは違ひ法令に依つて行ふことになつたのですから各學區の母性補導委員から検査の日時、場所等を告知された時は必ず検査を受けて下さい。検査を受けねば體力手帳の交付はなく體力手帳がないと今後種々都合が生じますからこの點充分注意して下さい、尙是れ迄の健康相談實施に該當乳幼児でありながら告知を受けたことがないといふ向は市體力課乳幼児係へ御報せ願ひます。（體力課）

年の一月に又其の遺族は其の七月に夫々恩給を受ける人の場合には戸籍抄本、又扶助料を受ける人の場合は戸籍謄本に受給權調査票に添へて提出しなければならなかつたのですが本年四月一日恩給法施行令附則第二條によりこれ等の書類は提出する必要がなくなりましたから此の爲めにする戸籍謄、抄本は取る必要ありません。

東千田町事	禰宜元 末四郎	長加登	鎮男
段原日出町	一	副小倉	康弘
堀川町事	山下	靈吾長	九岡
錦町	同吉田庄次郎	同小字羅讚一	才吉
千田三北組	同宮川	貫一	同宮本
中水主町	同永井眞三郎	同朝田	良一
西大工町	同阿部常三郎	同松野梅三郎	
天神町北組	同天城	慶一	同中村
牛田新町區	同酒井	春一	同牛尾
同東區	同白川	忠男	同田頭新太郎
已斐本町區	同杉本學次郎	同田中	恭造
段原山崎町	同中野	清同香川	土太
三篠本二東	同桑原	虎一	同倉本
草津濱町	同藪崎	良一	同橋本
堺町四丁目	同阿波	新一	同後藤
細工町	一	副島本	秀吉
草津本町	一	一	同播本啓次郎
堀越町	一	一	同橋本
段原東浦下	副藤本眞喜太	一	一
南觀音二北	同中畝	清市	一
同大元	同文助	一	一
仁保町丹那	同長中野	博實長	大田爲四郎
鐵砲町下組	同事加藤	琢郎	同河瀬
健吉			

(以上長は會長、副は副會長、事は會長事務取扱を示す)(以下次號)

衛生組合名	役名	前任者	後任者
桐木町	長	皆崎 誠一	稻田 美穗
鶴見本町	同	(新設)	石原 滿槌
鶴見町	同	(同)	今中小三郎
的場町	同	川崎 彌一	川崎 彌市
尾長荒通	同	上杉 亦市	吉岡清之助
金屋町下組	同	山中 吾一	橋本 實文
仁保町小磯	同	渡部 邦彦	渡船 貞一

倍々の協力を要望

大東亞戰爭を勝ち抜くためには、強くすぐれた將兵の健闘と、國民渾身の銃後奉公活動とが絶対條件であります。この二つの働きを結び、紐帶として、銃後國民が軍人とその遺族に對して、精神的、物質的に凡ゆる援助、慰藉を完うし、以て將兵の盡忠奉公の働きにこたへることが

仲良く隣組

急務中の急務であります。そこに軍人援護事業の大きな意義があるのであります。この事業は畏くも上皇室の御仁慈により、國、府縣、市町村、恩賜財團軍人援護會等が、それぞれ立場から現役又は應召の軍人、傷痍軍人、軍屬、その遺族、家族に對し

- 1、生活、生業、醫療、助産、災害等の扶けをなし
- 2、子弟の育英、職業再教育、職業の輔導斡旋等に力を添へ
- 3、現地、病院、家庭等への慰問、慰藉、奉仕を行ふ

など、ありと凡ゆる方面に互つて力

昭和十五年の税制改正では是れ迄地方税(縣稅)であつた家屋稅が國稅に編入せられ愈々本年度から國稅として納付せらるゝこととなり其の第一期分(年二期六月十一月に分納)の告知書は既に夫々配付済でありますところでの告知書には縣及び市の附加税と都市計畫税とを併記してあつて何れも同時に納めて頂くことゝなつて居りますから一見納稅額に狂ひが出来たかのやうな思ひがされるかも知れませんが實賃價格に異動ない限り従前の稅額と同額であります即ち

本市では昭和十四年十月廣島市銃後奉公會を組織し、本部を市役所に設け、市長を會長に、各町内會を分會に、町内會長をその分會長として前記の援護と表裏一體の活動をつゞけて居りますが、その財源は主として市民の赤誠による寄附金でありますから、皆さんが一層この事業の意義を認識されて、倍々の御協力を要望してやまぬ次第であります。なほ援護事業については何卒御遠慮なく最寄り町内會長、方面委員又は市役所社會課へ御問合せ下さい。

## の家屋税

本市では去る五月十五日庚午北町十丁目以南の庚午北町及び庚午町の區域を庚午町々内會區域から分割して庚午南町内會を設置され同日附告示甲第一二四號を以て公示された

國稅額と縣稅附加稅額の合計額は從前の縣稅額と全く同額でありまして又市の附加稅及び都市計畫稅に就ても從前の額と何等の變動がないのであります尤も御承知の通り家屋稅の課稅標準たる賃賃價格は家屋稅法の規定に基き昨年中稅務署で新に調査決定せられたのであります但其の調査方法が從前の方法と全く相違する爲個々の家屋に就ては若干の増減を來たして居りますから從て家屋稅額が從前に比し何程か相違して居る譯であります。

鶴見町	副(新設)	長谷川英一	岸本
鶴見本町	同(同)	鷹狹之助	増田邦藏
同	同(同)	吉松好太郎	渡部功
的場町	同	同	同
尾長荒神通	同	金谷數男	檜垣芳太郎
段原町	同(缺員中)	水田直次郎	同
仁保町小磯	同	高下博之	上原英雄
若草町西組	同	榎並繁一	井上庫一
南觀音町三	同	長城廣四	田中稅
吉島本町一	同	前太郎吉	芥川勇
大手四丁目	同	永登範一	渡部數太郎
細工町	同	黒川節司	黒川節司
國泰寺北組	同	増谷宗太郎	土井田仁平
三篠本三北	同	西本米吉	川淵修市
鍛冶屋町	同	田中久吉	田中久吉
南三篠一區	同(新設)	瀨田	晋
同二區	同(同)	西村熊太郎	同
同三區	同(同)	岡野格之助	同
南觀音二南	副	三澤與一	砂田正美
鍛冶屋町	同	熊澤寶一	熊澤寶一
同	同	三原	三原
南三篠一區	同(新設)	鍛冶虎雄	鍛冶虎雄
同二區	同(同)	竹原榮	同
同三區	同(同)	石井清一	同
同	同(同)	木村昇	同
大手四丁目	同	本田鶴藏	松島彦太郎
西觀音二西	同(缺員中)	織田省三	同
細工町	同	野田峯太郎	中澤愛次郎
南觀音町	同	火浦曉	火浦曉
東觀音二中	同	島崎高次	藤本勘三郎
同南區	同	奥田三七	香川徹吉
國泰寺北組	同	檜山衆助	増谷宗太郎
字品東中組	同	長中元國三	西本勇
字品町錦華	同	辻川英一	阿部勳平
字品東中組	副岡	政三鳥越	竹一

(以上長は組合長、副は副組合長を示す)





買物と計量

品物を買ふ時注意しなければならぬ事はその物の量目であり、量目と云ふのは、金銭の量目であり、誰でもよく知つて居りますが、此の大切な金と物を交換する時、その量目なり又は品質に就ては、これまで割合に關心が薄かつた様に思はれます。釣銭は、一々勘定するが、量目は別段に調へない。又釣銭は一銭の不足でも遠慮なく請求するが、量目の不足を調へることは昔から甚だ賤しいことの様に考へて假りに氣付いても、黙つて済ますと云ふ風です。然しよく考へて見ると量目の不足は釣銭の不足よりも損失が大きい場合が多いと云ふことに氣付かねばなりません。斗樽で買つた醤油(實量九升)が一升も不足して居たり、白米十四班(約一斗)で三百瓦(約二合)も切れたり、五合量詰の酒が七合も足りなかつたりするのは屢々我々の経験するところであり、この

位の不足は僅かなものだ。取るに足らぬものだと簡単に片付ける方もありますが、之れは大變な間違ひでありまして、例へば白米一斗(約五圓)に付一升の不足は金高にして約五十銭の損失、小鯛二百瓦に付八十瓦の不足は十七銭で買へるものを三十銭で買つたことになるのであります。特に日用必需品は毎日絶えず買ひ求めてゐるのでありますから、此の損失を通算すれば實に驚く程の数字に上るであらう。なほ秤がピンとねたから目方は十分ある、勉強して呉れたと思ふことは甚だ危険でありまして、秤の使ひ方で殊更安く賣つた様に見せかける方法にいろ／＼と奥の手があり、こんな商人には兎角信用の置けない者が多いのであります。

品物を買ふ時錢目買ひの方法は努めて改めねばなりません。例へばこの菓子を買ふ時、あつた林檎を三十銭と云ふ様な買方は、買ふ方でもいく

市内傳染病發生月報

町名	發生數	東白島町	廣瀬北町	三條本町	千田三丁目
牛田町	四	西白島町	廣瀬元町	三條本町三	南竹屋町
愛宕町	一	仁保町向洋	舟八川町	打越町	皆賀二丁目
猿橋町	一	仁保町淵崎	南觀音町	福島町	仁保町大河
土手町	二	竹屋町	東觀音町	江波町	計
段原東浦町	一	鍛冶屋町	西觀音町	宇品町	六
大洲町	一	堺町二丁目	觀音本町	旭町	
三川町	一	大手八丁目	横堀町	千田一丁目	
下流川町	一	鷹匠町	中廣町	千田二丁目	

調理食事前に  
先づ手を洗へ

傳染病流行季が來た

梅雨に入りました。このじめじめした季節から夏に入つて著しく赤痢や疫痢やチフス等の消化器系傳染病が流行致します。これらの傳染病は口より這入つて大小便として排泄されるのであります。口を締める事は此の病氣を防ぐ最大の要件であることは、皆様の篤と御承知の事と存じますが、之れが實行されないとか不徹底な爲に、とかこの病氣にかゝることになるのです。

豫防上の注意

調理して時間の経過したものや、

最近町内會へ發  
送した文書摘録

五月九日 空襲罹災者收容假設住宅に關する件(管轄課) 二日 市會議員選舉提要、議員候補者詮衡協議會の開き方(以上指導課) 一五日 小兒及大人の人口調査に就て(商工課) 一八日 國民貯蓄獎勵講演會開催の件(指導課) 一九日 不在者投票に付(同上) △防空訓練實施の件(防衛課) 二三日 土地其他のものを受用し又は購入したる者等報告の件(指導課) 廣島機械工訓育所第十六回修業生募集の件(商工課) 三〇日 六月常會申合實踐事項に關する件(指導課) 家庭用菓子割當配給制實施に關する件(商工課) 六月一日 防空用吸上ポンプ整備状況調査の件(防衛課) 二日 甘藷苗蠶絲旋用電燈カパーに因る火災發生に關する件(以上指導課) 八日 金屬特別回收ビラ送付の件(指導課)

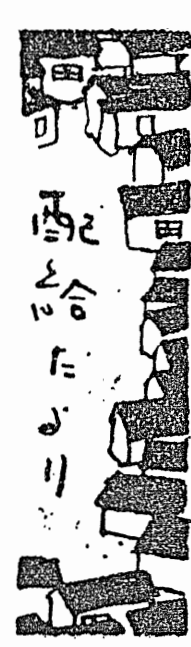
市民體育指導者

本市では曩に市民體育指導者養成講習會を開き檢定の結果此の程市民體育指導者百三十二名決定しました。

是等の方々は今後市民體育祭の各學區豫選會並に夏季ラヂオ體操會の指導を行ひ又は各町内會のハイキング

不正商人も居りますから、よく注意して成るべく別々に秤つて貰つて買ふ様にせねばいけません。又廢品を賣却する場合でも量目取引のものは豫め自分で量を確かめて置いて賣る様に致したいものです。

以上買物に就ての大體の注意を列挙致しましたが、まだ此の他に色々の無駄や損失が豫想外のところに伏線張つてゐるでせうから、常に計量觀念を働かせて之れ等の伏線を上手に突破せねばなりません。又、買物をする時には之れを使ふ時のことを十分考へ合せてその選擇、調理、配合等に氣を配り、どの位の量を買つたら適當であるかを判斷して最低量で最大の効果をあげるやうに心掛けたいものです。(つづく)



五月十日 生牛乳優先配給實施  
同 十三日 第一回煎子特別配給(本年一月軍用宿營町内會に限る)  
同 十九日 一般家庭用砂糖特配(一人に付〇・三斤)  
同 廿六日 本年第二回干麴配給(一人當一〇〇〇丸強)  
同 廿七日 第三回追加食料油配給(三人に付一合の割合)  
同 廿八日 第一回化粧石鹼配給(約四人半に付一個の割合)  
六月一日 六月分家庭用菓子配給(一ヶ月に付十三歳以下三十錢十四歳以上二十錢)  
同 十日 本年第二回雜穀配給(一人當四勺強)

東部體育指導者

段原中町上組 猪原薫 △廣島地方專賣局和利喜代一、小倉茂 △金屋町上組 五島久登、東岡末三 △南段原町一丁目 本保逸男 △南段原東浦町下組 佐藤唯夫 △段原東浦町 中井輝夫 △臺屋町 熊本武夫 △段原中町 上西兼雄、清原薫 △中國配電營業所 坂平敏則 △東屋町東組 平尾昌幸 △西屋町本通 米田裕、井上時夫 △松原町 松井義夫、大石渡 △皆賀町三丁目西組 小川武、平田一 △愛宕町一丁目 二宮勇 △廣島簡易保險支局 石田勝、福岡由之 △牛田町旭町區 塚野玄夫、中本淳六 △牛田南町 松江正直 △宇品東部下組 龜澤馨 △宇品町神田通一丁目 長谷新助、木村久實 △皆賀町二丁目西組 小田伍郎、範重康 △出汐町 鈴木三 △神田通八九丁目 齊藤勳、西本荏爾 △上柳町 鎌田孝吉 △東新天地 池田軍次兵衛、加藤恒三郎、尾田實 △胡町 本幸一、阿部正弘、熊谷秋次郎 △橋本町 織田貞、藏田信次郎 △昭和町南部 栗栖北吾 △下柳町 木下義人、地後壽彦 △東平塚町 山崎數信 △廣島驛前郵便局 倉本茂 △鐵砲町中甲組 戸田隆夫 △日本勸業銀行 山平忠夫、河野正男 △幟町 佐々木博文、中山厚己 △安藝鐵工合資會社 山村弘三、渡邊美利 △新天地 藤井佐市



市役所前揭示場  
揭示の告示件名

五月十二日 町内會正副會長異動ノ件、  
聯合町内會副會長異動ノ件  
同 十一日 土地立入告示ノ件  
同 十三日 受益者負擔ニ關スル件二件  
廣島市町内會助成規程施行細則中改正ノ件  
同 十四日 市道路線區域變更ノ件  
同 十五日 町内會分割設置ノ件、町内會長異動ノ件  
同 十六日 町内會副會長異動ノ件  
同 二十日 受益者負擔ニ關スル件二件  
町内會正副會長異動ノ件、土地立入通知ノ件  
同 二十一日 市會議員選舉執行ノ件、市會議員選舉ノ件四件、第一工業學校學

則變更ノ件、廣島市立高等女學校學則變更ノ件、廣島市立商業學校學則變更ノ件、第二商業學校學則變更ノ件、第二工業學校學則變更ノ件、市立實科高等女學校學則變更ノ件、市立中學校學則變更ノ件、市會議員選舉ノ件二十九件、町内會長異動ノ件  
同 二十二日 異動家屋ニ對スル家屋賃貸價格通知書縦覽ノ件、市會議員選舉ノ件二十件  
同 二十三日 町内會長異動ノ件、市會議員選舉ノ件七件  
同 二十四日 市會議員選舉ノ件  
同 二十五日 度量衡ニ關スル甲種取締執行ノ件、町内會長異動ノ件、市會議員選舉ノ件二十六件  
同 二十六日 町内會長異動ノ件、市會議員選舉ノ件二十二件  
同 二十七日 同上五件

同 二十八日 町内會正副會長異動ノ件、市會議員選舉ノ件二件  
同 二十九日 同上六件、町内會正副會長異動ノ件  
同 三十日 市會議員選舉ノ件六件  
六月一日 同上三件、廣島市商業學校學則變更ノ件、廣島市第二商業學校學則變更ノ件、町内會正副會長異動ノ件  
同 三日 同上  
同 四日 同上  
同 五日 町内會長異動ノ件、市會議員選舉ノ件五件  
同 六日 同上二件、町内會正副會長異動ノ件  
同 七日 市會議員選舉ノ件三件  
同 八日 同上六件、町内會長異動ノ件  
同 九日 市會議員選舉ノ件九件、町内會長異動ノ件  
同 十日 市會議員選舉ノ件

廣島市外四都市生活用品  
小賣價格指數比較表

廣島市役所産業部統計課編

註 昭和十七年四月調 (第五回)

昭和十二年七月ヲ 100 トス

品 目	廣島市	東京市	大阪市	京都市	神戸市
飲 食 料 品	177.1	185.1	177.2	172.6	170.7
米 麥 類	148.0	115.0	114.0	133.2	144.7
鮮 魚 介 類	226.4	209.1	203.3	208.9	165.3
蔬 菜 類	175.5	191.0	171.9	175.8	160.5
乾 物 類	228.1	216.8	242.0	202.4	208.5
調 味 類	129.9	117.3	115.0	115.3	117.2
酒 類	149.5	136.0	140.5	150.5	146.5
菓 子 類	176.4	215.0	208.3	183.3	200.0
果 實 類	206.2	163.5	163.5	193.5	172.5
飲 料	175.2	162.0	147.0	166.0	179.0
(其ノ他略)					
居 住 關 係 品	210.6	230.0	218.6	199.3	194.8
住宅造作料	165.2	187.7	179.0	154.7	162.3
家具及什器	245.9	272.8	258.2	232.6	221.4
光 熱 材 料 品	168.1	167.0	159.8	161.7	171.3
燃 料	185.2	180.4	171.8	174.0	185.6
(其ノ他略)					
被 服 身 裝 品	231.8	268.4	277.9	233.2	223.0
衣 料	217.7	263.7	305.5	234.3	232.3
身ノ廻リ品	256.1	275.9	235.3	231.3	207.0
醫 藥 衛 生 材 料	180.6	160.4	147.7	137.7	150.2
雜 品	153.8	151.0	142.0	173.0	112.0
(其ノ他略)					
總 平 均	189.7	201.6	195.6	183.0	180.2

備考 (廣島市欄)

○印ハ先月ヨリ騰貴シタ物品

△印ハ先月ヨリ低落シタル物品

增加圖書目錄 (一)

廣島市立淺野圖書館

◇地政學 岩田孝三 一圓

簡明に地政學的特色を充分に現はし、當面の問題に重點を置き、本質に於ては一切の地政學への見解を示し、外貌を明かにし、日本地政學編成の理由と必要にまで言及して居る。

◇ナチスの厚生文化―歡喜力行團の研究―近藤春雄 一圓五十錢

ナチス研究家として定評あり、殊に文化政策論者として独自の境地に立つ著者がその理念と實踐、機構と活動の兩面に互つて、最も優れた態様をもつナチス獨逸の厚生文化運動―歡喜力行團の組織と事業を紹介したものである。

◇第四フランス通信 瀧澤敬一 一圓五十錢

著者多年の在佛生活による隨筆で、旅行者には窺ひ知られぬフランス人の生活を寫し、社會世相の動きを紹介してゐる

◇歴史の確證 秋山謙藏 二圓五十錢

内閣情報局の寫眞週報に「生活と歴史」と題して執筆した史論を以て構成し、近代戰の性格に應じ我々の歴史は常に現實的必要性を認めなければならぬことを表明して居る。

◇米英東亞侵略史 大川周明 一圓廿錢

大東亞戰の世界的意義、日本の莊嚴な世界史的使命を表示したもので、著者の放送講演に多少の補訂を加へたものである

◇吉田松陰の思想と教育 玖村敏雄 三圓二十錢

僅か三十年に過ぎなかつた生涯に於ける吉田松陰の教育思想を究明した新舊の論稿を輯録したものである

◇蒙古の歐洲遠征 岩村忍 一圓四十錢

本書は蒙古軍のヨーロッパ侵入を中心として、その前後を敘述した戰史で、引用書目の記載は研究者にとって便益を與へる。